

俺の彼女はロリ巨乳で
動画配信者でクラスメ
イトで銀髪ツインテ
オッドアイで紐パンで
中二病！

緋枝路 オシエ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

学力も、運動神経も、チンポの長さも平凡。

面白い物なんて何も持ち合わせてない、何処にでも居る男子ながら、エロ漫画の主人公では無いし、本人も極めて面倒くさがりでやる気が無かったの、モテないしクラスの空気だった領帝レミヤ。

死んだ後の転生先に期待すらしていた童貞が、たった一つだけ欠かさずに見ている動画がある。

中二病系動画配信者として、大人気な銀髪ツインテロリ巨乳、それがまさか：：クラ
スメイトだったなんてッ!?

もう進路を考える時期、彼が彼女と共に決めた生き方、それは
エロあり回には ♡ をタイトル横へ付ける事にしました。

*ノクターンノベルでも掲載しております。

*イメーჯイラストはうなぎ団子様に制作していただきました。

目次

配信 1 2	配信 1 1	配信 1 0	配信 9	配信 8	配信 7	配信 6	配信 5	配信 4	配信 3	配信 2	配信 1
♡	♡	♡	♡	♡	♡	♡					♡
78	74	68	62	58	48	42	34	27	18	13	1

配信 2 5	配信 2 4	配信 2 3	配信 2 2	配信 2 1	配信 2 0	配信 1 9	配信 1 8	配信 1 7	配信 1 6	配信 1 5	配信 1 4	配信 1 3
♡	♡	♡		♡	♡	♡	♡	♡	♡	♡	♡	♡
148	142	134	130	126	122	115	110	104	99	94	90	84

配信 3 8	配信 3 7	配信 3 6	配信 3 5	配信 3 4	配信 3 3	配信 3 2	配信 3 1	配信 3 0	配信 2 9	配信 2 8	配信 2 7	配信 2 6
♡	♡		♡	♡	♡	♡	♡	♡	♡	♡	♡	♡
206	203	200	195	192	189	184	180	176	173	168	162	155

配信 終	配信 4 0	配信 3 9
♡	♡	♡
221	216	211

配信1



「はアアツ？ ふヒヤアア！ あア！ ううううー！！ 生のしえつくすう！ 本当のエツチ気持ちいいのおおくく？ ああンツ？ レミヤ君、レミヤ君？ もつとギユツとしてっ？ 私もおまんこでギユツくくするからああふあ、あああ、ンツ？くくく？」

はア、はア！ はア！ くツ、ああああアツ！！ 一ヶ月前まで処女だったのに、生セツクスに溺れたマーキング済みのおまんこに、一ヶ月前まで童貞だった、俺のチンポが抉り、叩き、擦り往復し、躍り食い。

水膨れのように肥えていた亀頭の縦筋からは、挿入する前から我慢汁の玉つころを生んでは落とし、生んでは落としとフェラされても、平均以下の背丈や高校男児が前に立つだけで、余裕に隠れてしまう体形に不釣り合いな、それこそ『1つだけ願いを叶えてやる』と創世神が与えてくれた、禁断の果実を独り占めしたHカップに——— 当たり前だがパイズリだつてどちらも未経験——— チンポ挟まれている時も、ずっと絶えず生成していたので、

既に膣奥まで到達していると、リアル経験はまだ拙いながらも、彼女のアクメ間際の

ロリボイスや、オッドアイに浮かぶ心と気持ちの意匠である？ 模様などから、俺の我慢汁を受け止めて妊娠の準備をしてくれていると、判断くらいは行える余裕は持てる様になった。

いや…… ” 17歳、高校生、クラスメイト、ロリ巨乳!! 銀髪!! ツインテールう!! オーバーニーソ!! オッドアイいい!!”

この『ぼくがかんがえた さいきょうの萌えキャラ属性』みたいな容姿をしている、俺としても琴線を発火振動させまくられる、高級フルーツのギフトセットか、眠らない夜の街最上級の宴料理な、彼女だけでお腹いっぱい、他の女の子はどうでも良くなる姪欲の避雷針!

「お部屋のなかあああんツくく! エツチな匂いでいっぱいひやひよオオくく?? あはあツ、あああツツ? レミヤ君わらつ…… ひイツくくく? あああくく? ああああ——!!—— ああああああくくツ??……… ひツ……? う………?」

グヂュゴツ、ヂュゴツ! チュツゴツ!

バヂュツ! パジユツ! ずぢよぢよ、パンツツ! パンツ! パンツ パンツ!
ヂュツ、ヂュツ、ヂュツ、ヂュツ!

ビクビクッ！ ビクッ！！? ビク、ンッ——

グビユツ、びゅびゅびゅくくくく！ ふぢゆつ、ふぢゆつ…… びびゆぐつ…… ぢゆぶろつ、ぐぢゆつ、ドロオ…… ところおく……

自分から特に『モテよう！』なんて、努力はしてなかったのもあるけどさつ、ずつくと童貞で居るか、二十歳になったらソーブランドで捨てるかくらいのも、選択肢しか保有出来なかつた俺に『彼女が出来て』、それが性癖にブスブス貫通するめつつつちや！
可愛くておっぱい大きい子で！

今こうして、睡眠薬飲ませた訳でもなく！ 媚薬を盛つた訳でもなく！ 仲間達とレイプしている訳でもない！

合意の上で膣内射精——なかだし——してしまえる関係！ 俺の彼女をゲットしたのだっ！！

「あ…… あああ……？ あ————？ あくくくくく？ なかでえ…… しゃせえ……？ レミヤくんのせーえきい……？ わたひのおまんこしあわせおぼえちやつたのお……？」

学び舎での学業が終わった放課後、彼女の現住所である借りアパートは『とある理由から』、極度な防音対策設備に生まれ変わっており、声優が発生練習したり、ギターリストが真夜中に弾きまくったとしても、隣の部屋には絶対に聞こえないまでの、吸音材をふんだんに採用しているのだからか。

最もセックスや異性に興味のある年頃の俺達が、喘ぎ声や結合音を気にせずに、チンポで雌を突いて、マンコで雄を閉じ込め、膣内射精を繰り返そうがお隣さんには、シント……と、住人すら誰も居ないと思わせるくらいの沈黙ぶりかもしれない。

揺れ対策に地盤改良工事済みのアパート選んだらしいから、正常位でヤツていた『ギシツ、ギシツ』も可能な限り、抑えてくれるけど彼女としては、別の用途と目的があつて選んだのだ。

「ハー……ッハー……ッ……うっ、うむっ、下僕にしてはじよ、上出来だったぞ！」

ククククハハハあ!! ふしだらな欲求を承諾してやり、乱れる”演技”をしてやるのも主人の務めよ! 氷河と灼熱、対極の『痕幻異璋こんげんいしよう』を持つ我様は下僕と言えど、使い捨ての駒にはせぬ! 寛大な心でこーして……こっ、こうして……セツ、セセセセセ! セックスうッ!? してっ………ありがとう……?」

(トロトロな顔して手を握つてとか、キスしてとか、おねだりしていた癖になあ……この『中二モード』の彼女に変化したら、適当に話合わせておけば問題ないんだけど)

属性に追記、俺の彼女は中二病——という設定で——と、ちっちゃいけど
おおい容姿と、性表現を暗喩させる発言で主に男性から、莫大な名声と投げ銭を納受
している『人気動画配信者』の顔を併せ持っている。



これは一ヶ月前、彼女と付き合うまでの軌跡

「レミヤくんは優しそうだから絶対モテるよね〜!」

社交辞令だよなあ、『優し』そう』は、特に褒める部分が無い男性に対して、既に彼
氏を手に入れている女の子が言うセリフである。

俺、《りょうてい領帝》レミヤ》は顔普通、成績普通、家庭環境普通。

漫画の俺と同年代なのに、やったら達観して「はあく〜めんどくせえ〜」やら「やれ
やれ:」が、決まり文句となっている主人公サマと、同等の基盤。

でも漫画じゃないので、幼馴染みが居たりツンデレ転校生と、良い雰囲気となる展開
は見られない。あいつら、自動的に可愛い子と知り合い、友達、彼女になれるからズル
い。

モブその1:。いやつ、『生徒K』とか『生徒その29』とかさ、1とかAだったらま
だ覚えられるかもだけど、無駄に多い数値が割り振られているから、だ〜れにも覚え

て貰えない。

もし俺が明日から学校来なくても、最初の一日だけ心配されて二日目からは、誰も話題にしないだろう。このクラスを構築する上で必須な人間では無い、隣のクラスの誰かと入れ替わっても影響は無い、自分で批評するのも悲しいが……

境遇や運だけじゃなくて、俺自身にも何もやる気が無くて、ただ毎日授業を受けて、バイトして、ゲームやって、動画を見て、それだけで浪費させているのも原因ではある。

(「これじゃ、達観親父漫画主人公サマと、あんまり変わらないなあ、俺……はあ……、全てにおいてめんどくさい……」)

やりたい事、熱中している事、そんなの無い。

ゲームも動画も、暇つぶしだから『誰よりも上手くなってやる!』だとか『俺も配信者になって楽しもう!』とか、そんなの面倒。

友達は殆ど居ないのは、人付き合いが面倒だから。虐められては無いけど、誰かと関わる事へのメリツトが少ないと思ってしまうている、俺はそんな無気力な男子。

将来も普通の会社で働く様になるんだろうな。平行線を辿っているだけで、山も谷も昇らないし降らない。つまらない人生だよ、ホント。それでいいって思ってるのがもつとダメなんだろうけど。

(何かアクションしなければ変わりませんよ……ってか? それ……が、面倒なんだっつ

（……）

休み時間中でも、誰かと話したりは当然無い。女の子のハンカチを拾うとか、手垢ベツタリ使い古されたイベントも無い。

存在すら感知されてない空気っぷりは、空間が俺を拒絶している様で――

（男が俺だったら、女で最も目立たない、無色無臭なのは――あの子しか居ないだらなあ）

様々な角度から観察しても『地味』

セーラー服って響きだけで、トキメキを感じる人も居るだろうけど、ウチの高校の制服なので他の女子にも、平等に赤色スカーフなセーラー。なので彼女だけの特許に非ず。

フレームレスの眼鏡はそれなりに洒落たアイテムだけど、その一点だけじゃ補いきれない地味な黒髪ショートヘアが、根暗なルックスだと決定づけてしまう。

後は……何だ？ 彼女を構成する数々のパーツは、まだあるハズなのに俺には――

――クラスの全員にも――それくらいしか発掘が出来ない。

「……………」

何処のクラスでも一人は存在する、古からのお決まりごとは俺のクラスにも例外なく。

休み時間や昼飯休憩中でも、誰かをつるんで行動する姿を見たことは無い。

体育でも先生に「二人組作って」と言われ、最後の最後まで誰とも組めずに先生と組むハメになりそうな、希薄なまでの生命活動エネルギー。

煉清凍依れんしんこえって、名前は結構カッコいいと思う。中二つぼくて。

適当に購入して、適当に持ってきた漫画で暇つぶし中、凍依はずっとタブレット端末をヘアメイクしてる、デート前の女学生みたくジツ：と睨んでるっぽいけど、表情はフラットなまでに代わり映えない。

（居なくても支障が無い女代表として、アイツ、凍依も主体性無く生きてるだけなんだろうな。成績はめちやくちやいらしいけど、他にやる事ないから勉強に打ち込んでるだけって、悲しい解釈も出来るし）

いや、全て俺の勝手な憶測に過ぎないけど。凍依の事を蔑める立場では無いのは自覚してるよ……

エアー仲間、って、これも俺が勝手に今思いついただけだが、クラス替えせずに二年

生の11月となった現在でも、彼女と会話を交わした事は一度も無い。挨拶もした事無い。

でもな、夏休み前の七月、凍依への観点と見解が160から、170度くらいは変わるちよつとしたイベントが起こったんだ。相手は知らないだろうけど……

「……………」

無口なアイツの席は一番後ろ。

そんなちっちゃい身長——148くらい？——なのに黒板見えるのか？

とか、少しばかり凍依を不憫に思ったりした。

全ての授業が終わり、暇つぶしのゲームや漫画への購入資金を稼ぎに、失敗もしなければ評価される事も無い、俺の人生みたいに流れ作業でポツポツと、身を任せているコンベアへ荷物を載せるだけのバイトをしに、教科書をバッグに詰めて、アイツの後ろを通り抜ける……つもりであったが——

(……コイツ、タブレットばっか弄ってるけど、何やってんのかな?)

通りがかったのをスイッチに、好奇心の芽生えた俺は、操作に夢中になっている(気がする)凍依の背後から画面をさりげなく覗ける様に、ゆつくりと歩行し通り抜けようとした、その時——

(ツ、ツ、ツ、!!?) でっ、デツカツ!! コイツ! こんなにおっぱい大きかったのかよおツ!? えっ、ええッ! ブラジャー黒ツツ!!?)

17歳、女子高生の平均的な胸サイズはB〜Cくらいだろう。

自らチャンスを作るのも面倒、精々入学式から数日間までくらいしか、女子と会話した事の無かった俺でも、ブラジャーが透けていたりふとした瞬間の、パンチラには興奮を覚えて生殖器官が、たちまち蠢いてしまう健全な少年。

ソレをカバーしサイズを隠蔽する特注品なのか、上から画面の代わりにセーラー服の中を覗いてしまった俺は、凍依の下着——クラスの誰も着けてないだろう黒レースの大人ブラ——が瞳に刻まれてしまい、急速にモノに蔓延る血液量が増えていくと自覚してしまった。

(マジかつ、余裕でFは越えてただろお! 身長小さいから大きさが余計に際立っている! クラスの誰も凍依が巨乳だつて気がついてないのかつ! 俺が偶然見つけてしまっただけかつ、つーか、なんでエッチなブラジャー着けてんだよコイツあ! 体育の授業とかどうしてんだらう……)

その晩、両親が寝静まったのを確認して、俺はオナニーした。

まさか、クラスで最も存在感の無い、地味子ちゃんをオカズにする刻が訪れるとは、昨日までの俺だったら絶対に「バツカじゃねくくのw」って、信じなかつただろう、未来の俺が教えても！

「ハア、ハア、ハアアア…… 出た、スツゲ、飛んだツ…… ホンモノの…… 黒ブラジャー…… 巨乳…… 初めて見た…… 忘れらんねえよ…… ! はああくあ、コレでもつと凍依が美人だったら罪悪感も無かつたんだがなあ…… !」

ティツシユで亀頭を抑えるのも間に合わず、派手に机の上までブチ撒けてしまった精液は、昨日もヌイたばかりなのに一週間〜二週間は、貯めて熟成させた芳香で自分ののに、クラリと脳みそが振れそうになつた。

俺だつて特に評価される容姿では無い、10点満点中5か6、その他大勢に過ぎず呆気なく有象無象となる容姿と顔なので、偉そうに「凍依がもつと可愛いかったり、美人だつたらく〜」など、文句垂れる権利も資格も無い。

「でもなあ、地味すぎるんだもんなあ…… 誰も注目してない冴えない女子でヌク、俺でも何処か『何してんだろ……』って、虚しいモノがあつた…… 気持ち良かったけどさ、今までのオナニーで一番!」

思いがけない巨乳とエロブラを提供してくれたのに、注文が多いから俺はモテないの
だろう。

ともあれ、この日から煉清凍依を見る目が変わったのだ。『またオカズを頂戴したい』欲望を前提に、アイツの後ろを通る機会を多く作ったり、なるべくアイツを監視する様になつたり。

俺もアイツも相手にされてないから、実現してしまえる。ちよつとでも『クラスメイ』として認識されている人間だつたら、『レミヤくんが凍依さんをずくずくとエツちな目付きで見えてまゝす！ 変態です！』など、別の女子から折檻されていたに違いない……

一度拝めた、だからわりと覗けてしまうのでは？

期待で股間を膨らませていた俺だけど、その日以降残念ながら、オカズとなるブラもおっぱいも覗けてしまう、エツちな小イベントには恵まれなかった……

配信2

そして11月。

そろそろ進路を考えておかないと行けない時期、俺は一応候補となる会社を下見して来たり、先生と面接の練習をしてはいる。

取り立てて問題は無さそう、自分でも多分就職採用して貰えそうな気がする。山も谷も無い人生だから、採用された会社で人生の転換期、巨乳な彼女と付き合ったりする事は皆無であろう。

期待などしないでもいい、今までと同じでもいい、暇を潰してたって、何もやりたくなくたって、時間の流れは同じだ。

(おー、この店には中古で置いてあったや。一個しか置いてないしさっさと買おう)
休日、電車ですべて来たのは、とある電気街。欲しい物が纏めて手に入るから、よく利用している場所だ。

オタクしてるつもりは無いけど、暇つぶし用のアイテムは棚や引き出しを、そろそろ埋め尽くし兼ねないから、一般人(俺よりずっと人生楽しそうな人全般)からすれば、登山家みたいなリュックサック背負って、ふーふー臭い息散らしながら冬なのに、汗水流

してドシンドシン歩いてる、オタクと同種にされるんだろな。

周りは早くもクリスマススマードなので、オタクがいつぱいの電気街であっても、手を繋いでるカップルや、同じゲームをプレイしてると思われる、オタクっぽい容姿の彼氏・彼女もわりと見かける。

羨ましいとか、そうじゃなくって、『俺とは同じ世界に住んでるけど、別の世界へ自由に行き来してるんだなあ』としか思えない。

別の世界、つまり恋人達しか入れないなアレ。んんん、熱願してた時期が無い訳では無いけど、やっぱり面倒だから諦めたって、今の俺に繋がるのよ。

恋人に夢中になれてるって、それだけで俺よりも誰かに必要とされているって事だから、俺が酸素吸い込んでるよりも遥かに有効活用してるでしょ。

(はー、転生したら楽にモテて楽にやれる世界でありますよーに)
手を伸ばし目的のゲームを取ろうとする。

このゲームは高1の冬、丁度今から一年前近くから視聴している『有名動画配信者』が、その内やりたいゲームとして掲げていた物だ。

ジャンルはフライトシム。プレイした事は無いけど、評判は良いし入門者にオススメってレビューされてたから、俺でも大丈夫でしょう。なるべく安いの見つけたから、仮にすぐ飽きてもダメージは少な——

「ひゃッ!? す、すみませんッ~~~~~!!」

「えっ……?」

冬なのにお熱いッスなあ~~~~

ガキの癖に何千年も生きている仙人みたいな、すつかり冷め切ったセリフをゲームシヨップ内のカップルへと心の中で煽ってたから、斜め左から迫ってた 手 に全然意識が行ってなかった。

骨太さがない、ひたすらに柔らかい甲だった。

これは野郎じゃない、女の子……それも成人もしてない生娘っぽいこの反応、ピンチの時に発してしまいそうな高音域ボイス。

油断しまくっていた俺は反発する様に、反射的に日常で口にする事の無い低い声を出していた……かもしれない。それよりも、手を接触させてしまった女の子……身長170の俺が見下せるくらいに、随分とチマツとしてる子……へ謝ろうとしたけど――

――な、アアッ~~~~!!? 黒……ブラッ!? デジャヴだっ、どつかで見覚えのある

再現映像：：（これって：：）

ソフトフェルトハットと、マスクと、眼鏡。

芸能人か、もしくは『目から下を隠せばイケメン or 美少女』な雛形から、一步も踏み外していない分かりやすい変装（と思われる）

その眼鏡もブラジャーと同じく、どっかで見た覚えがあるフレームレス：：

ベージュ色のオーバーコートに、白いパーカーと重ね着したインナーは、英語ロゴが描かれている黒いTシャツ。

ボトムスにはフロントにボタンが3つあるチェック柄ミニスカ、気持ち肌色の隙間があるオーバーニーソか。コーデを評価するには俺自身の、芸術点が不足してるから分かるが：：可愛いけどシャツだけは、500円くらいで5枚セットで売ってそうな、チープさがあるな。

（ロゴがめっちゃ歪んで、飛び出て、さらに読み辛くなってるツ!!? もしかしてパーカーの前とか閉められないのか?）閉めても勝手に落ちていきそうな程：：デッ！
デッツカッ!! おっぱいデッツツカ!!

なんたるポリウムツ！ 面白みのない平均的な頭脳の総力を上げて、アナライズした結果『OPPAI DEKAINO SUKI?』と、描かれてるハズなのに、『OP

「I?」だけテッサンミスの如く立体感を与えすぎている!

顔とか脚とかよりも、ソツチにしか視線が行かない! 引き寄せられるうううー!

「……あつ! そつ、それいいんで俺は、買うの別にあるんで、それ、どうぞツ!」

ふうふう……危ないつ、もう会う事はない他人だけでも、おっぱい見続けてれば「視線で犯された」だの、痴漢扱いされかねない……

コミュ経験が足りてないので、突発的に人と関わる事態に弱い俺が、その場凌ぎの言い訳で買う予定のフライトシムを諦め、二歩くらい後退る。

「えつ……でつ、ではつ……ありつ、がとつ……ですつ……それではつ……!」

ピューーーンで、オノマトペを黒いアンクルブーツから射出しながら、万引き犯な勢いでレジへ逃走。

……キモツ、とか思われたのかな? 別にもう顔を合わせる事は無いからいいけど。

(つにしても……あの背丈、胸だけに栄養を集中させた様な、あのフレームレス眼鏡も……黒レースのエッチブラ……もしつ、かして?)

——あの子つて、煉清凍依か、中二病系巨乳動画配信者の『氷獄メギド』本人? だったりすんのかな?

配信3

あのフライトシムを購入したのだから、メギド本人だからじゃないのか？

動画配信者、それもおっぱい大きくて若気の至り、暗黒期真っ只中な数々の発言が、心と股間をキヤッチして『ネットで話題のニュース』なるサイトや、彼女の言動から配信した内容までを纏めたサイトまで作られる人気者だ。

俺も暇つぶしにその動画を見ているけど、彼女の配信だけは殆ど欠かさずに回覧している。丁度俺が何もする事の無い時間帯に配信してくれるって理由もあるが、夢中になれる事が一つも無いって言ったけど、敢えて捧げるのなら『彼女の動画』かな？

俺が知ってる配信者で、一番可愛くてエッチだなんて理由からだけどさ…

あの子を氷獄メギドだと仮定し、他にどんなの買うんだろうって気になった俺は、ストーカー紛いに彼女の後をこっそり追いかけた（小走りでかなり早かったけど）

（凍依って線は限りなく薄いとして、やっぱメギド本人なのかなあ。ネットアイドルだけど人間だからそりゃ、電気街で買い物する日だってあるだろうけど、目撃出来たのはラッキーに他ならないだろ）

まあ、追いかけてもそこから先、何かのアクションをする度胸は俺に無いんだけどな。

「キミ、氷獄メギド？」って尋ねても絶対「はあ？」の一言で沈黙させられるし、下手すれば大声出されて俺は『はじめてのパトカー☆』になるだろうし…

帰る予定時間を二時間も過ぎてまで、トトトトト…小走りで逃げ回る黒ブラ少女を追い続けた結果——

コスプレ用のウィッグ、撮影機材、剥がせる壁紙、中二病特集の本

氷獄メギド以外の誰だっけ言うんだよツ、一筋の光明どころか確定事項だ！

大量の紙袋を手に持ち——おっぱいが邪魔して非常に辛そう——駅へとヨタ歩く彼女。

普段であればシカト決めてるけど…相手は氷獄メギドだ、もう一度あの巨乳を拝みたい想いもあって、荷物を口実に話しかけてみたい想いが嵩じた俺は、17年の中で一番度胸があっただろう。

「あ、あ、あのお、もし良かったら俺が荷物を——」

「ふっ、ふええツ!!? レミヤ君ツ!!? また会って…じゃなくなつて、なっ、なな、まだこの街に居たのお…」

氷獄メギドが『俺の名を知っていた?』



(凍依:…さんが氷獄メギドだったんだ……)

(………(コクンツ))

街中であーだこーだ、それは出来ないから適当な喫茶店に入る俺ら。

まるで女の子とデートしている心境、になる訳が無く、頭の中には有名動画配信者のおっぱいと、対面に座る地味眼鏡のおっぱいで っぱいだった。

「……………(カチカチツ)」

「……………(ポチポチツ)」

席に座るや否や、現実が受け止めきれない俺を店員はスルーして、凍依にオーダーを取る。

ボショボショ:… おっぱいと相反する声は、蟻が全力で人間へ訴えてるみたいだった。つまり蟻からすれば頑張ってるけど、人間からすれば4回も聞き直すくらいに、喉から離れたらかき消される脆弱さ。

コイツがクラス内でも喋っているシーン、授業で名指しされた時くらいしか思い出せない。その時でもここまで酷くは無いんだが……俺に正体がバレて緊張と動揺が走っているんだろう。

「……………」

「……………」

彼女が頼んだドリンクがテーブルに置かれる。

俺はホットのココア、彼女もホットココアだがオレンジがカップに刺さってて、蕩ける甘さに少々の酸味がブレンドされた彩りも風味もいい見栄えに、『俺にも同じの頼んでよ』って、声すら出せなかったのに無責任に羨ましがってる俺。

さつきから無言のまま、カップを偶に啜ってるけど、いろんな要素が合併して俺も彼女も、どっちも恥ずかしいって理由で『メールでやりとりしている』んだ。

……交換してから気がついた、家族と一握りだけ存在しながらも、メールした事のない形だけの野郎友達を除き、メールアドレス登録したの——しかも女の子だし——初めてじゃんって！

こんな一言も喋ったことの無い地味子でも、クラスメイト、隠れ巨乳ってワード並べたら——不覚にも、そう、不覚にも——昂ぶるモノがある。

って、彼女でオナツた事があるから”不覚”もクソもないか……動画配信者って裏の

顔を持っていた彼女に比べて、何の取り柄も無い、生産性のない男の俺が彼女を見下しすぎていた、反省。

(ねえ、レミヤ君：私が氷獄メギドって：内密に、秘密にして欲しいなっ：：：)

.....

「ここで俺がエロ漫画な『黙っていてほしけりや、俺専用のパイズリマンコになれっ！』って脅しつけても、警察にメール見せられてしまったら俺の家に、青い服着たおじさん達が来るだろう。」

実は千載一遇のチャンス！ だったのかもしれないけど、ぜつぐたいそんなになれなく話が進むわけが無い。それをネタに寧ろ貢がされる事だって十分に考えられる。

(いつ、言わないよ？ 大丈夫だっ)

(そ？ よかったあ：！ 下着と：む、むねのおおきさ：レミヤ君私のそんなところを観察してたんだねっ：)

(あつ、あつ：前に偶然お前の下着がさつ、見えて：いやつ、見たくて見たんじや無いけど偶然だよ偶然?! 氷獄メギドも同じ黒のレースでかつ、おっぱいも：凍依と同じくらいの大きさだったなあつて：そつから糸をたぐり寄せて情報を纏めた感

じ……)

(……………)

さり気なくセクハラメールしてるのに気がついてない俺。メールだからって、女の子に対する慎重な対応？ が薄れていたのかも。

地味子でも女の子だし、実はおっぱいデカいし、氷獄メギドの中の人だしで…… やっぱ興奮してたから？

(見えちゃった物はしょうがない、よね？ 胸の部分だけ大きい制服なんだけど、そこかあ…… 新しいの発注した方がいいのかなあ…… 今着てるTシャツもね、すぐヨレヨレになっちゃうから安いなんだ……)

ふーん、おっぱいデカいから緩くなりやすいから短命なのか、他の衣装とかは高級そうなのに、Tシャツだけはリサイクルショップにでもありそうな物なのかーって、結構エッチな女の子事情をメールとは言え(寧ろだから?) 聴いてしまったんだけど……

改めて凍依を細部まで、顕微鏡でも使ったのかってくらい一望する。

のしっ！ ドンッ！ ドデカッ！ ぽわっ、ぽにゅん♪

おっ、おっぱいがテーブルに載っかってる!!!
教室では載っかっていなかったはずだぞっ!!! 氷獄メギドも同じ様な姿勢でゲーム配信する事あるけど、メギド成分が密かに顕れているのか!?(バラしたりとかはしないけどさ、どんな環境で配信実況してるのかな〜とかは興味あるかも、なんつって)

眼鏡付けたまんまじゃ、イマイチ正確な分析は出来ないけど、メギドは結構なロリ顔。複雑怪奇な難解用語を乱立させて(中二って設定だし)大人っぽく演じてるけど、大人なのは目測GくHのおっぱいだけ。

中の人であるコイツも、ロリ巨乳としては非の打ち所の無い身体だ。大きいおっぱいは好きだけど、身長は低い方が理想像、その理想を顕現化させたのが、氷獄メギドであり本体がコイツ、煉清凍依…

(……………知りたい? ウチ、来る? 良かったら… だけど…)

(はっ……………!? えっ、なんで?)

(見たいって、配信環境… いいよ、内緒にしてくれるなら… 私の家に来てもいいよ?)

一人暮らしただけ…… あつ、あつ、レミヤ君にお時間あつたら、ねっ……？)

本当の『千載一遇のチャンス』は“コレ”なのかもしれない。

そんなつもりでメール送ったんじゃないけど、ちびちびココアを喉に入れながら、10分くらいかけての返信が「ウチに来ない？」だった……

これは俺を陥れる罠か？ だが俺を嵌めるメリットなんてあるのだろうか？

くっ、思いがけないラッキーパーティなのに、童貞の俺は踏ん切りがつかないでいる

！

だつて高校二年で一人暮らして、そんなの滅多に居ないぞ!? そんなっ……二人っ

きりになっちゃうじゃん！

(やっぱり迷惑だったかな？ ゴメン、今のは忘れて——)

(いつ、行く！ 色々と見せて欲しい！ 全部内緒にするから俺にだけ見せて！)

なんだよその、新しい飼い主を見つけたと思つたら、ダンボール覗いただけで去つて行つた人間を見る、捨て猫みたいな目は……

まるで俺に拒まれて残念がつてるみたいじゃん…… 友達ですらない、クラスメイトつて接点しかない俺を、家にあげたがつてるみたいじゃん……

俺が彼女を虐めてるみたいないな空気になり、シユンツとした表情に——ごく少量な

がら萌えを感じてしまい——承諾メールを送ってしまったのだった。

配信4

俺と同じ街に住んでいた。

ここまでは学校同じだから予想通りだけど、俺ん家から10分くらいの距離にある、すげえ……新築されたばっかのハイグレードなアパートじゃん!?

「私の実家ね、撮影スタジオを経営してるんだ……」

「へえ、結構お金持ちなんだっ……でも一人暮らしの許可、よく両親さんは許してくれたな……（俺ん家とかなり近いのか……）」

「勉強、学年一位をとり続けるって交換条件で……自分の家だと両親にバレちゃう……動画配信する為にはどうしても一人のアパートが必要だったの……」

あー、そういうえば凍依は頭めちやくちや良かったんだった。でも外観が地味子だから殆どの奴らが忘れてるっばいんだよな。

そこまでして配信したかったのか、俺よりもずっと一つの事に熱意を持っていたんだなあ……んで、それが実現して幸せなのかもしれない。

靴を脱いでお邪魔する、一番小さな部屋で十分だからと、予想よりもこじんまりしてる空間だ、洋室の一角が撮影スタジオみたいで、配信専用のパソコン、テーブル、ゲー

ム器具などが手を伸ばせる位置にレイアウトされていた。

クローゼットには他の高校の制服を、改造した配信用の衣装やウィッグ、エクステなどを収納していた。ウチの制服はセーラーだけど、メギド衣装は赤いリボンが印象的なブレザーだし。

「この引き出しにねっ… 下着入れてる… / /」

いやっ、その情報は必要ねーだろっ!! でもラッキー!!

あつ、ベッドには見かけたことのあるクッション（おっぱいを休ませながらの雑談）が。

画面越しに見ていた物が、そこかしこに置いてあつて生で拝見してるって、背徳感がありながら『俺だけが知ってる』優越感が湧いてくるな…

購入したゲームなどの大荷物を、ドカドカ置いてせっせこ配信の準備をする凍依。帰り道で俺が『生配信、少しでもいいから見たい』と、今日初めて喋った女子と二人で、女子が一人で住んでいる住所へ、今から乗り込む超展開にテンパリながら、無茶振りをしてしまったけど…

「あつ、レミヤ君悪いけど… ト、トイレに行って貰ってもいいかなあ？ 着替え… するからっ… / /」

「おおおおう！ すまんすまんっ！」

「終わったら呼ぶから、待っててね… へへっ！」

なっ、なんだよお、その『へへっ！』って照れながらの微笑みコンボはよお!?

もしや俺に気が… は冗談として、配信見たいって言われたの嬉しかったりするのかな？

(シユルツとかパサツ… って衣服同士が擦れる音は聞こえないが、すぐ近くで女の子が着替えてるって状況、ヤバいくらい役得だなっ… あっ、チンポ勃ってきたっ… あゝ鎮めるの無理だわ)

この場でヌイてしまいたいくらい、俺は興奮してる。童貞ブーストも掛かってるけど、明日にでも俺は死ぬのこなってくらいに、波が立たなかった日常なのに、大荒れの津波の上でなんとかサーフィンしてる様な、ギリギリの境地だ。

▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼

「レ、レミヤくうくん、入って来て… いいよ…？」

ヌキはしなかったけど、チンポを握りながら我慢汁をペーパーで処理していた。

洋式便器の横にある小箱、これって生理の道具入れるサニタリーボックスってやつ、

銀結晶を煌めかせているツインテールは、十字架の刺繍を入れた闇色のリボンで結ばれて、着けただけで世界を掌握出来るんじゃないかって、その時期の子共なら誰でも一度は思う手作りマントは、襟が立っており動き回ろうが重力を無視して微動だにしない。

右手で額を——前髪の右側が赤と左側青のメッシュ——を抑えながら、左手はむにゅるっ♪ 二の腕が体格への発注をミスってしまっている、格差の激しいおっぱいをのし上げたキメポーズ。

中二のお約束、オッドアイに”なりきれる”カラコンは、前髪の色と逆に右が青、左が青色となっており、縞々のオーバーニーソックスは氷と炎、彼女がそう設定した属性を表すかの如く、青と赤が交互になっている。ミニスカの丈は膝上から25cm近くと、動画で本人が申し上げていた…

「ハハハハハ……ど、どおだった／＼／ 動画でしかやった事無いから恥ずかしっ…
／／／」

この銀髪ツインテな姿で、凍依の口調って凄く違和感あるなオイッ!?

何時もは宿命たるシバル・クーが、我様の居城で決戦の刻をくくく（ただの宅配便）と

か、スピリチュアリティの笛が血肉を蝕む（炊飯器の音）とか、これでもかかってくらしいに中二な言動キャラだからね…

俺も他の視聴者も、一年近く彼女の動画見てるけど『未だに半分も言ってる事が分からない』んだよな。フィーリングで察してマス。

「本当に… 氷獄メギドなんだなあ… 参りました」

「へへっ、へへへえええ♪ 氷と炎、2つが合わさって最強に見える異能力者、氷獄メギドだよ〜〜！」

メギドモードだって、威厳を出すためにドスを効かせても、かなりロリ系のボイスなのに、素のコイツのマシユマロみたいに柔らかくて甘々な声色はやばいな… こんな声だったっけ？

「下僕う！ 我様の生配信を望んでいるのだろうお!? そこに座っておれ、不用意に我様の七精の叛唱し双舞台、黄金の椅子に近づくと出ないぞ？ 声も出すな、酸素吸うなよ」

「あつ、ハイッ、ここで見させて貰いマス…」

正体知つてると二重人格みたいだなっ！

中二を演じてる彼女は、適当に話を合わせてればいいだけだ。隅っこに座りながら、「ごめんねえ、つい…」って、謝りながらチョコとココアを出してくれた彼女に、気にしてないと伝えた。

これも高そうなチョコだな、コンビニで売ってるパッケージじゃなくて、デパ地下で売ってる…。ココアとの組み合わせは俺を糖尿にさせるつもりか？

配信5

「フアー——、ナツハツハツハツ——!! 凡愚どもお！ 我様が急遽生配信をしてやるぞおおー!! トリシユウラ？ フハハツ、鉄の槍の間違えであろう！ 我様の業火で炙れば少しは強固になるかもしれないがなあ、股間に思考力を吸い取られた死食鬼風情がああ！」

おおッ！

氷獄メギドその物な佇まい、アドリブで考えた中二なセリフ、おっぱいを強調させるポーズ！

webカメラとスタンドマイクをテーブルにセットして配信サイトへアクセス。すると予定日は明日のハズなのに、俺も知っている固定ハンドルネームのユーザーが、ブラックホールに吸い込まれる様に彼女の配信枠から逃げられなくなった。

「新しいゲームを買って来たのでな！ 30分だけであるが貴様らをヴォウルカシャ——
——幻魔郷——の情景を可視化させてやるぞ！ ではッ！」

あつ、説明書はキチンと読むんだね。

テーブルにおっぱいを『ドスンッ！ ばにゅんッ！』と載っけながら、ページ捲って

るだけなのにもう投げ銭が入ってる。

女の配信者ってだけでもてはやされるけど、凍依…今はメギドはちよつとおかしいくらい勢いでファンも、投げ銭も、エッチなりクエストコメも増殖してる。

俺も彼らに混じってコメしてたから気持ちは分かるけどな…テールブルが潰されるんじゃないかってくらいに、カメラの配置が絶妙なんだもん。生配信見ながらチンポ扱いた事…あるし。

ん？

メギドⅡ凍依って正体が判明したけどさ、俺は『ずっと前から凍依をオカズにしていた』のと等しいのでは？

居ても居なくても変わらないクラスメイト、鏡の国へ入った様な変身を遂げてコントロラーのコードを谷間に挟みながらゲームに勤しんでいる。

(氷獄メギドはね、私の理想…そうでありたかった私なの…)

帰り道、メールで教えてくれた彼女の本心、動画配信をしようとしたキツカケ。

空気とか、地味だとか、そうやって下に見ていたのが申し訳ないくらいに凍依は『もう一つの自分』を目指していたから、学年一位を維持出来る学力を付けてこうやって自分だけの空間を作ったんだよな。

スゲえな… 感服した、感動する。

チヨコを食べるのも忘れて30分間、俺は彼女の配信を見守っていた。



「ハア… はあ、どうだったあ？ レミヤ君？ こんな感じで配信してるんだけど」

中二モードが終了し本来の凍依に戻った彼女は、ウィッグや衣装そのままに感想を求めてきたが配信の最後にエッチナリクエスト『スレイプニルを手懐けてください』に応えたから、汗ばんで頬が上気している。

ちなみにスレイプニル…ってのは、細長いクッションを馬に見立てて、エッチに動いてくださいって意味らしい。

ニヤニヤしながらキメポーズ、カメラの位置を整えてから太ももでクッションを挟む、そこから股を擦りつける形で上下左右に緩急付けながら動く。

おっぱいが『ダワンツ バルンツ、バルンツ、ボルンツ♪』弾けながら、まるで疑似的にセックス——見たまんま騎乗位——を暗じていた。

「淫欲の清算も出来ぬ粗雑にしてチンケな下々よ、見るがいいツ、無限大の”痕幻異璋”

を貯蔵する我様のソドムとゴモラ——Hカップのおっぱい——をツツ!! ス
レイプニルの動きに同調し、渺渺と闘争しているではないか——! ヒエログリフの
騰勢が止まらぬぞ——!

えっと、『私のおっぱいが、騎乗位の真似をしているから、それに応じて動き回ってます。
どうぞ、おシコリなさってください』って意味、だと思う。

リアルタイムで「相変わらずメギドさんはシコれるw」とか「今ヌイてますw」とか
「次はホットドッグ食べてソースをおっぱいに溢してw」だの、性を連想せざるを得ない
それこそ未成年の男子がめっちゃ喜んでそうな姿を、容易に想像出来ちゃうコメで埋
まっていた。

「な、なんか……凄かった、い、色々な意味で……」

我ながらゴミみたいな感想しか出てこない……『おっぱいがおっぱいでおっぱい!』
何て言ってしまうえば、放り出されるだろうし。

「……………♪ わ、私も……クラスメイトのレミヤ君が近くで見てるからはず、かしかった
んだけど……楽になっちゃった、バレちゃってどーしよーって、ずうつと思ってたけど
生配信したら吹っ切れちゃった♪」

ぶるっ、たっ、ぶんっ♪

身長差がありすぎて見たくも… いやっ、見下ろす形だから自然と見れてラッキーだけど、青と赤の瞳がズイズイ近づいてくる、おっぱいごと！

「これからも私を応援してくれたら嬉しいな… えつとえつと！ それだけじゃなくつてえ… 学校でも話したりとか… ゲームとか、漫画とか… 好きだから… そういう話題でも良ければ… わた… しと… / / /」

はっ、ああああああ… !?

コ、コイツ… 可愛いッ、かもッ…

メギドコスしてるから、補正掛かっているのかもしれないけど、自制心はんぺんみたいに脆くなってる、あらぬ事さえしてしまいそうで――

チヨンッ

「~~~~~ツッ、!!?」

「えう? …… つ!? う~~~~~ / / /」

クラスの誰よりも、もしかしたら凍依の両親よりも一歩リードしている関係となつてしまった俺。

笑わず、バラさず、もう一人の自分たる活動を改めて認められたからなのか、俺に懐く様な感じに上目遣い背伸びの『童貞即死コンボ』

Hカップにはアルキメデスも発明を取り止め、圧巻のポリユームを得た原理を調べ始めるだろう、あまりの軟系球の円周率は8.13——パイズリ

「はう：：／／／ あつ、あのあのつ、もしかして配信中もずつと：：／／／」

「そつ、そうなる：：なつ：： 正確にはトイレからだけど：：」

「かあ、硬く：：しちやつてた：： なんだねつ：： 他の視聴者さん達：： みたいになつて：：／／／」

「そうなる：：なつ：：」

クリアランスがゼロ近かったら、ここ数十分萎えの文字を消してしまっている勃起チンポが、彼女とネゴシエーションしたがってしまふ訳で。

言い逃れは出来ない、俺は彼女で——中の人含めて——魅力が大変に感じてしまっている。

「ふつ、ふんッ！ 性を硬質化させるしか能のない、下界を彷徨い這うテュポーンめツ！ アクサツヤアの淵峰に縛りつけるぞ！」

中二モードに切り替わるけど、視線はずつと俺の股間を凝視したままだ。女子に股間を見られるなんて：：もつと興奮しちゃうじゃん！

「わわア!!? ピクツてした／＼／レミヤ君のおお：：ち：：／＼／貴様つ、もしかしてアザトース——真ナル宇宙ヲ束シ盲目タル者——なのかつ!? だからこれ程の痕幻異璋をツ：：」

さつきテユポーンとか言つてなかつたつけ：：イタイ子つてか、ホンモノの二重人格だな、切り替える事によつて羞恥を半減させる狙いなのだろうか。

っ！ チンポ！ 触られてるツ!?

「ねっ、ねっ、レミヤ君も：：コーフンして：：おちん：：ぼ：：／＼／しこしこつて、したくなつて：：きちやった：：?」

クラスメイトの口から『おちんぼ』なる単語がつ：：!! 亀頭周辺を人差し指で「つつくくう」と擦られながら、凄いいろい流れになつて、なつてるよ：：

「みんなコメントで言つてるもんね：：私でオナニー：：したとか：：／＼／レミヤ君もさ：：シタ事：：ある、よね：：?」

「あ、り：：ますつ：：この前の配信で、バナナを啜えてたのとか、炭酸を胸に挟んで擦つたりとか：：ヌイてたよ、三回も：：」

「ツ　ツ　!! あ、あう：：：：はあ、はあ：：えっ、えっち：：してた：：そっか：：

ねえ、良かったら——」

彼女が何を提案するのか、不思議と、いや、童貞だけど分かるさ。

——私で良ければさ、エッチ……してみない？

配信6



顔を両手で支えられながらポシヨポシヨ： 防音設備が整いすぎてるから余計に声
が小さくなってるのかつて錯覚する、この距離でも口の動きで判別しなければならぬ
ミクロな声で俺に言ったんだ。

ロリ巨乳な女の子、動画配信者としての顔を持つクラスメイトが『エッチしない？』な
んて魅力的すぎるんだけど、リアルな世界では決してありえない： 『ありえなかつた』囁
きを。

「かんッ！ 勘違いするでないぞ！ 外ノ世界ノ王、アザトースである貴様の痕幻異璋
を我様が全て奪ってやろうとしたただけだッ!? ——えつとねッ／／／ メギドの
私って経験豊富で通ってるんだけど実際は： 経験無いのッ／／／ だから配信でリ
アリティを出したい： あつ、あつ！ それだけじゃないのッ！ きよきよきよ興味！
あるからあ： エツ、チ、な、ことお：：：／／／」

確かにセクハラコメもサラッを受け流して自分から『もうヤリ飽きた』とか『超越者
たる我様は性欲など痕幻異璋に変換してやったわアッ！』とか、度々設定は変わるんだ
けど慌てる事は無かつた様な。

必死で我慢してたのかな？ 処女じゃないアピールするためにエッチなリクエストに応える必要性があったのかもしれない。ファンを増やすって意図も当然あるかもだが。

「ハッ、ハッ、アアア……だ、誰でもいい……訳じや無いよ……レミヤ君に、私の秘密知られちゃったし……こうやって……お家に来て貰ったのも……おし……たおされたり……されても……わたし……ていこうしないか……らっ、らっ……／／／」

さっ、最初から俺とエッチを狙っていたっ!!?!

一人暮らしで年頃の女の子がいくらなんでも警戒心薄い（俺にする度胸があるかは別として）と思っではいたけど、異性と関わりを持ったからチャンス……セツ、セツクス……だよなっ!! したいと思っっていたのかこの子はあ!!?

「そんな事言われたら……本当に押し倒しちゃうかも……よ……?」

ここでヘタれ炸裂、後半に行くにつれて声が小さくなってやりたい事をやれる状況を創り上げたり、異性を家に連れ込んだりする彼女のがよっぽど度胸が据わってるって痛感させられるわ。

「……………ええい！ ハッキリしない奴めっ！ フワハハハハッ……！ 先手必勝！ 貴様の痕幻異璋…………… 我様が奪つてやるぞ」

カシツ、ドツ——ドサツ！

「うっ、奪うのはど、う…：…ていも…：…な、なんちゃって…：…／＼／＼」

コイツ、俺を童貞を前提に話を進めやがってあまりにも失礼だろ、童貞だけど。

魂が、第六感が、このアパートの霊脈が俺に教えた『絶対セックス、出来るよ☆』つて…：…俺が本当に押し倒そうが黙っていようがもう、もう…：…凍依とセックスするのは確定コースだと。

「ハア、ハア、ハア、ハア、よこせつ、異界の門——エリユシオン——へと貴様の痕幻異璋、精液を我様に供給するのだツ!!」

見えちゃってるって！ ブラと同じくゴスロリチックなフリルが施され、背面がシースルーとなってる、ドスケベな黒パンツ！ 配信では前だけチラツとしか見えなかつたけどサイドが紐…：…これ知ってるの俺だけだよ…：…なあ…：…？

謎のベールに包まれていた全貌が露わとなり血走り瞳孔を開かせた目に焼き止めていたら、さらにクイツと横へズラしおま…：…おまんこオツ!!?? アレが本当の！ 女の子の一番大事な部分がもうくちやくちやになつて、膣液がトオロオー…：…

パンケーキに塗るシロップみたい…：…いやっ、透明つてよりも粘質が濃すぎて白…：…精液を少し薄めた感じになっている…：…

彼女に付いていけてるのはチンポだけ。頭と肢体は押し倒されるわ、生のパイパン口リマンコを魅せられるわで、スロットが大当たりしたかの勢いで彼女はあまりにもオスにとつて都合のいいメスであると、生の手でチンポ撫でられてやつとそこまで思考が回った。

「あ、あ、あああ…：これえ…：／／／レミヤ君のおちん…：ぽ…：／／／—」
 なんだコレは！ まだ開眼してない——包茎——ではないかッ！ こんな周波
 栓鍵——ヒュペルポリア——では、我様に痕幻異璋を供給…：…：」

なんで無理矢理押し倒されて、チンポ取り出されてるのに文句言われてんだ俺…：
 開眼してないと言つても、アザトースつて”盲目の神”じゃなかったけ？ まあその
 辺はどうでもいいけどさ。

「あたっ！ いたア！ 握る力強いよ凍…：メギド様！ それにこのチンポ…：鍵はこ
 うやって、皮がムケるから安し——」
 「ひゃヒヒヒイイイ〜〜〜〜〜？！？！？」 チチチチおちおちんぽぽムケムケしちやつ
 たあああ／／／／／ すごつ、私みたい^{？！？！}に二面性のあるおつ…： おちんちんだあ…：素
 敵…：／／／／」

仮性だから普段は皮被つてても、その気になればツルンツ、ゆで卵の皮むきみたいに
 楽勝で真の姿を現せる。

少し薬を飲んだみたいに落ち着いて来た。次々と雪崩の様に昨日までの俺だったら考えられやしない、漫画主人公な出来事が起こりすぎて、我慢汁出しながら深呼吸したら逆に彼女の方が我を失いかねない動揺を見せているし。

「おつき／＼／＼ あなのつ、おちんぼの長さ。どれくらいなのつ。！ 知りたいなあ。／＼／＼」

「前に測った時は13cmだった気が。普通だと思うよ。？」

「へっ、へえええ〜〜〜！ でもおつ。おつきい。カチカチ。／＼／＼ あつ、亀頭は柔らかいって本当なんだあ。ぷによぷによつ。へええ。わんツ／＼／ お汁がいつぱい。すんつ、すんつ、すんすんすんすんつ！！ はあはあはあ。／＼／」

鈴口に鼻先を突っ込んでやがるう！

チンポ見るの初めてだからってここまでするものなのだろうか。相当にエッチな事に興味あったんだな。配信では『貴様らの戯れに付き合っつてやる』ってやれやれな顔しながらエッチリクに応えてたけど視聴者のみんな、メギド様は想像よりも遥かにエッチですよ。

「はあ。はあ。もっ、もう挿入するねっ／＼ 恥ずかしいから後ろ向きでいいよね？ はあはあはあ。男の人の。レミヤ君のおちんぼ。いただきます／＼」

恋愛は諦めていたけどセックスはしたいと思っていた。それが風俗のネーチャンだろが男として産まれてしまった以上、童貞を捨てたいと思うのは可笑しくは無い。

互いに、性感分泌液をボタ落としてたけど、準備は万全とは言え無かったであろう状態での背面挿入。

ドバツ、四方八方に薄紅色の血を開花させる瞬間は中二彼女お得意の灼熱業火魔法を発動したみたいで、グロテスクどころか寒波に苦しむ人々に炎を授けたかの如く力強くも奇麗に可視化されたエフェクト。

「レミヤ君レミヤ君？ くひッ!? んくああ、きゅふふううううッ? ツ? ? ああッ? ? 我様のお? 穢れしりやずの創世園がアアア? 貴様のアリヤドヴァルにいい! 遺伝子の戈 打ちこまれてりゆんりやはあうう? はッ、はあ? ふつう!! おちんぼに逆らえないよううけじゆれりゆううッ?」

うつ: : わッ: : 赤色の気泡が結合部から生み出されてるツ: :

溶解液、俺が真つ先に思い浮かべたファンタジーでは良く見かけるであろう特殊能力。

感慨に浸る間など与えられず、俺が——二度と来ないかもしれない生セックスなのに——『抜いて!』と叫んだって日カップおっぱいをぶるつ、と逆猫背にした背のままに俺の名とチンポを交互にそして、素と中二で交互に喘ぐ彼女は腰を持ち上げバ

ヂュツ!

「ひうウー! イイのオ? おちんぼイイのお? 欲しかったのお? 処女奪われたかかったのおおツ? んゝゝゝゝ! くひゅツ!! ハアアゝゝ? ふア? 中出し請求汁がどんだん増えてえ? 中出し承認汁で迎えてるによお? おちんぼの味もつと知りたいうのおー? んうツ! んう!」

チンポが溶解された、そんなくらいに彼女の未開封おまんこ。中二的なワードを使用するならアヴァロンズゲート…とでも言い換えればいいのか…は、快樂よりも恐怖のが先だった。

彼女が司る灼熱に火炙の刑を執行され、氷じゃなくて水属性なんじゃってくらいこれこそ煙が上がりそうな蒸発熱湯おまんこ。

亀頭の半分が挿入されるのを後ろから眺めるしか出来なかったけど、ガチンツと門を塞ぐ岸壁——処女膜——の感覚を亀頭で捉えたのも一瞬、普通女の子って躊躇ったりゆつくり挿入してとか男に言うのが普通…だと思っていたけど、凍依は普通では無かった。

イノシシみたいに直進! 壁にぶつかつたから方向転換、また直進! 壁に…を繰り返す! 旋回や減速、そんなの頭に無いのだ。

肉を切らせて骨を断つ、処女膜を破られながら俺のチンポを早イキさせようとしてる

このシチュに、相應しいことわざ。

女の子って初めては優しくのを望むんじや？ ブヂツ！ と膣圧プレスでチンポ固定させながら、力任せに貫かせたのは彼女の方だった。

「子宮がおちんぽ囁んじやつてるう？ これ気持ちいいのオ？ 初めてだけどいっばい、いっばいヒイ〜？ レミヤ君のおちんぽで施錠外されたあ〜〜？ 痛気持ちいいのおんうう、はあああッ、あうう！ あはああああん？」

おつ、おおお、膣内から媚汁がべちよべちよ充溢してる！ 初物の証が薄まつてるのは新しく生成される媚汁の量が凄まじすぎて、上書きされているからだろう！

ぱちゅんっ！ びちゅくあ、ぐちゆるんツ、ぐちよぐびゆ、ヂュツ、にゆる、にゅっつ、ぱぢゅぐ、ぐぢゅッ！

うアア、くくウ〜!! 竜の鱗みたいだなっ、膣内のデコボコの感触って!!

この視点からだとなんぽを喰えてる媚具すら見れないけど、マントはピストンの反動で肩前に落ちており銀髪ツインテは己の背を叩き、振動がチンポまで届いて戦慄けば彼女は首を『ビクッ、ピクンッ!!』とくの字に曲げる。

彼女のアクメつてる顔を是非とも見たかったけど、残念ながら『逆レイプに近いこと

ボチュチュツ…… ブチュ、ビュツ、ビュビュツ…… ドプンツ、プヂュヂュツ…… ドクツ——

「ほつ、あ……？ ちんぽお……？ しゅご……のお……？ せつくす……すごいのお？ はうツ！ ああ？ あん？ ふツ？ あ……？ アツ、アツ？ ちんぽ硬いままりやああ？ うあん？ エラがわらひのおまんこけじゆりとつへええは……？ まひやイはへえ……？ イはへああああ……？」
（まつ、ちよつ、まつ、てつ…… イツたばつかなの…… にまた腰動かされて…… 精液をスポンジみたいに膣壁が吸って…… あつ、あつ……）

俺の腹に彼女の背が着陸しそう。それだけ仰け反ってイッている膣内に体液を全部、全部吸引させられ、おまんこ繋がつてるチンポ以外は雪原に投げ出された様な寒気が俺を襲った。

打ち上げロケットを彷彿とさせる、ジェットで何もかもを振り切ってしまうロケットト射精。

それでもイマイチ膣内射精を達成した高揚感は沸かなかつた。沸く前に彼女が再び斜め上へと腰を持ち上げ、俺が喘ぐよりも先にパンツ！ お尻を引っ下げて来たのだから！

足ピンどころか手もピーーンッ！ 声帯すら淀んでるのに関係ないと、後ろは見えないからどうでもいいと、俺はもう生命の危機を感じるくらいに恐ろしさでセックスを止めて欲しいと……哀願したのだが

「レミヤ君のちんぽ？ セックス？ 生？ 膣内射精くくくく？ ー？ ー？ ぬぢゆぬぢゆさせてもう一度せーえきピチャピチャ泳がせてえええー？ ー？ ー？ ぬぢゆぬぢゆあああ？ きゃああああああんくくくく？」

ぐぢゆぼっ！ ぶぢゆッ！ ぐビュッ！ ビユルッ！ ドプンッ、トプッ！ びくんッ！
!? ズビュッー……… ビュッー………

お互いにパニックに陥っていたので意思疎通は適わずに、初中出しから一分も経過せずもう一度卵管にまで送り搾らせる事は無いだろうと諦めていた子種を、金玉が無くなる寸前まで彼女の手を無意識に引つ張りながら、俺の遺伝子を憶えさせてしまう。強制的に連続中出しさせられた……

「ハッー、ハッー、ハッ……… ハア、ハッー……… ひやつ？ ねつとり………？ せつくす……… しちやったあ……… やったあ………？ かたいのい……… ぬるんぬるん………？ きもちよかったあ？」

(コイツ… めっちゃ自分勝手に進めやがってえ… 初セックスなんだからもっと感動させろよお… あ、あ、マンコとチンポを精液が糸引いて離れない… エロいな… はあ… 裏筋がまだ疼いてる… マンコの味を知ったからか…)

ずるるっ、ぬぼッ、ん？

どろお…？

有名動画配信者のロリ巨乳少女と、中出しセックスしてしまった。

結合を解除しても俺に跨がったままマンコとチンコを繋ぐ、精液の残り橋を見つめながら俺も彼女も身動きせずに荒呼吸のまんま10分くらいして…

「凍依ええッ！ お前強引すぎるだろっ…！ もうちよい俺の気持ち考えろよー！」

「あああああ！ ごめんなさいごめんなさい！ わた、私リアルでの理解者さんが欲しくてえ… レミヤ君… バレちゃったのもあるけど優しく私の話聞き止めてくれたし… キュッ、てするモノあつて… // // エッチしたいなあつて… 子宮とラダマントウスがそう命じた気がして… // //」

その“優しそう”は他の女子と同じ意味ではない。俺にはそう捉えることが出来て胸元のデツカい赤リボンをシユルリ解いて、顔を隠している彼女の事を逆レされたって

のに可愛いと思つてしまった。

タイミングが良かったのかもしれない。エツチに興味津々で理解者も欲しくて、そこへ俺とコンタクトしてしまい悪いと思ひながらストーカーしたのがトリガーとなつて…… トントントン拍子にエツチ。

「雄々しくて…… 猛々しかった…… レミヤ君のちん…… おちんぽ？ おちんちん？ 良かったらでいい、けど…… 私とまたエツチして欲しいなつ…… / / / 内緒が2つに増えちやうけど、どつ、どうかなあ…… えへへつ…… / / /」

「お前やっぱり自分勝手だわ…… ダメつ、そうじゃなくなつて—— 煉清凍依、俺の彼女になれっ！ そうだつ！ レイプ紛いしやがったんだ！ しかもゴムも無しに中出しさせやがつて！ お前のマンコがカリを緊縛して引っこ抜けなかつたんだぞ！ 責任取れよ？ なあ？」

我ながらかつこわりい……！ 立場逆だろどう考えても。

俺にしては勇気を出して『彼女になれ』と何時もだったら逃していただろう、好機へ滑り込ます様に肩を掴んで炎と氷のオッドアイへ向けて”命令”した。下手に出るよりも強気に投じたつて俺のが被害者なんだから許されんだろ。

最悪断られても言いふらされる事は無い。童貞を殆ど無理矢理奪われたのだから！ 俺は処女を…… そうだ、処女を貰い受けてしまった訳だが……

「ハイッ……？　こちらこそ？　私……セックスしたから……なのかなあ？　レミヤ君の事……しゅーしゅーしゅー！　すす、susu、SUSU……好き……
／／／　になっ……ちやつ……へへっ……え／／／——ツクククク、ハハハハア！
　　貴様という貯蔵槽があれば我様を異空の彼方へ封印した、悪しき神々——九ツノ墮黙翼——へと復讐を果たせるエネルギータンク代わりにしてやるぞっ！　拒否権は与えぬっ、我様には貴様がっ……必要なんだッ……くう……／／／」

彼女お！　ゲット………したあああああああ
!!!!!!!

配信8



性欲激しかったり中二な面もあるけど、おっぱい大きくて可愛い女の子！ 手に入れてしまったああ！

努力：．． したっけ？

ストーカーはしたけど、ああ、それが”努力”って苦し紛れに言い表せるのかな。

お宝が漂流しても「どうせ取れない」で済ませていたけど、波が上手いこと岸へ運んで来てくれた。俺はその宝箱を開けただけ、でもゲツトはゲツトだ！ 一度手に入れると所詮強がりだったんだなあって．．． 本当はエッチ好きな彼女欲しかったんだ。

「俺も俺もツ！ 俺もメギド様：．． もだけど、凍依のこと好きだぜっ！ 次はそのっ、おっ、おっぱい揉ませろおおくくくく！」

「やつあ、やつたやつたあ！ かかかかか彼氏ツ！ レミヤ君は私の彼氏：．．．？

おっぱいいいっ、いいよっ？ いっぱいにもゆもにゆさせてあげる？———触れるなツ、貴様の様な底辺種が触れていいフヴェルゲルミル（魔力の釜）ではないのだぞツ！———こ、こんな感じだけど、ねっ、好き好き？ レミヤ君：．．？」

エッチの後に好きって感情が追いついてきた。あつくくくくくやつぱコイツ可愛い

なっ… 「明日もエッチしよっ♪」 って指切りしてくるし… !

おっぱいも太もも、お口もお尻もいいけど、カレ・カノが正式に決まったんだから—



「ちゅぶツ… ん♪ ぢゅっ、るずっ? ぢゅ、ハッ、ンツ、もつと…? あ、むう、ペロツ、チュツ、チュツ… あんツ? レミヤくんっ…? んちゅぐツ、はあ! ピチュツ、りちゅんツ、ぷっ、ぷひやはッ!! ハッ—、ハッ—…? 初めての時、キス、忘れててゴメンねえ…?」

んで、付き合ってから一週間がこの有り様です。

学校ではメールでやり取りしてるから直接話すことは無いけれど、学校終われば凍依の家でセックスセックスセックス! 勿論、膣内射精だ。

安全日とか関係なくゴムしないで射精するのは高リスクってエロ本で学んだけど、出してしまったモノは仕方ない。まだ受精してるかは分からないけど凍依の彼氏になつた以上は責任を取る、つまり… …

「えへえ？ レミヤ君？ ギューーとして欲しい？」

《将来は結婚します》

中出ししたつて筋合いだけじゃ無くても好きだから。もう凍依を何処にも遠くに行かせない俺のツ、彼女でツ、将来は嫁ツ！

親には「彼女出来た」とは伝えてある。絶対嘘だつて言われたけどさ……卒業したらまだ親に頼りまくってしまうけど、このアパートで同棲するまでは決めている。

俺の実家とこのアパート、そんな離れてないけど凍依にとってはその距離すら長く感じるらしい。バイトがある日は配信で寂しさを紛らわしているけど、俺が帰ってきそうになったら途中で配信を止めて玄関で待ち伏せしてる、中二衣装のままで！

何度かエツチして判明したのだが、彼女はメギドの衣装じゃないと恥ずかしくて俺の顔もチンポも見れないんだつてさ。

「抱擁だけで欠けていた痕幻異璋がツ再構築されていくだとツ!? クククククク、やはり貴様を下僕にして正解であつたな、ナツ……ハハハハッ！ インデックスがアップシロンを描く刻……我様がアカシックレコードを弄り貴様らの世界へ勅命を届けてや

る！ 滅びへのカウントダウンをしながら待つておれ！」

あつ、ハイ、22時に生配信するって事ね。終わったら電話しよーって。

「ねえねえレミヤ君：／／／ もう一回せつくす：。 したいっ：。／／／ 正常位つておちんぽの向きとか：。 後ろ向きでスルのと全然違つて／／／ カリ首が私の膣壁：。 裂きながらグイツ、グイツ：。／／／ えへえ、想像だけでネトネト汁出て来ちやつたあ？」

「：：：：。 はあゝやれやれあと一回だけだぞ？ これからバイトだし：：。」

「うん？ 学校に居る時もね、レミヤ君とどんな体位でシようかなあつて？ ずつとと考えてて、タブレットで検索してたんだよお？」

（教室でそんなの見てるんじゃないやねえよっ!? 司つてるの炎と氷じゃ無くて、膣と竿だろ！）

巻き込まれ受動的なラノベ主人公のセリフをわざとらしく言つてみたけど、俺だつて凍依と正常位でも何でもいっぱいしたいさ思春期だもん彼女だもん！

キスだけで勃たされた俺はアイツが望んでいる通りに両手を握りながら、正座をやや崩した体勢となり青と赤の中心部を？ 型にした彼女のヨトウンヘイムへと、勝利の剣を突き立てて行くのであつた。

配信9



成績普通、家庭普通、チンポの全長普通の俺、領帝レミヤはエロゲーやエロ漫画のテンプレ的な容姿に性格。

17歳のクソガキな癖にやたら面倒くさがりだが『実は何十回も転生済みだから、同じ世界に飽き飽きしてる』エピソードなんざ無い、

二次元と同じ事をしたってリアルではイタイだけ、……………いやまあ、演じたくてしんじゃないけど。童貞はソープで捨てるしか無いと思っていたモテない男子。

そんな俺が一週間前に彼女が出来た。何かの罫じゃないやりたい事や目指す物が何もない無気力な俺が、唯一楽しみにしていた超有名動画配信者ネット用語で「うp主」である『氷獄メギド』

コスプレをしていた中の人……それが、ウチのクラスの女子版の俺、誰にも触れられないし居ても居なくても差し支えなかった『煉清凍依』であるのは俺とだけの秘密。

「んふー……ッ??」 はあああー……ッ?? この体位レミヤ君に恥ずかしい場所見られながらあ? 完全征服されてるみたいだよおおくくく? ンッ、んんんっ! ベ

「……………（コクンッ）」

俺だけが知っている、あのセーラー服は特注品で胸が目立たぬ設計になっていると。ブラジャーの色は黒でカップサイズはHであると！ 凍依も教室に入ってくれば近くに居た女子が社交辞令として挨拶はする。

やはりそれだけ、その先の枝分かれが何も無いのが俺と同じ。自分から枝を折ってしまっている。

「……………（ポチポチッ）」

「……………（カチカチッ）」

休み時間、退屈な授業から解放された10分間で正常なクラスメイト達は友達との会話を勤しむ。フットワークに優れていたら他のクラスにまで出張してしまう。

良くそこまで出来るなあ、心の中で想いながら俺と彼女になった凍依は自分の席から一歩も離れてない。

あの子とのやり取りは全てメールで行っているからである。

凍依は『教室でも話しかけてくれたら嬉しい』とあの時照れながら言っていたけど、いくら俺達が名無しモブ以下の存在と言えど突然仲良しになっていけば流石に存在感が色濃くなってしまう、気配を察知される……どこるか学年中にゴシッ好き女子が言い振らすだろう『レミヤ君と凍依さんが付き合ってる〜！』とな！

その通りだけど俺は凍依と話合って改めて決めた。

『卒業まで学校内では今まで通りの関係に偽装する』

俺の休み時間はゲームか、漫画か、携帯弄るかの三択。凍依の休み時間はタブレット弄るだけ。なので絶対に怪しまれない俺と凍依教室に飾ってある画家不明の絵画、一度見たら忘れる背景コンビがこうして連絡を取り合っているなどな！

—— 『ねっ、ねっ！ 今日はこの、これっ！ このセックス……してみたいなあ……』

／／／

画像付きで屈曲位が送られて来たから校門からやや離れた場所で合流し、そのまま彼女のアパートに辿り着いた俺達は言葉よりも先にキスを交わす。

「ちゅはあ………？ ちゅんっ、ぷっ、あんツ？ おっぱい触りながらあ？ じゆるんっ、べちゅちゅちゅっくく？ ふはあ………？ ちゅばっ、んツ、んツくく？ つはあ………？ 帰宅途中ねっ……ハッ、ハッ、……もう濡れちやつたの？ 新しいセックス……シテ貰えるからって……／／／」

………とまあ、こんな感じのエピソードがありました、どちらも屈曲位初体験を喪失した次第であります。

ちよつとエツちな動画配信で承認欲求と活動生活資金の調達、男性のオカズになつて
いる自分を想像しサカつていた性欲旺盛な凍依が一回程度で満足しない。

俺の性欲は飛び抜けていた訳じゃないけどここ一週間で凍依から——中二モードで
あるメギド様からも——パワーを注がれ、シエアしているから凍依のアパートに居る間
はずつと勃起しっぱなし。初彼女つて悦びもありセックス、セックス、セックス、セッ
クス!!!

「ういはやあゝゝ? ひヤアアアンゝゝ? げえ、下僕の分際で主導権を握るなどお?
貴様は我様の魔力供給タンクに過ぎぬうううゝゝゝツツ? ハアツ、んがひいいいゝゝ
? 貴様の立場を今一度分かせてやりゆうう? はうツ、あゝあゝアゝゝゝツ?」
ちよお、超越者たりゆわれしやまによ玉座としれへええツ? んうツ、くはあ、ハアア
ツ! やくりりもしやずゆけへ、やああん? にゆはああー?」

両脚で首を挟みながら中イキおまんこに受精させていた俺は、彼女のオネダリに応じ
てキス。

一度イケて取りあえずは満足したらしく表では絶対に見せないフニヤフニヤしながら
ら、顔を嬉し涙と涎で湿らせ蛍光灯の光でテカテカとなった表情から一変!

中二モードになった凍依……いやメギド様は、両脚を軸にしてオリンピック選手並の
跳躍を繰り出し、天井を蹴りながら俺の背後に回った。すげー腹筋だったぞオイツ!

炎と氷の力を神から授かって神の代わりに罰を与えられる存在、それがメギド様が創造した固有名詞である《超越者——メアリー・スー》

配信10



あの身体力、彼女は体育だってソツ無くこなす実は文武両道。
彼女になってから二日目の放課後、クロゼットを無断物色していた俺が見つけたの
は体育専用の

『透けないけど色気が微塵も無いデカすぎる白ブラ』

これを装備していたから大きさを極限まで誤魔化して揺れを抑えていたのか……ギ
ミック知らなければ、標準サイズとしか思えない。これだけして「標準」な辺りドンだ
け巨乳なんだよって話だが。

「ごめんなさいいゝゝゝ?? 偉そうにした私にヒいいい? メスはオスに勝てないつ
てDNA注いぎ思い知らしえてくらさああああ? はひいいいゝゝゝ? ああああ
ひあああああ! ああ!?! ガンガン寝バツク好きイイゝゝゝ?ゝゝ? えぐツ、
うえグううツゝゝゝ? んいいッ! 子宮引つ張りだしやれちやふよほアアア?ゝ
ゝゝゝ?」

またまた攻守は逆転。

俺を仰向け状態にさせて両脚を広げられたらチングリ返しに近い体勢となる。

面白みも無く太さや全長、亀頭の直径なども全部平均なチンポもこれからさらに彼女とセックスして漆黒の咎なる色彩を放つ様になるのだろう。

立位したまま「メギド様はアソコの毛までオッドアイ（二色）かもw」な噂をネット上で呟かれていた、セックスを経験したばかりの縦筋——彼らの予想は裏切られ俺だけが真実を知っているパイパンロリマンコ——をチンポにグチュツ！ 愛液と我慢汁の弾ける音と共に結合。

両脚を掴んで彼女の元へ引き寄せられる凄腕の握力……夜な夜な配信だけじゃなく、野郎共のイマジネーションをビジョンした体形を維持する鍛錬をしているとは本人談。

中二設定の配信者になりきる為に俺がオナってる時間に努力をしていたんだなあ……ますます凍依の——メギド様の——事が好きになった！

彼女主導の即急体位で同時イキ、責められるのも悪くは無いが男としては女の子をズガンズガンに責め立てたい性別のある動物的な本能生殖欲求がある。

そこら辺も把握している彼女は下僕（中二モード時の俺の設定）の言葉が過ぎたと言おうその場で作られた建前で、俺をMっぽい体位で犯していた。

イキ終わりベッドで腕とマンコでハグしてくる彼女は、何かを期待する上目遣いでモ

ジ付きながらその紅蓮と氷河の力が宿った瞳を向けて来た——

今度は『私をいっぱい虐めてください?』のサイン。やり続けていたら自然と判断出来る様になってきた!

「じゃあ遠慮なくなっ!」

「うん……………? 私はメギドでもあるけど責めるより責めれる方が好き……………なのかもしれない／＼／ 私の煉獄おまんこ、レミヤ君の突棒で罰してください／＼／」

天国でもない地獄でもない中間地点が煉獄、清めの炎でたつぷり禊ぎされたら天国へ行けるんだっけかな?

メギドじゃない時の彼女もパワーダウンしているが中二っぽい発言はする。『ノリと勢いが命』らしいので多少意味や整合性が取れていなかろうが、何となく伝われば成功だ。

彼女の方からうつ伏せになりつつ、おまんこだけは「くばあ」してくれたので俺は二つの穴やおおおくくく! 観察し手を……………

「ひッ!? ギギふううッ!? そつ、そつちはお尻の／＼／」

「ああ、ごめんごめん! こつちもヒクらせてたからさ! 突つ込みたくなって! 精液が逆流してる下の穴に挿入して欲しいんだよね? 勿体ないとかは思わないで、凍依の血液を全部精子に入れ替える勢いで今日は膣内射精しまくっからなっ……………!」

「ひゃアん……………／＼／＼ はぁーはぁー、コクンツ……………? してっ……………! レミヤ君と結婚するから赤ちゃん産ませてください? はぁー! はぁー! おちんちん……………? 彼氏のおちんちん……………? はぁぁぁぁ! 亀頭だけ挿入って来たはぁぁ?」

この先恋人も作れず生涯独り身の道を歩む筈だった俺が、ロリ巨乳な彼女を手に入れたしまった。

産まれた時から定められていたルートが高2の夏から急変するだったのか、あの時ストーカーしたから特異点を変えられたのか……………

どうだっついていいや! 卒業したら結婚まで話が進んでんだからよ!

まだ両親には言っていないってか、彼女が出来た事も信じて貰っていないけど関係ない! 俺は凍依と生きていくぞー!

「ギいいッ!? ああツ~~~~うあああああうう~~~~? ほお、お、お~~~~? 壊しやれりゆふッ? 赤ちゃん産めない身体になっひや! ひや? ぶっ?~~~~?」

「げほっ! おほっ、おおツ~~~~?」

「赤ちゃん産めなくする訳ないでしょ! 女の子の身体はどんなにデカイチンポでも挿入出来る仕組みになってるんだから! ふオ! グンツ! ドロマンに!! マジの煉

獄で罪の代わりに精液解き放たれるっ！」

パヂユツ！　ンツ！　パヂユツ、パヂユツ――

パンツ！　パンツ！　パンツ！

ヂュゴツ！　ヂュゴンツ！　ぶぢゅつ！　ごりゆりゆつ、ごぢゅつ、ズヂツ！　ずぢぢツツ！

「ツッ!?　~~~~　う　う　ツッ?　ー?　ウ　ウ　オア　オ　?　ヒヤググ　う　グツ?」

脳みそまで筋肉、だから脳筋。

俺はマッチョじゃないけどさあ！　セックスは！　チンポは！

脳筋ならぬ『竿筋』でいいんだよおツ！

たつたの148cm、平均以下なのにおっぱいだけはタスクオーバーしちまつてる凍依の四肢を、俺の両手足をふかあ~~~~文鎮代わりに置くこの光景は暴れる魔物を封じ込める鎖と枷。

ズシャ！　ズジャツ！　俺の恥骨と凍依のお尻がピリオドもインターバルも呼吸も

与えぬ間隔で衝突、激突っ！

カリ首が反り返っているのは他のオスの精液をかき出して、自分の精液をくるとか何かの文書で見かけたけど違うっ！

「凍依えッ！ お前は俺だけの物だぞっ？ 俺がお前の彼氏だからなっ?!」

「そウ、!! ううううう！ そうなのオオオオオッ、ーオオオオボ？ わらひはレミヤくんのかのじよでしゆふううう？ ぎぐう、？ やばはあイイく！ ちんぽでまんこりよなひやあ！ がつがつされへへええ？ く？ フツ、ぐいッ、ふううく？ ううううく？ あかひやんいっぱいうみゆんらはああくくあ、あ、ああ？」

俺だけのメスを狂いイカし俺自身も膣壁をガリガリ削って、引っ張って、擦り合イキして妊娠射精する為だああ!!

物理タイプチップでめったくそこに腰を振り下ろすのだから、三日目くらいまでは俺の方が根を上げてしまっていた。すっごく疲れてその後は騎乗位がデフォ。

今日こそはと密かに望んでいた、AV男優顔負けのピストンしてみてえと！

配信 1 1



「有名動画配信者サマが実は彼氏のチンポ大好きで中出しされまくってるって視聴者は知ってる訳ねーよなあ！ お前の正体は俺だけが知ってる！ 安心しろっ、誰にもバラしたりはしない凍依は俺が守ってやっから！」

柄にも無いイキツたセリフを流れに任せて吐きまくる。

身体能力が神懸かっている凍依は身長差があってもヒョロい俺くらいなら押し倒し返せるけど、その力を一ミクロンも発揮 “しない” で背後から頭を抑えモヤの掛かったとても美人動画配信者が発してはならない彼氏セックス用に取っておいた猥声。

「やっべえわコレ！ メスをオスの力で服従させている自然界の掟の様な、結局オスのチンポには勝てなかったと墜ちるエロ漫画のヒロインを彼女は演技無しであの有様だ！」

「脳筋チンポで腰が寧ろゆつくり動いていると錯覚するそうっ 『ミラージュ・ピストン』と名付ければ凍依もメギド様もどっちも喜ぶかもなあ！」

「んぎッ、ぎぎイイイ？ んアッ！ イイイ？ あああんっ？！ んんううう？？ツ？あああ？？ツ？？ツ？？ツ？？ツ？？」

おおおッ！ 膣中ブラックホールかよお！ 最初から最後まで余すこと無くキツくて、オスを気持ち良くさせるだけの構造になつて凍依マンコ！ 彼氏が居なかつたから本来の性能を活かすこと無くオナネタ妄想で毎日二回もイッていたとはつ、おっぱいデカイ〓性欲激しいは本当だったんだ！

つ、うつ、ふうう………賢者賢者………膣内射精でイッてこそだな、男は！

彼女出来たから傲慢な思考になつてるけどそんなくらい幸せなお花畑でランランしてゐるって事なの、許して。

「っ………？ アアアア？ ハッ、ハッ？ あああ………？ レミヤ君のお………彼氏精液い………？ 今日も………？ はあーはあーママになる階段………一段登れちゃったあ………ああ、ふっー？」

ツ、ぬる、ぢゅっ、っ、プンッ

こぼっ、ちゅちゅっ………どろろっ、トプンッ、トプン♪

まだ身ごもつては無いけどすっかり中出し後には母親の顔になつちやつて、愛しいぜ凍依！

「凍依、俺なんかを彼氏にしてくれて、ありがとうな。大好きだぜ！」

「ええ、へへえ……？ レミヤ君……？ レミヤ君だからえつと、いいなあつて……？ 浮気とかは心配しないで、私に話しかけられる男子はそもそも、レミヤ君だけだし……もうおまんこもレミヤ君が開封して、その先も予約済みだもんね……？ ぎゅっく？」

……セックスは毎日してる。今までの17年間過ごして来た時間よりも、凍依を彼女にしてからの一週間のが明らかに充実している！

しかし気がついてしまった、俺達はセックスに夢中すぎて『フェラチオやパイズリをして貰ってない』

「レミヤ君？ 今日は配信もお休みだから、ご飯までは抱きしめ合ったりチューっしたり……／／／せつ、せつくす……以外の恋人っぽい事もしたい……／／／」

「……そうすつか！ もつと近寄るぞ」

「んっ………？ スリスリ………していく？ 甘えたく………なっちゃった……／／／」

配信では気丈に構えているのに、現実ではこのギャップ！ ホンツと、おっぱいと言
い肉食系（俺にだけ）と言、本音を知ってる彼氏特権！

クラスのリア充共は、もしやこんな甘々な日常を恋人達と送っていたのか？

ここまでイイ物だとは……銀髪ツインテはウィッグだけど撫でたら神経が通ってるかの様な反応、ピクツ、ピクツと顎を上下させたり唇を波打たせながら手の動きに同調し頭を動かしたりと、マジで可愛い！ 今まで他の女やキャラでシコシコしてたのが罪になるくらいに——

俺の彼女最強にシコい！

配信12



背中がぞくぞくツツッ！ 暖房とは別の熱気に汗が溜まってしまおう、心臓の脈動と呼吸と体温が癒やされるう！ 焼き上がった洋菓子の香りはフレグランスの效能じゃない凍依の素の体臭なのだった！

五回も膈内へ精液デリバリーしたのにたつぶん、ぷつとん♪ Hなお胸と俺の胸が正面衝突！

この感触はマシユマロよりもブツセ。指で突いただけでも脆く崩れ去りそうな肌感、しかし弾力はトランポリンみたいで仮に凍依の上から鈍器が落ちてもおっぱいにはじき返されそうな……俺しか触った事の無いHカップ……!!!!

おっぱいおっぱいおっぱい!!!

ハアハアハアハ……アこれだけでも我慢汗がちよいと出てきちまつてるけど、今日は凍依を思いつきり甘えさせてあげたい。実行するのは明日が良い！

「う、に……? 大好きな彼氏の為にご飯作る……♪ 私の両親も驚くだろうなあ！ あっ、私はまだ伝えてないんだけど……いつ何時か！ あああああ挨拶に来てくれたらと思……ますっ……? ダメって言われなと思うケド目の前でらぶらぶ

したら、分かってくれると思う……？ フフ、もしも認めてくれなくても私は絶対レミヤ君と結婚するんだし？ ねっ……？」

俺の彼女イイ子すぎる……飯も美味しいし、投げ銭あるから通帳にはちよつと言葉に出来ない額が納められていた。家族から預けられたのではなく自分の力だけでそんなに儲けてるとは……

「おっぱい大きいし性欲は強いけど俺もエッチ好きだし適合率高すぎじゃありませんかね??？」俺の為に産まれてきたのかな??？」

「ご飯を作ってる時にも軽くおっぱい触ったり、後ろから抱きしめたり邪魔にならない程度『合法セクハラ』」

「ふふんっ……？ レミヤ君が大きい胸好きなの彼氏で良かったあ……♪ チビなのに胸だけおっきいって気持ち悪いとか、言われないで……」

「そんな事思う奴が居たら、俺が全員殺すツ!! 俺の彼女を侮辱したら赫灼と常闇、二つの力が融合し最強となる——アグライアIIネメシス・トゥルティティ—アム——」

「で葬ってやるっ!……まっ、他がどう感想を述べようが凍依、俺はお前の全てが最高だ! 他の奴らなんざ見えなくていい俺だけを見てくれ!」

「えつとですね、アグライア……なんとかは今考えたばかりの最強究極封印魔法って設定にしておいてください。ノリです、勢いです。」

「そだね……？ レミヤ君が私の彼氏になってくれてからね？ 動画配信とは別の生き甲斐を見つけたんだあ！……それは……レミヤ君といっくぱい！ 恋人らぶらぶ……えつち……する事だよ？ そだね、私はレミヤ君にだけ好かれる女でいいや……？……ハアン！ 我様の姿に双神から譲り受け昇華させた力に！ 畏怖し、慄くがいい！ 脆弱なバクテリア共お！」

畏怖と慄くって同じ意味じゃなかったっけ？ まあノリですよ、勢いで押し切れればいいんですよ……



放課後、待ち合わせ場所では携帯の画面と十字路を交互に確認しながら俺を待っていてくれるセーラー服少女の姿。

「あつ……？ レミヤ君だあ？」

何この青春ラブコメの互いに想いを伝え合って後半の開始くくみたいなシチュ。

ううくくむ……やはり俺は何事にも興味ない面倒だと態度で示していても、結局は彼女が欲しくて『こんな日常』をずくくと欲していたんだ……

待つだけ、努力はしてない。だけど凍依って最高に可愛くてエツチなクラスメイトでありながら、彼女をゲット出来たんだ！ あばよ今までの俺！ この『非日常』が慣れ

て来た時に「日常」となつて行く!

お手々繋ぎながら——どちらもまだ汗がびつたり、心臓なのか脈なのか分からんけど動悸もダイレクト——凍依のアパートへ帰還。

ハイグレードでありながらなるべく(両親への気遣いの意味で)安い部屋。

一人で暮らすには配信機材や小道具をたんまり安置出来る場所を作つても、充分な余りスペースが発生している。

丁度、男性一人が荷物少々持ってきてきても問題ないくらいにな。

(俺と凍依は何もしなくても恋人になる運命の神——フォルトウーナ——のお力なんですかねえ、メギド流の換言だと)

今までの俺は凍依とくつつく為には他の女子にはモテなかつたとか、そういう考えすら出来てしまえる。

恋は盲目、彼女しか視えなくなるって本当なんだなあ……熱に浮かされ過ぎてるけど冷める事はねえ!

「なあ、凍依! 頼みたい事あるんだ!」

「……………んっ、な何かなっ……………////エッチな事……………////いいよっせせせっ、正常

位で私は——」

昨日までの俺らは帰宅早々にズッコンバツコン！

ご飯食べ終わったらギシギシアンアン！

配信を傍で眺めていたらムラ付いてパンパンどぴゅどぴゅ！

数えては無いけど休み時間の度に『本日やってみたい体位』をメールに添付して、只でさえチンポがウズウズしてるのに『主体性の無い女子』であつたと評価していたあの頃の俺を腹パンしたいくらいに、性交体位の48手はコンプした……気がする。

心の中で息切れを起こすまで勇猛果敢、俺が断る訳ないと知って自分からエッチのオーダーをしてきた。

だから我慢出来ずにセックスしてセックスし終わったら、またセックス！

それ事態は何の問題も無いどころだけ挿入しても全くガバガバになる気配がない！

俺のチンポだけを包み込む煉獄おまんこはメギド様の氷河成分は0%説。

まあ冷たいマンコは嫌だけどさ……イク時は根元がちよん切られるくらいな——

—アイアンメイデン——猛烈に成型していたマンコが我慢汗の一滴も通さないつて程の縮小に寒気が走って毎回ドバァーと、体重が何キロか減りそうな大汗に塗れるけどさ！

「……………フェラ、して欲しいなあ……セックスしか俺らしてないじゃん？ いやっ、

セックス凍依と一緒にイッたり中出しするのスンげえ気持ちいい！………んだけど
さ、他にも色々したくなっちゃって………いい？」

俺が断らない様に、凍依も断らない

配信13



彼女が関与していない生活ではトコトンまでに主張せず自ら停滞している俺だが、二人きりなら—————本当の俺はこうなのかもしれない———少々強気に出ても問題が無い。

思い違いでは無く俺は凍依にメロメロ、凍依も俺が居なくなったらその場で自殺するそれだけ互いが心でも身体でも依存し合う関係になってしまっている。一週間と少しでもの凄い進展である。

「フェラ……チオ………／／お口でレミヤ君のおちんちん……ペろペろ……れろれろ……／／／んっ、いいよ………？ わっ私も………したいなあって……／／／でももおセックス気持ち良くて嬉しくて……後回しにしちやっつてたの………ごめんね？ 今日フェラチオ……メインでえつち……しよっ……／／／」

ほらっ、俺よりもスケベな本性が言葉にも振る舞いにも出てる！

「フェラ」を聞いたらツインテ結ってるリボンが「ピーーン！」と受信アンテナが圏外からバリ4へ垂直におっ立たせながら、俺の下半身へオッドアイを睨ませる。

ハア、ハア、彼女が舌先を既に期待で勃起している俺のモノへ向けながらエサを目の

前にお預けされた犬と同じ視線。

「ゴキユツ……? じゃ、じゃあ……おちん……ちんつ、フェラチオする……? ああ、ハアー、ハアー……? すんつ、レミヤ君の匂い……好き……すんすんつ、はあー! ぷつくりした亀頭で毎日私のおまんこに……/ / 入ってたんだねえ……?」

「凍依、お前もうめっちゃエロい顔してるよっ……チンポと精液で生命維持してるサキユバスか何か?」

「そ、そんなにエツチな……顔してないよお……/ /」

「俺のチンポで凍依のフェラ処女貰うからな? 下の処女は貰ったってか俺のが童貞奪い取られたって展開だったけどさ、今はいい思い出だよな!」

「あつううっ……あんまり虐めないでレミヤ君? いいよお、私の初めて全部プレゼントする? はーっ、はーっ舐めるね……? つ、ううん、はあ……ちゅっ、ろっ……/ / れちゅっ、れちゅっ、ん……側面は硬いのに……先っぽは弾力あるよね……/ / えへへえ! フェラチオ処女……レミヤ君に捧げられたあくく?!」

学年トップな聡明頭脳にはエロ知識だって潤っている。

中二モード、氷獄メギドは己の体内で生成される痕幻異璋（魔力みたいなモンらしい）を強化させる為に、白亜の時代からあらゆるオスの初めてと言う初めてを収奪してきたと胸高々に笑い倒していた。メガ盛りおっぱいを二の腕に乗っけながら。

人間以外でもいいんだっけ? ……とか、当たり前の疑問は流して処女だつてバレない何層ものカーテンを閉じて実に男を知っている様に見せかけていた。

「くちつ、くちつ、くちんつ、れるれるれるつ……? はあ、はあ……ちゅろつ、ピチチツ……ああ! おちんちんすつごく跳ねたあ……? やつぱりカリ首の……ここ、溝の部分つて感じちやうんだあ……? はもお♪ はもちゅつんつぶ、んつ……? ぷふつんつ、くちや、くちゅるう?」

唯一彼女のカーテンを開けるのが俺。

確かに知識「だけ」は——ミームルの泉——をガブ飲みした精通っぷりだが、実戦経験皆無であるのはご存じの通り。

教室でタブレットを弄っていたのも覗き防止フィルターを掛けながら、エロサイトの文章や画像を子宮が精液を吸い込むかの如く嗜み頬張っていたと告白してくれた。

ブックマークには配信関連かエロ関連のサイトでドツサドツサ!

隠されしエロボディに秘められし性欲、持て余していたのを発散させるために『氷獄メギド』となつて主に男性を無遠慮に悩殺してきた……エピソードを伺えば何うほど、エロすぎる! 超むつつりドスケベ!

「~~~~ツ!!? 凍依の口が俺のを——! いつ、イイ! もつと唾液でぐつちやぐちやにして欲しい! あああ~~~~つつ、マンコとは違うぐつしよりしたチンポ穴!!」

反応を伺いながら、舌を口内外へ露出させる視覚でも五感を駆使して俺を絶頂させようと頑張ってくれている……!!

口の中は一応自分の指を突っ込めるからある程度『フェラされたらこんな感じか?』と快感は予測……出来てたがぜんっぜん! チンポ発情した彼女の口内のが気持ちいいしあつつい!

チンポを蕩めかす舌巧、べっこりと凸を啜え逆凸型になった凍依の表情……ひよつとこフェラって奴……!

「チュプツ、チュプツ、ズンツ、チュポンツ? べちゆるちゆつ? れひあくうくん? わらひのおふひまんほお……ひもひいらい? ぢゆるるるるんっ?」

目を白黒点滅させながら腰もチンポもピクンツ!?

本当にフェラチオ初めてなのか疑いたくなる、口元を尖らせながらタコの吸盤を彷彿とさせる飲み込んだら離せない驚異の吸引力。

ぢゆぼっ、ぢゆぼっ……摩擦軽減の為にたつぷり生成している唾液と俺の我慢汁がブレンドされ、往復すれば気泡がジャグジーみたいに湧き出て毒々しいまでに粘度の濃い飛沫が上がる。

優等生は初フェラでも結果を出してしまおうのかエロでも百点満点!

メギド様を演じる為では無く『純粹にエッチが好きで興味津々』だったからここまで

覚えてシミュレーションを繰り返していたのだろう、ドスケベめ！

「ダメッ……だあ！ チンポ奉仕ツツ……!! くっ、はああッ！ ほっ……おおっ……
はあホンモノフェラ……彼女の……すげっ！ あっ！ ああッ！——あああああ
おッツツ!!」

配信14



卓越した口淫を——くどいが初フェラなのに——繰り出し俺をイカせる為だけの熱気瀰漫する、凍依の口マンコへオスが急所を搔つ捌かれた様な低いながら直ぐに消えてなくなりそうなシャウト。

チンポ以外の血液が逃げていくチンポ以外の感覚も分らない、死の境界線を跨ぐ瞬間みたいな快樂と恐怖の紙一重がごっちゃになっていき——気がついた時にはだらしなく仰向けのまま倒れていた。

「ハ——ッ、ハ——ッ………アア………ハ——、ハ——………」

何十分も海に潜って呼吸を止めていた、やつと新しい酸素を摂取出来ると死に物狂いで瞳孔を開かせながら口でも鼻でも皮膚でもゼーゼーハーハー……

倒れ込んだばかりなのにシートには金縛りに襲われたかの冷や汗で、背中が張り付いてしまっている。

「……………グッポ、んっふううう………？　ゴキユンツ、ヂュルルンツ、ングングツ

……? チュー、ふうう……? フツ……? んぐつ、チュチュフツ……? ゴグツ……クチュツ、ゴグツ、ググ……ンツ……? ちゅびつ、るつ……? ハー、ハー……ふえらちお……しちやつたあ……せーえき……? のんじやつた……あ?」

具体的には口内に接続されつぱだから分らんけど、500mlペットボトルの半分ちよいは出たんじやないか?

俺の精液も『今日は何時もと標的が違うぜ!』つておまんこ続きだったから張り切つて飛び立つていったに違いない。

「全部飲んだの?」

「うん………んあつ……? ああ……ん……? ねつ? 一滴も……残つてないよ? 精液飲むのも初めてだけど、レミヤ君の凄いんだよ……? 苦いけどいくらでも飲んじゃえそうな、不思議なコクがあつて………はあん?」

お口あーんで喉奥まで指で広げ見せ、桃色が少し白く染まつている舌を垂らし込む。俺が何を言うまでも無く勝手にエツちな願望を叶えてくれた!

「エロすぎつ………! チンポまた痛いくらいに勃起してきた……! まつ、またフェエラでヌイテ欲しいなつ!? ダメツ!」

見せ槍。彼女の頬をペチペチ叩いたり、額になすり付けたたり些か興奮が抑えられない俺チンポは、ビッキビキな血管を透けさせてワンモア・フェエラされたがっている。

「わっ？ わわわあ！ そんなに良かったんだあ、私のお口エッチ？ うん！ 勿論いいよ！ 彼氏のお願いは何でも……聞いてあげたくなくなっちゃうって本当なんだねえ……？」
 ——ヌウハハハハハハッ！ ほお、開眼——皮ムケ——に成功したのかアザトース、我様が唯一配下とする底知れぬ痕幻異璋を内包セシ、盲目白痴にして狂気に溢れん形容し難きモノ——この闇属性に変貌しつつある陰莖、この場所から直に痕幻異璋の供給を受ける事で、我様に眠っている力をさらに引き出せるキーになっているとは……迂闊であつたな、ジュールツ……？ よっ、良いな？ き、き、貴様はじつとしておれば良い！ これは貴様の内側へ我様がダイレクトに侵入する危険な——エレウシスの秘儀——なのだぞっ……？ 黙って見つめていろっ、手を出せば最悪……死ぬッ！ はっ、はっ？ ちゅっ！ ぶぢゅぢゅっ！ くぢゅぢゅるう、ぢゅぼぢゅっ？
 ふっ、ふっ！ ぼぶっ、ぢゅぼるッ？」

おおっううッ！?

唐突な中二モードにシフトした凍依……メギド様は先程の徐々に加速していくフェラではなく、超越者たる威厳と威光を魅せしめる様な最初からトップスピードなお口ピストンで責め立ててキタッ！

彼女の気分で中二モードが現れるけど大体は『恥ずかしさのあまりそれを隠すために』顕現させている気がする。

「ぐぶッ？　ぐぶッ、ぐぢゅぶッ！　あぶッ、ふうくくむッ？　ぶむッ!?　ぐごぼッ!?
ごほごぼッ、はア……………！　きつ、貴様の混沌の核があ…………げほつ、凶太すぎてえ
？　反逆のつもりかあ？　ちよこざいなつ…………あ？（さつきよりも大きいよお？　私の
フェラでいっぱい興奮してくれてるんだ？　もつと頑張らないと…………！　レミヤ君だ
けのお口ホールだもんね？）」

ソレを生成出来るのが俺で射精し痕幻異璋を供給するのが俺の役割の一つであるらしい。

涙目でグシグシ目元を拭きながら心なしかサイズが拡大してるチンポを凝視。

喉を二回も鳴らしながらムセ込んだのを思い出したのか、中々啜えてくれず大変僣越ながら『早くフェラしてください』をオブラートに巻いて巻いてだったのが先述の挑発だったがかチンツツとしたっぽい……

もしかしてチンポ噛み砕かれる？

僅かばかり腰が引けてしまったが彼女は何と！ 天然のシルバーアクセサリの如く白銀に煌めかせている髪の一部を、俺のチンポに巻き巻き仕返したのだーッ!?

「髪には靈力が宿るそれは知ってるだろう下僕よ？ 凶に乗りすぎた外ナル神ノ王よ……貴様如きが倒した神の力を奪い、この身へ宿す我様の——オーバーロード——に耐えれると思つてかあ！ ぐぐう、んんふッー！ んぐう？ ぢゅぶツ？ ぽおツ？ ぐぶぐぶぐぶぐぶぐぶツ？ チュルツ、ツパハアア？ ゴヂュゴヂュツくくく？くくくッ？」

ヒッ——くくくッッ!?? メギド様のマジフェラ……これは懺悔……ですわあああ

くくく!!

チンポ曲がつてる！ 喉頭まで折れ下つてるううくくく!

ウィッグだから神経は通つてないのに硬く結びつけた銀髪に分泌液が付着すれば、その度に口内が真っ赤になつて……超越者に口答えしてしまつた俺にムスペルヘイムなる灼熱業火で火傷どころじゃ済まされない!

「ブヂュッ! ブヂュッ! ぶぼふふうう~~~~ ガポツ、チュバ、チュバツ?

ヂュヂュヂュ~~~~ヂュヂュヂュ~~~~ フーッ? フフッウウウウ? ブボ、ブ

ボ、ブボツ……?」

ぎえ、ええええ……!

頬窄めアヒル口高速フェラチオ………今までセッククスだけでフェラをしてなかつた遅れを取り戻さん、気泡を片つ端から爆発させるジユボ音で耳まで又かれるうツ~~~~!

喉全体で扱きながら、舌使いがまたエツツロイ!

「ジユルル~~~~ズズズズツ! れろお、ほおお~~~~? ふんツ、ふむぐツ? グヂュツ

? チュヂュツ~~~~! ハアー、ギチュツ、ルヂュヂュヂュ? クチュルルルツ?」

あわわわ……わあああ……

思いつきり啞え込んで舌先で玉袋やヘソの周辺まで舌を伸ばし届かせようとする執念を感じる——アルス・マグナ。

「メギド様ごめんなさい射精しますつ!! ああああああ~~~~くくつ!! お

おお、まだ出るッ！ 飲んでくださいッ~~~~ぐツ、ふふふ……ううう……うう……ふうう……」

っ、びっ、びゆるるるるっ

(あつ……あつ……？ レミヤ君のお彼氏せーえき……？ 胃袋に直接流し込まれてる?? 赤ちゃんの素？ お口から妊娠しちゃうよお……？ おまんこからも産まれたら双子だよお……それもいいけど?)

ビュグツ……ビュグー、ビュツー、チュチュゾツ……くちやつ、くちや……り……ゴツ、クンツ……♪

「ハアー？ ハアー？ レミヤくうん……しゅご、しゅごいよお……?? 絶対今ので妊娠した？ お口から赤ちゃん産まれちゃう……？ ああ~~~~ん？ ほお？ ひゃんほへんふのへはよお……？」

俺の彼女がエロ過ぎる!!

短いスパンで口内射精を大量にしまくったからなのか、テンションが少々可笑しな事になつてる。

セリフだけだと閻属性、ではなく病属性。仄かな狂気を感じるセリフだけどそんなに上の口からチンポ奉仕するのが良かったからトリップしてるんだらう。

あーあ、衣装も精液だか唾液なのか分からないけどエッチな体液でドロドロッ……俺

のチンポ唾えながら、一心不乱だったからなあホント！ 彼氏名利に尽きる！！

「ねっ！ ねっ！ レミヤ君！ まだせ、精液……大丈夫かなあ……？ 私まだレミヤ君にお口エッチ……したくって／＼／＼ 何だか止まらなくなっちゃった？」

配信16

♡

「……………『一回休もうか』……………つて言おうとしたんだよ？ でもさあ、彼女のETCHなお願いを叶えない甲斐性無しじゃ無くなっただぜ俺？ ほらあ！」

「きゃんツ!? かかつ、おちんちんの皮を剥きながら巨大化したあ／／レミヤ君はおちんちんの長さ……………普通つて言つてたけど私はお口小さいからそのつ……………ベツ、ベルゲルミルだよっ！ おつきいおつきい？」

「そつ、そおかあ……………？ 俺のチンポは凍依だけのモノだから上でも下でもしやぶりたくなつたら遠慮無く言つてくれ！ 俺はお前に応えるぞ！」

「…………………………うゝゝ？ ねつ、ねつ？ 今度はいらまちお……………してみない／／」

鼻先に鈴口を擦りつけながら早期復活したチンポの匂いを詰め込んで、うつとりしながら自分の性器を人差し指と中指——何時もそうやってオナニーしてるのか——で手探りを彷彿とさせる動きでマンコを緩く刺激していた凍依。

イラマチオ……………意味分かつて言ってるのかよコイツは!! 再三にわたりしつこい様だが俺の彼女エロすぎ！

「どおかなあ？ 丁度ココに……レミヤ君が……ハアハア……掴んで腰を動かせる取っ手があるよ？」

自分から強引ピストンされたがってるのか？……！

掴めるトコってツインテールの結び目じゃん！ ウィッグだけ髪って女の命じゃん！ それを乱暴されたいとか……

「……………怖気づいたのか下僕う？ そうだよなあ、痕幻異璋を搾り尽くしてやったかなあ！ 性欲すら残っておらぬ虚無の神になったか新しい下僕を見つけ出すのは面倒だが……………（チラツチラツ／＼／）」

おおー！ めっちゃ煽られてるけど全然悔しくは無いぞ！

根底Mな彼女が上からの物言いながらも、視線は中二モードになりきれず素のまま。

やってイイって言ったのお前だからなっ……………！

「ツ!! ぶむツ!! ぐぐううう!! ぢゅぐんツ? ぐぢつ、んぶツ? ぐぼツ?

ぐつ、ぼぼぢゅぐぐるううツ? んんっアアアアツ?ー? むぐツー! ぐ

ぶツ、ぐぶツ、ぼオ、オ、?」

分かるよ、俺には『凍依メギドがすつごく喜んでるの』

喉奥イラマされてなのに両手回して膝を抱え込んだじゃう救いようのないマゾー!

高圧的な命令口調がメギド様の持ち味だけど、そういう奴ほど内心は虐められたがってる、より強い相手に倒伏されたいんだ！

暇つぶしに読んでた心理学の本に書いてあったけど見事に当て嵌まってるよ！

『理想の私』って凍依はおっぱい揺らしながら語ってたけど、イラマチオされるのも理想だったって解釈でいいんすかねえ凍依さんッ？！

「ううぶッ？ うぶん、うんッ？ んオ？ おお、くくあ、つ、くくえぐううくくんううくぐびゅッ？」

うわあ……こんな煩悶した声で配信したらどんくらい炎上するのかなあ。

築き上げてきたメギド像が一瞬にして底辺になる、いや流石にそんな事はさせないけども……俺にだけこんな不細工な声を聞かせてくれる訳で！

「……………くくく？ ンッ、ボッ……………お……………うお？ が……………ぶッ……………オオ……………？」

なんつーフェエラ顔！ 女子が鼻の下伸ばしていいのは男のチンポ啜えてる時だけっ

！

チンポ狂いってタイトルのエロ漫画、家にあるけどその表紙を飾れるわ今の凍依！

ああ、チンポの感覚薄くなってきたあ……膣内摩擦の時もだけど、カリから上が痺れて来るんだよな。

ンツ……………？　ぢゅうううううう……………？　はあはあ……………舌で巻き取ってえ
……………？　んぢゅぢゅぢゅくくくズツ……………？　ハイッ！　綺麗になつたよ！　彼
氏のおちんちんをお掃除するのもお？　ハア、ハア、彼女の役目だよ……………？」
もう一回だけ言わせてくれ
俺の彼女エツツツツ
!!!!

配信17



ん？

「凍依……チン毛が歯に絡まつてる……ぶふっ！」

「えっ………キヤアアアアア／／／　そーいうのは黙っててよう／／／　ばかあ………」

「いてっ！　黙ってたらそれはそれで怒りそうじゃん！　いいからはよ取れよ、シユール過ぎるぶふハツハハハツ！　メギド様がチン毛チン毛くくく！」

「やややああああ……ああ………／／／　もうもうもうっ………レミヤ君、嫌い………にはなれないよお………もお？」

「次は牛の真似か？　おっぱいは牛よりおつきいけどな！」

「\$＃&10？全≡・%くくくくくくく!!」

意味不明な楔形言語を放ちながら右頬を熱く、左頬を冷たくしてポカポカ……の代わりに頬を俺の胸にスリスリしながら怒………ってるの？

可愛いなあ……俺の彼女！

長く付き合ったかじゃない、俺ら付き合つてまだ二週間も経過してないけど最高にラ

ブラブでエッチなカップルになってるわ!

「????? ねっ! ねっ! もっ、もう一回フェラチオ……し、したいなっ//」
 「えッ?! まだ足りない系?!」

いやっ『フェラチオさせて(はあと)』なんて、彼氏なら誰だっって言われたいだろっし俺もぜんっぜん構わないけど、フェラに嵌まりすぎじゃない凍依!?

「二日で四回もフェラチオするのっつて変なのかなあ? レミヤ君のおち、んちん……まだ硬いから// お願い……?」

「わかっ! わかつたああよ! ほらっ! もう完全勃起したった! 凍依のフェラおねだりがエッチすぎて声だけで興奮しちゃったぞ!」

そりやおっぱい(無意識だけど)むにゅっ……させながら袖を掴んで上目遣いで舌舐めずりの四連コンボは、不能でも強制勃起させられるっつーの。



「こうしてっロックオンからのくっ誘導ミサイル! おおっし、一機撃破……あ、っ! 側面からの攻撃で俺がう、!? ん、……んッ……(俺のチンポもロックオンされてるだけだな)」

「れちゅれちゅっ♪ 撃破したら直ぐにターゲットをレロオ、ピチャ、ヌプチュ? 切り替えてを素早く繰り返すんだよ♪ レロンッ、はぶっ、んちゅっ、ちゅぱッ?」

凍依もアドバイスとフェラチオを交互に行ってくれている……

電気街で凍依が購入したフライトシムを俺が借りながら初見プレイ。

気象や背景の移り変わりが非常にリアル、なのだが寝転がった彼女が不規則にフェラしてくるから画面やコントローラー操作よりも、チンポへの快感のが気になってしま
う。

「へろオオ〜？ ふふつ、彼氏おちんちん♪ スティック型のコントローラーだよ
ねえ……？ お口で操作しちゃうね、はももつ、ヌプルツ、チュクンツ、ニユルンツ、つ
ぷあ？ 大好き、チュツ、チュツ、チュツ、チュツ？」

「あつ、ちよつ……上手く出来てるの……につ……ああつ、死んだあ……残機0になつ
たじゃんかかあ……ああ……！ ああつ……あつついわあ……凍依のフェラチオ
上手すぎつ……」

唾えたまんまぐりぐり回転。舌も鈴口を出発点として亀頭をくるくる舐め回してく
るから堪らない！

一気に搾るんじやなくて悪戯みたいなねつとり、時間を掛けてチンポを楽しんで焦ら
した精液を飲み込む為腹を空かす口淫。

くっ……くっ……こうなったらオート操作に任せて、俺も——

「ん、んっ、くくく!? んばあ! はうッ! レ、レミヤ君そこはああ／＼／」
 ずつつつと気がついてたが敢えて触れなかった。凍依のロリマンは相次ぐフェラチオによつて失禁となすり付けてしまえる世界地図が、ベッドシートに描かれてしまつて
 いる。

「くちゆくちゆでトロトロ! 愛液の量多過ぎだろつ、フェラしてる時も何度も何度も
 イツてたもんな!」

「きゆううううんくくく? バレちゃつてたよお、恥ずかしい／＼／ ああああつ?
 でもでもお! レミヤ君におまんこイジワルさりたいよおお……………／＼／」

右手を伸ばせばベストな位置に! 彼女の股へ届いたんだが……………これも『狙つてい
 た』のか?

ツルツルのびったり筋マン! けど今はヌルヌルして愛液をまとわり付かせた指を
 凍依の眼前であやとりみたいに伸ばして、如何に感じているのかを直見せさせる。

かああああ……………オツダイなのにな『一時的にどちらも赤い瞳』になる現象、手品
 か?

それだけ羞恥を覚えているつて事、うオわああ……………手を筋中に突っ込んだだけ
 せつつまあ……………!

手で狭いと感じるんだぞ？ チンポが収納しきれつこないのに毎日挿入してるんだもんなあ〜と人体の神秘だよなあ☆

「はあん！ あああ……………？ らめつ、イツちやうよお……………レミヤ君のおちんちん、もつとおしやぶりしたいのにい……………？ ジュルルツ？ ンプツ、プボツ、んふう、はあ、ジュ、グボツ、ンツ？ んんんん〜！！ ンツ!? んんんんツ〜？ ふああああああアツ？」

しや！ しやぶってるのに声出さなつてええええあああああ——

どびゆびゆびゆう！

ビュグルツ、グビユ、グビユビユビユツ、ビユツ、ビユツ……………ブシュツ、シユパツ

……

啜えイキされながら二本の指で筋イキさせる。

オリーブオイルみたいな手触り、アルコールジェルな質感、それらが融合して執拗なまでに手先を絡め縛るのが凍依のメス粘液。

「えっ……………これつてば……………おもっ！ お漏らしかッ！ ちよつ、ちよつ、ちよいイ!!

凍依おまつ……………！ シーシーしちやつてるぞ！ マンコ締めて！ イキ終わつたからつて緩ませすぎ！」

動画配信者だからつてサービス振る舞いすぎでしよ、俺の彼女……

「やはあああ………みらいへええ………う？」

チヨロチヨロチヨロ……川のせせらぎの様に愛液の泉に異なった色彩が接合される。

おまんこ、正確にはその上の小つこい穴から洋々たるおしつこが流れシーツの白亜を支配する。

ぷしやああつて、ド派手に潮吹きアクメかましたのがスイツチになったのか。

「恥ずかしいけど恥ずかしがらなくていいよ！俺だけにエツチで恥ずかしい凍依を見せて欲しいって言つたらろ！」

我ながら無茶苦茶強引だな、オイッ！

「ふええええ………？この歳になつて初めてしちゃつたあ………初体験つて………

そんな初体験は要らなかつた………んだけどお………／／／

くうううくう！！ お漏らししても俺の彼女はカワイイ！！

配信18



『汚いからいいよおっ／＼／＼』って、顔を隠す凍依に興奮しチンポを硬くさせながらおまんこをちゅーちゅつークンニし、再び彼女をアクメさせた後無言でバック挿入し本日何回目か忘れたけど射精キメ込んだ……☆

「ふひゅー？ ははぁーふふつー？ ゼーハー？ ひどいよお………はふう、うふうー………？」

俺は流石に勃起が収まってしまったし金玉の中身も干からびた。チンポも特に鈴口に痛みがある……

のに彼女はまだイケると、お尻をふりふりさせながら開ききつてザー汁だだ流しマンコを魅せ付けて来たから苦笑してしまう。

いやー性欲が強い彼女で毎日大変だわー（棒読み）



あんだけ膣内射精に口内射精したつのに、起床後に携帯を確認。

すると確実に凍依から（偶にメギド様から）おはようメールが届いている！

——レミヤ君♪ おはよう♪ えへへっ、学校終わったら一緒に帰ろうね………？

きよ、今日はどんなエッチ……しよつかなあ？——

「……………恐ろしいな、俺も自分で自分の性欲が怖くなってきたぜ……超越者から痕幻異璋を供給されてんの俺の方なんじゃ」

もう勃起しないかも、そう思いながら帰宅し布団に入ったのに彼女メールを黙読しただけでシャツ、キーン！

学校なんてサボってセックスしてセックスしてセックスしたさある！

まあでも凍依は多少サボろうが全く動じない成績だけど、俺がなあ……極めて面白い『普通』な通信簿なので一回サボっただけで響くだろう。

留年なんてすりや高校卒業後の『凍依とイチヤラブ種付け夫婦セックス同棲性交』が実現不可能になっちゃやうだろうし……両親が絶対に許してくれない、それは困る！

▼▼▼▼▼▼▼▼

(レ〜ミヤ君……?)

休み時間に彼女と視線が合う。

俺は特にアクションしなかつたけど周りを確認してタイミング良く——この辺はゲーマーである反射神経が活かされている？——俺にこそつ、と手を振ってくれた！

ああああああああ！ 自慢してええええええええ!!

俺の彼女はロリ巨乳で低身長で動画配信者で銀髪ツインテオッドアイで紐パンで黒

メギド様が最も得意なアクションゲーム。

大げさにリアクション（それが既プレイなゲームであっても）をしてくれるから操作キャラよりもおっぱいがグリーングリンの、たわんたわんにテーブル上を東奔西走！

垂直であるならば乳ワイパー状態、窮屈な胸元が擦られる度に、かつての俺もシッコさせていたっけ……

（もうコメントが400も書かれてるよ……すっげ『見抜きイイツすかw』『おっぱいが邪魔でお顔が映ってないですよメギドさんw』『制服が爆発しそー！俺のチンポも爆発寸前ww』……いつも通りエロコメだらけだ）

残念だったね。

キミらがどれだけ媚びコメや投げ銭しても氷獄メギドは——煉清凍依は——俺の物なんだよ

「高難易度でも我様からすれば造作も無いEasy Mode……！ 対ナルモノ、アルケミストである分身をゲームへ送り込んだからなッ！」

*プレイヤー名を自分にしただけです。

おっぱいを二の腕で挟みながら、ボスを倒したり目隠ししながら、穴だらけのトゲだらけのステージを突破したり……本当にうめえな!?

「ヒヤいんッ!?! かあ……んふつ、あああ……！ ハッ?! いいい、今のはだなッ

……実は我様の玉座はううんッ！ んくうう……ハア、ハア……チャンドラプラバからあ……奪い取った波光の月宮にヒッ!! のの……つてるヒユ……? からあ……よすぎッ……あんていしなッ……いんらあ……?」

おーおーコメント欄がザワついてら!

大胆不敵なメギド様が涙声になったり気を取り戻したり、意識すると『私はバランスボールに乗りながらプレイしてます』

証明する為彼女は中型サイズ、絶妙にテーブルと隔離される様にしていたバランスボールから降りて画面の視聴者達へ見せる。

『なるほどー体幹の安定をとり続けるのが難しいから、エッチな声でサービスしながらミスが増えてしまったんですね!』

まあ、そういう事しておく。

真相は………

配信19



「んやあ……はあ……？ 我様にとつてえ……へあうつ、ハンデにもならうンンツ!!
………？ ない……なは……つ……つあう？ げ、ゲームオーバー……だどつ我様が
ひやうツ！ ははっ………ンツ！ くふあ……？」

俺が『メギド様の下で寝転んで挿入してる』

バランスボールはダメー。カメラ外なので当然俺の姿は捉えられず、チンポ挿入した
ままの背面騎乗位——初セックスのホロ苦辛い思い出が暫し過つたが——で動画配信
中！

ミツチリと子宮を亀頭がプッシングしたまま30分、リクエスト延長されてしまえば
それ以上を彼女は耐え忍んでセックス中だとバレない様に振る舞わないといけないの
だ！

俺自身も快感は走っている！ 肉のプレス機である乱門にチンポぶっ刺したまんま
長い時間声を出してはならないのだから！

「んんう……あう……ふう……ふっ……？ どう、どうだあ……超越者は状況ほお
……？ 選ばにやつ……はっ……？ ンッ、ひっ……？」

俺よりも配信中ずっと顔を晒してるメギド様のが辛いのは間違いないけどな。

バランスボールに乗っていると「見せかける為」に不規則に上体を揺すらなくてはならない。

そうすれば子宮口をこじ開けようとしてる俺のチンポが、情熱的にハグする愛液トロマンを刺激してしまうので……

(悶えてる悶えてる……うッ、！？ 俺にも相当な性感が辿ってくる……！)

俺は寝そべったまま携帯から動画を拝見している。

本人が目の前に(ていうか結合中)居るのに何故小型端末で視聴してるんだか。これでコメントやらメギド様の表情を確認している。

「なあ……にい……？ エロ下着を見せっ……？ ふふっ、はっふっ……？ てくだ
しやいだとオ……良かるう……？ 我がデユナミスよ……？ スヴェル・ニーグレド

——内ナル影カラ生マレシ乳圧殺ノ海溝——を開門せ……ッ……？ しえ、
しえよほお……？」

元々サービス精神が旺盛なのは承認欲求と性欲を晴らすためであるが、一層過激になったのは『配信中衣装のボタンがパイ圧に耐えきれずオートページしてパイズリ穴が

形成されてしまった』のがキツカケ。

動画越しなら例のエッチブラ……総レース仕上げの黒ブラジャーを見せる事に抵抗は無い。

ぐつ、ぐつ、パチインツ!

衣装の予備はあるし裁縫も出来ちやうメギド様は、力任せに胸元を引つ張ると

バニユンツ! ボインツ! たゆつ、たゆんつ……たつぷんツ?

(すつ……げつ!! ボタン弾けたらおっぱいもブルンブルンツ弾けとるう?! 余波で暫くおっぱいが揺さぶられてるの最高にスケベなパイだぜっ!)

コメント数がヤバイ、サ胸効果(意味違)で一気に20000コメ増えた! 投げ銭も1、10、100、1000、10000うわつ100000越えたあ!?! いいのかよこんなに貰って、楽な……とは言わないけど就職する必要ないんじゃねーのメギド様!

やはり一番多いのが『その谷間に俺のチンポ突っ込みたいですw』とか『パイズリして欲しいwww』である。俺も当時は大体同じコメを打ちながらオナってました。

明日こそパイズリして貰う……! その野望を忘れずに俺は腰を回転させぐつしやりした局部を責め直す。

「んぐツ!?! きししヒイイ!! ふひゆぐつ、ぐううう……? ハアーハアー………?!

つつ、ぎのステージへえ……イクぞお……?」

最奥までネジ入れたままコリコリして軟骨を彷彿とさせる感触に我慢汁が止まらない。
い。

既に子宮口には先走った精子が入ってるのに興奮する!

「あう……うお……? はお、ああ……?」

メギド様も『下口デープキス』がお気に召した様で自分から腰をグラインドさせている!

最奥まで突き刺さったままがポイントで、最小の動作で強烈な快感を得られる。視聴者にもバランスボールに乗ってるだけとしか思われない。

入り口から奥までのピストンではホンの0.5から1秒の膣道く子宮への往復ラグがあるけど、グラインドでは常に先っぽが子宮ガン責めだからノータイムラグ!

(あつ……出るツ……ツツ!! うあ、あああああ……はあ、コメにも『でます』って書いてちやつたよ……気づかれないからいーけど……)

「~~~~~ツツ?? ヒハツハアアアツ? しゅごチンれぐひゅぐひゅさはあん……………」

ヤツ……べっ! バレたかつ!? メギド様も中二な演技を忘れて普通にアクメってしまっている!

すんなり持ち上げて『逆駅弁ファック』出来ちやえるフェザーでライトなウエイト♪

配信20



「練習しましょう！ 不安定な玉座に俺がなりますんでメギド様はプレイなさってください！ ふッ、ふッ、ああッ、うおオ!!」

チンポを気持ち良くさせる事に特化している彼女マンコは螺旋状に、ヒダヒダがミックロン単位で敷き詰められている！

ぎゅうううッ！ ぎちゅちゅッ、ゴッ、ゴッ！ ぐちゆる、ぶぶぐぐう！

動けば絶対にカリへと引つかかってくる！ そのつもりが無くてもゴリゴリと彼女の腔壁を破壊、再生、破壊、超越者だけにお手の物な能力に任せつきりで俺は背面から彼女の膝を抱えながらご開帳くく！ からくのズコバコスヂュズヂュズンッ！

さつき腔内射精した猛り液と彼女のアクメ液が潤滑油代わりとなつて、万力おまんこでもスルスル出し入れできる！ でもキツツイ！ そして気持ちいい！

「ふあひやはあああああくくく？ ツくくく？ できにやいよお？ こんなしせいじゃおちんぼきもちよしゆぎてえええ?」

「メギド様！ 簡単に諦めないで下さいよっ！ 俺はずっとお付き合いしますからホラッ、まだ残機ありますよ難易度を下げたつていいですから練習あるのみです！ 視聴

者の皆が貴女を待っているんですよ！ フンツッ！ フンツッ！ おっぱいブルツブルツで視覚的にも性的にも興奮ヤバマンです……!! いっその事この格好で配信しちやいますか？ なあ〜んて！ あっ、ブラジャー外れ落ちちゃいましたね♪」

「やらよおおおー……？ われしやまがいんらんまじよなのバレひやうはらああああ〜……？ でもお、でもおおお？ げぼくのほんきちんぽであたままれぐひやぐひやにヒイイイツ〜……？んっ、あんツうう？ はああああ？……？ げぼくちんほオ！ あいひようよふぎへええ〜……？ふアアアアアアン？」

もう中二とかじゃなくて舌を出しっぱのままアクメってるから何を言ってるのか分からん。

「ちゅふっ、んぶっ……くちゅはあ……？ もつとお？ もつとチューするのおお？」

「画面見ないとまたミスっちゃいますよ！クリアしたらご褒美にキスしますから！」

「ほっ、ほんどっ……？ がっ、がんばりゆうう……？？」

……クラツとする。いい具合に凍依とメギド様が両方顔を出して来て本当の自分と、理想の自分、どちらで対応していいのか混乱しつつもご褒美キスが欲しくてポーズ画面から再開する。

「このステージクリアするまでは絶対にイカせませんよ！」

「ううう……ううう……そんなあ……？ 下僕の分際で我様を弄びおってへええ

「？」

イリジウムな光彩の銀髪ツインテが俺の鼻を擦る。ウィッグなのに焼きたてお菓子の香りは反則だつての……

そういえばメギド様の赤と青の縞々ボーダーニーソ。

サイズを若干小さくしてあまり肉付きの無い脚を『むっちり』に魅せる、視覚のマジックを利用してゐるらしい。これは彼氏だけの秘密！

「これが炎と氷、アキレウスとスヴェルが共同制作しメギド様に贈ったとされるグリーブなんですわね!? ほほおー！ 一見すれば防御力が薄そうですが……スリスリスリスリ」

「ひゃああああああくくん? はっはっはっはっ……? しゃわつ、るなああ……ちをこがしやれ……しんけいをともしやせられ……? やめっ……あふッ!? んんふふううくく? イッ、イクひいひいくく? んんん? ンッ……??」

……あつ? はっ? びゅっびゅっ……してるっ……? れみやくんのせいえきい……おもいよお……はっ、ハッ、アアア……くッ?」

つつ……!? イクつもりもイカせるつもりも無かつたけど、ニーソの中に手を入れてぐわしぐわし弄られるのが良かったらしく、真下から真上へ精液強制移動させられたあ……!

ヒダの1枚1枚が意思を持って俺の精液、痕幻異璋を欲しがっちゃってまあ……可愛
いエロいつたら！ 俺の方がチンポ壊されそう。

「えっと、凍依……？ チンポ掃除してくれる？」

「……………？ およいでえ……………レミヤくんのせいし……………？ うんっ、いいよお……
わたしから……………させてほしい、かなあ……………？ むちゆるっ、にゆるるっ、にゆ
ぢゅっ、ちゅぱっ、ふっ……………？」

容量オーバーした分である。

「あつ……！…… それめっちゃ可愛いな！」

「えへへえ……？……？…… 赤い糸じゃなくて白銀の糸……？」

エツチだからHカップこの謳い文句は流行らせたい！

その不和の林檎×2は楽園から奪ってきたに違いない。こんなおっぱい大きい彼女となら俺も楽園追放された方がいい！

銀髪の一部を俺の腕に巻き付けて『レミヤ君は私の物？』アピール。いじらしく甘えてくる仕草を見て明日もいっぱい膣内射精してあげなきやと思いました！

「シュークリーム……一緒に食べてたらおちんちんとすり替わってたよお………／＼／」

休日だったので『とりあえず』午前中だけで三回セックスした。

軽めの昼食を凍依に作って貰って、ヤツに俺が買って来たカリッ、フワツな食感で人氣を博している、特別店でのシュークリームを食べていたんだが………

「あむっ♪ ちゅっーっ♪ ちゆるちゆるっ♪」

生地を一噛みし空洞となった場所に唇を付けたら、ストローで吸い込むみたいにチューチュー……子共っぽい食べ方だけど可愛い………！

毎日聞いているフェラ音としか思えなくなった俺は、新手のお誘いだと勘違いして勃起

チンポを——彼女の手にあるシュークリームとトレードしていた——
 「また買ってくるよ」

「えへっ………？　こっつ、今度は食べてからエッチ………だよ………？　お、お誘いと
 とかじゃないからね／＼／＼」

*惨劇は繰り返されました

▼▼▼▼▼

パイズリの歌♪

それでは、お聞き下さい。

デツカ乳にい〜♪　チ〜ンポ挟み、上下にシッコシッコ♪　交互にシッコシッコ♪

くつちやくつちや、もつみもつみ、おっくぱいカタストロフ♪

膝上、馬乗り、縦ぱくイズリ♪

ズツチャズツチャ、パンパンツ、アグレッツシヴ♪

『ねえねえ、おつきい　おっぱい見てたらさ、チンポがかたあくなつちやつたよお………』

『まあ大変！　すぐにおつきい　おっぱいで、挟み抜きヌク必要あるみたい！』

こ〜んな法律、あつればイ・イ・イ・な♪

パイズリレスキュー、でも昇天（射精♪）

『巨乳には竿を挟ませろ』

こくんな諺あつたらイ・イ・イ・な♪

ズリパイ、乳ハメ、乳内挟くく射ッッ！

配信22

(なんて素晴らしいパロディメロディなんだ……この間で『凍依にフエラして貰う』ミッシヨンは完了したから、今日はパイズリでパイズリでパイしてズリされるぞおっす！
ソレをご褒美って考えたなら何時もより授業に熱が入りそうだ！ チンポは既に昂揚してるがなっ！)

朝の登校中イヤホン耳にパイズリ系同人サークルで製作された面白可笑しくパイズリの素晴らしさを浸透させ、アットホームかつお茶の間でも流せそうな歌詞に俺は深い感動を覚えリズムにノッていた。

……………多分周りからは引かれたっぽいな。

普段が居ても居なくても差し支えなく『何の為に生きているの?』と問われても『さあ……………?』としか返答出来ない俺でも、ウツキウキにスキップして校門くぐれば注目を浴びてしまう。

キモツ……………どつかからそんな声がしたの聞こえたぞ。

(ふうん、好きなんだけほぎけ。俺には最高に可愛くてエッチでおっぱい大きい彼女が居るんだ。他の女にはどう思われようが構わねえよ)

調子に乗ってるなあ俺、口外出来ないのが残念でならないけど彼女と二人だけの秘密だからな。

そんな彼女のHカップ、この学校で一番大きいおっぱいに充血して硬くなって太くなった既・童貞チンポをメツタ挟まれる数時間後に想いを馳せる。

スーパーアーマー状態になっている俺は悪い意味で一瞬だけ認知される程度の存在感を得たのに、教室に入って形だけの挨拶を交わしたらもう無害な『生徒その29』な数合わせとして誰の目にも留まる事は無かった。

予めメールを打っておいた！

『放課後、凍依のパイズリ処女を頂くからな！』

……………凍依が彼女じゃなかったら既読スルーされて俺の頬はダイレクトパンチか、セクハラ被害の申告をされて破局していたに違いない。凍依だから強気な姿勢でこんな媚薬を服用させた相手にしか出せないであろう、文章を送りつけてしまえるのだ！

『……………えっち……………？(いいよ?)』

かわついい……………！ 眼鏡をカタカタさせながら文面だけで『私もそのつもりだった、私の方からパイズリさせて欲しい』と人柄良く性的なコミュニケーションが大好きな凍依の肉声が伝わって来る様だ！

彼女は表——煉清凍依の姿のままでは誰からも相手にされなくてもいいけど、裏

の顔——氷獄メギドを唯一知っていて尚且つ、彼氏である俺にだけは相手にされたがっている。

勿論わざとだけ少し無視しただけでもう泣きそうな顔した事もあった……すぐに抱きしめて落ち着いて貰ったら、無言でキスされたラブコメシチュに興奮して押し倒しちゃったけど（お詫びの膺内射精）

（パツ、パツ、ぱいず……り……い……／／／心の準備しておきます………？）

はあああああ……俺の彼女可愛すぎかよっ！ 彼氏が望むことならばが非でも多少無茶振りされたって応じてくれる、こんな良い子他には居ないって……空気同士の縁を大切にしねえとな……

チラツ、最後尾に座る彼女の方角に首を向けたら他の生徒には相手にされていないのを利用してセーラー服でピッチリホールドされているけど実は………な『二つの巨大パチンコ玉』がぶにゆるん♪

両手を合わせて真上からぎゅっ♪ 前腕で横からもギュツ♪

根元から搾る様な圧に呼応してロケットの表現ではヌルイミ サ イ ル

（……………／／／）

ちゃんと黒ブラ着けてるの!? って、跳ねっ返るおっぱい見て（勃起しながら）心配になっただけど何とツ!

時間にして2秒程度だが彼女はブラウスの2と3番目のボタンを外し、見事な代名詞であり凍依Ⅱメギドだと実証する『特盛り用の丼』を俺へ向けて晒してくれたのだ
……………！

(ぶらじやーちやれんじ……………恥ずかしいからもうオシマイ！ つ、続きは家に帰ったら、ねっ……………?)

あれだけ『今日は張り切って勉強出来そう！』とかイキってたのに全然集中出来ませんでした。

クソツ！ 凍依のせいだぞっ！ そのおっぱいが巨乳がいや爆乳がHカップでズリされパイされビュツビュツしてやるからなあ!!

配信23



「なあ、凍依」

「ん？　なあにいよ」

返事するだけで俺に『彼女が可愛すぎる』反応をさせないと気が済まないのか凍依は。メギドコスした彼女は俺の脚の間にすっぽり入り込んだのを定位置にし、一時間くらい初動売り上げ150万の大人気アクションと一緒にプレイしていた。

優しい彼女は中級プレイヤーの俺をボコ殴りにして快感を得ることはせずに、真下から立ち回りのアドバイスをしてくれる講師の様な役割を持つてくれている。

……………偶に中二モードとなつて、音速で俺を殺してくるのは照れ隠しだろう。

「お前と遊ぶのも楽しいけどさ、パイズリ処女！　そろそろ俺が貰つても良いかなっ!?　凍依だつて『心の準備しておく』つて言つてたし今座つてる時でもさ……………チンポ、ガツチガチになつてるのスカート越しから分かつてるでしょ？」

俺の言葉に操作をミスつたのか良いタイミングで彼女のキャラが場外へ転落し残機が尽きた。

「ハイッ（何もしてないが）俺の勝ち！　ゲームは一先ず置いてパイズリパイズリパイズ

リ！ いいでしょ〜凍依〜！」

「……………／／／おちんちん……………分かるよつ、今までで一番エツチな事になってるの……………？ まつ、まだ心の準備……………学校からず〜と『帰ったらレミヤ君にパイズリしてあげよう！』つてそれこそ自分で自分を洗脳させる為に自己暗示してたつ……………んだけどお……………／／／」

「まだ恥ずかしさを消せなくて時間稼ぎしちゃつていた……………つてコト？」

「う、ごめんなさい……………もつ、もう……………だいじょうぶ……………ダヨ……………カレシオチンチン……………ワタシノオツパイデハサム……………カラ……………／／／」

グイイツ！ グンツ、グンツ！

ブラとお揃いの黒紐パンを履いたお尻を俺のチンポだけで持ち上げ兼ねない膨張つぷりをスケベで、誘い受けな凍依がスルー出来っこない。

凍依がロボットに憑依した様なカタコト口調のまま、焦らしてしまった謝罪をしベツドへ———凄く近いけど手を繋ぎながら———いざ参った！

しつかし、パイズリつて生セックスよりも恥ずかしい物なのだろうか？ セックスは戸惑いも不安も無くヤリまくってるのに、パイズリだけは後回しにしようとする謎感性。

そんなトコも可愛いんだけどな！

「下僕よ、貴様の痕幻異璋について我様は極秘に解析していたのだがな……ふんツ！」
ドシツ！ ぼわわんツ！ たぶんつ……ふんつ！

「この胸部を見るが良い！ あらゆる時空次元においても二つしか存在しない奇跡の産物——レガリア——を我様はどちらも所有している！ アザトース！ 貴様が持つヒュペルボリアを挿しこめば、痕幻異璋が覚醒反応を起こすであろう！ まだ我様は『本気を出していなかった』のだからなあ！ ナアーハハハハハハッ！ 封印を解く鍵を持つのが……クククク、きしやつ、貴様のチチチチチ………チンポ………／／／だけなのだあ……？」

ううううオオオオう！！？ メギド様のおっぱいが俺の腹部に乗り込んでキターー！！

この姿勢はパイズリのお手本、テンプレ、スタンダードな『膝上パイズリ』!!!

ここから派生バリエーションが生まれた始祖。膝上なくしてパイズリは生まれなかったパイズリの母であろう……

確かに148cmにHカップ、これだけ極上なロリ巨乳はどの次元を探索してもメギド様しか居ないだろう。

彼女のスリーサイズは『B93 W56 H86』 同世代の女子高生と比較し身長がやけに低いけど胸だけは突出し、腰周りとお尻だけ都合良くお肉が盛られていない！

超越者はボディだってウルトラスーパーで反則なのだっ!!

「んっ……………／／／ 貴様はよく働いてくれているからな。ほつ、欲しければやるぞっ……………／／／ 下僕への労いを忘れぬ我様が支配する星々の様に、巨大な約櫃だっ……………」

背中からするりつ、ブラジャーだけ器用に外すメギド様は——表情は凍依のそれ——投げ捨てずに俺へ手渡ししてくれた。

おほおおおお♪ メギド様の体温が感じられる脱ぎたてのブラジャー!! 視聴者プレゼントがあつてもこの肌の香りと温かさだけは、残らぬさ! 彼氏にして唯一の下僕だけの特権がまた発動しちゃったぜ☆

この際だからじっくり観察を……………ほう、黒のカラーとレースの刺繍で誤魔化されているが手に取ると『大きすぎてあんまり可愛いとか色気あるとか思わない』んだな。

だって頭に被れそうなカップだもん、少し小さい帽子だよ。大きいと高いし種類が全然無いつて聞けど本当なんだなあ。

男からすりやチンポ勃起させる魅惑の塊だけど、女からすりやメリツトなどほぼ無いのかもしれない。

まつ、遠く無い内に結婚して子供生まれるから赤ちゃんを育てる時に多大なる貢献があるかもしれない!

「あのつ、メギド様のブラジャーなんですが……ホックつて4つもあるモンなのでしようか？」

「ううううううっ！　うるさい黙れえ、！！　我様のスケールが大きすぎるのだッ！　フハハハハハッ、アーティファクトでも収まりきれぬ我様のレガリアに震えろおおッ！！」

あつ、恥ずかしかったんだな。

このブラジャーはポケットに仕舞つて暇な時にオカズにさせて貰うとして……リアルおっぱいをターゲットに定める！

「?!?!?」
「デッツツツツ?!?!?」

生乳は見てるし触ったけど、けどっ！

視線がやや下からで腹部に押しつけてるから、ミサイルがさらに縦長のシルエットを形成してしまっている!!

ジャキーーンツ！

鋭い音がしそうなスタイリングでも

ぷにゅにゅにゅにゅっくくん♪　たわぼわっくくん♪　たぶたぶくくん♪　ぽによろろく

くん♪

低反発枕よりもぐつつすり安眠出来そうでお餅よりも伸縮性に優れて、桃よりも〃割れ物注意！〃の張り紙が必要な彼女おっぱい!!

生 生 生！ 生のセックス、生のフェラチオの次は生のパイズリって『エツちな通信教育講座』で皆も習ったでしょ？

「メギド様のパイズリ！ お願ひします！ 肉鍵が暴走して大変な事になっちゃってますよお!! 痕幻が溢れて止まらないでしゅうう！」

俺は一切手を動かしてないが生おっぱいの熱を感じたチンポが前後にビタツ、ビタツ、エレベーターのボタンを押すように乳首を俺と俺のチンポだけが触れられる乳肌を自動プッシュ！ じゃれついてしまっている！

「くひにイイイツツ~~~~!!? こらあ、げ、げぼくう……………? 我様へ口答えするだけでなく痕幻異璋を無駄に消耗させるとは………… 貯蔵槽立場を忘れてる貴様を躡けてやるのも主の役目だつ………… 絶氷と灼焉の挟間で果てるが良いい」

ばぎゅんツッ！ ずぼツ、にゅにゅううううずりつ、りゅぢゅぢゅつ、ずしゅつ、ずしゅつ……………?

ツこお!? これがアッ!? 生のパイズリかあああああああ!!?!?
膝枕されたらデカすぎて彼女の顔を隠してしまうHカップ!

よっぽどブラの作りが厳重らしく、外れた瞬間から左右へだらしなく広がってしまった。それが彼女のコンプレックスと知っているのも俺だけだあああッ!

「ふっ、ふふッ!!? ギギッ! ヌ、ドドドドドオ、オ~~~~!!」

特筆すべき点がない13cmのチンポは、93cmもの巨乳に対してあまりにも無力であつた。

挟まれた直後に鈴口から、ドバアアツ!

休火山の陰囊がおっぱいエネルギーを与えられて、活火山となり溶岩流を無差別に放流させてしまった。

あつ、まだ流石に射精じゃないよ? 我慢汁ですよ?

唾液ローション……は後でヤツて貰うとして、天然ローションをふんだんに潤滑油として活用して貰おう!

「はわわわああ!? ええ、うううつ……………// // これがパイズリかあ……………かたあくなつたおちんちん……………おつきいおっぱいでぎゅつ…つて抱きしめる……………// // レミヤくうん……………私のおっぱいどお……………// //」

おまんこ、お口、そしておっぱい。

『3つのO』の処女を全部奪つてやった俺は、腰とチンポを戦慄かせながら……………
「……………ッ! え……………!」

感涙のあまり声帯が退化してしまつたので、拳を硬く握りしめてシーツをバンバン叩く。

「あつ、もう止めた方が良く……………つて事かなあ……………?」

「ちっ……ちがっ………ッ!!」

「……………えへっ? 冗談だよ? 私ね……………このおっぱい好きじゃなかったんだけどね……………レミヤ君が大好きって……………/ / 言ってくれて嬉しいよお……………? おちんちんもピクピクしてお口広げてカワイイ……………? 私のおっぱい楽しんでね?」

メギドする事も忘れてしまいがちながら、パイ包みしたままオッドアイから真珠——涙——を落つことす。あざといくらいに猥褻的な彼女のセリフと仕草の破壊力は神々の黄昏よりも（俺の魂と精巢へ）膨大であった。

ぎちゅっ……………びちりっ、たぶちゅんっ♪

挟まれたら俺の亀頭だけ丁度見える!

「……………メギド様! ……これは新発見ですよっ、もう俺のチン……………肉鍵はメギド様のユニバース・レガリアに挟まれる事を前提に設計されたと思えません! 俺が下僕になるのも必然的だったのです! 凄くないですか? 70億人も人型生物が存在しているのに、相性バツチリじゃないですかっ! 嗚呼……………ありえない現象すら簡単に引き起こしてしまう俺の主氷獄メギド様……………そのレガリアに万歳!」

びゅっ! 俺が両手を万歳したのと同時に、精液に限りなく近い色合いと粘質になっている我慢汁がメギド様の額へ発射されてしまった。

心地よい場——ロクス・アモエヌス——はおっぱいの事だったんだ。

配信24



それもHカップな彼女だけのおっぱい！ 何だか挟まれてから俺の人生が本当に始まった気さえする……………

17年生きてきたけど俺は0歳だわ。

「?????????っ? いや、言うようになったなあ下僕よ? まだ反省が見られぬなこの鍵はああ……………? すんすんっ? 我様のムスベルヘイムと遜色ない熱気い? まこつとけしからん? 我様が全て奪い取ってくれるわアツ?」

多分、中二モードになって羞恥心を和らげようとしているのだろう。

炭で熱した玉鋼をハンマーで叩き、鍛え上げ焼き入れされた刀。触れた物の手を溶かしてしまふ熱烈なチンポにメギド様は自分の力と似たモノを感じ面白くなかった——
——そういう建前だけはポンポン浮かぶから、それも羞恥心を軽減させる為の工夫だろう。

「すげええ……………! Hカップ! ロリ巨乳のパイズリ! ちちち ツツ ……
ほオオツ!? ソゾうううツツ……………!」

「どお、どうりやああ? 対極の属性をこうつ……………:ハアんくツツ…………… 一部

分に集中しやせることだえ？ しゅごつ……？ 反作用エネルギーを引き起こし消滅

さしえあゝッ?! ひんッ?! おしよろしいわじゃあッゝゝッ? ハアー
ハアー……? パイズリ……われしやまもきもひいいのほお……?」

ズズツ、パチユンパチユンパチユンツ……♪ ブルンツブルンツ、りゅぐつ、りゅぐ
るっん♪

俺の方が『がんばれ? がんばれ?』してメギド様のパイズリをサポートしている絵
面になつてる気がしなくも無い……このまま射精と命を抜き取られて死ぬんじやつて
くらい俺は気持ちが良いからいいけどさ!

彼女のパイパンロリマンコは小さい膣内が持つ許容量に許されるだけ、ピラを並べ捻
りが利いた俺を悦ばせる為だけの構造になっている。

ただただ狭いおまんこ、ならばおっぱいは如何ほどのテイストなのか?

「重力が谷間だけに集つてきてます! 圧倒的な物量のパイ圧が精子を上げ下げして
まッ?! ボディは軽量級なのにおっぱいだけ超重量級とか痕幻異璋詰め込みすぎで
すよお! ぐいいいゝゝゝ!」

「ひやへめえええええーっ? 乳首ひつぱらにやいれえええ? ゝゝゝ? おっぱ
いもお? くちやくちやになっひやよおお?」

「メギド様が乳首勃起させているからですよ! 貴女は超越者でありながら女体で

す、ここを刺激すれば厳選された痕幻異璋だけが残るのですっ！溜めすぎもお身体に
 触るんですよチュプルッ！ チュプヂュバヂュプチュチュユツくくくく！」
 「ヒッッ!!? ヒッッッ！ ツッ イイイイイイイイイイイイイイイイイッくくくく
 ?」

そうだ、俺はまだ0歳なんだからおっぱいに吸い付くのは咎められない！

パイズリに悉く適合しているミサイルおっぱいは先端まで尖筒型になってしまつて
 まあ！

アザレアピンクな乳輪ごとグイッー！ おおッ！ グミッて比喻されるけどホ
 ントソレ！ 食べても食べても無くならない魔法の果実グミなる弾力感！ 外観は如
 何にも硬そうだけど口に含んだら、おっぱいよりも少し硬い程度だった！ 俺の彼女は
 全身柔っこいんだなあ☆

「そッッ……!!? そうですソレですよメギド様！ 動かし方が最も痕幻異璋を搾れる
 動作って禁忌の書物——マビノギオン——に綴ってありましたくオッ あああ!!」
 二つのおっぱいを一つに合わせてずちゅんずちゅん？

幸せの重量を感じながら精子が上昇くくく下降くくくを繰り返す。

上だけだったら俺はとつくにイッていたけど、乳ピストンが一定の動作なので下に下
 ろされたら精子が無理矢理引っ込む！

ブヂュツ！ ビュブブツ、ドビュヂュ！

顎が外れた間抜けな顔になりながら挾射してる俺は始原にして、完全無欠なパイズリを味わってしまった——

びくちゅつ……ちゅぶるるつ、ぬとおお……

パイズリ記念碑である『精液アーチ』の建造に成功した……！ コレが出来るのは彼氏である俺だけ……彼女のおっぱい好き放題に出来るのも俺だけツツ!!

「あ、あ………？ あつ………？ つつ………？ はっ………？ れみや………？ くん………？ ばいじゅ………？ りい………？ ……？」

中二モード入ってた彼女を強制的に素にさせてしまう乳内射精。

死に化粧ならぬ精液化粧、どんなメイクよりも白濃くなった顔とおっぱいは液体ではなかった。

「興奮………！ しすぎちゃったんだねえ………？ ほらっ？ レミヤ君の赤ちゃんの素………！ 落ちないもん?!」

俺もこんなの初めて見た『出したの俺なの？』って正直引きたくなくなった。カルピス味の寒天が半径50 cm内に散乱していたのだから！

「あつ………はあ………？ 凄いやお………？ 私の彼氏エッチ過ぎて困っちゃうよお？ ……？ 彼の性欲を………ハアハアハア………うっ、受け止めるのも彼女………だよねえ？ 全

部、ぜえくんぶ私に向けてね？ その性欲？」

俺が何時ぞやかに発したセリフを大体そのまんま返されてしまったハハッ！

「凍依もしかして……パイズリしただけでイツちやったの？」

「……………／／／ だあ！ だつてえ！ レミヤ君のおちんちんヌポヌポして／／／

乳首も啜えられて……？ 気持ち良くならない方が変だよお？ エツチな雑誌に『パイ

ズリで気持ちいいのは男だけ』……………そう書いてあつたけどお？ ウソだねっ！ え

へへへえ〜？」

チュルチュルと精液味のゼリーを吸い取り、フーセンガムを一度に8個くらい放り込んだのかつてくらいくちゅくちゅくちゅくちゅく……

女の子としては少々お下品な姿だけど、瞳の形を俺のチンポにしちやつてる彼女は気にせずにゴツキユン、ちゅるり、モグモグモグツ……

(パイズリしといて下品もクソもないか。こんな姿を見せてくれるのも俺だけなんだよなあ……………！)

配信25



凍依を手に入れた優越感に浸つてしまふのが癖になつてしまった。くどいと思われ
ても可愛いんだもん許せ。

「パイズリ……………お、女の子でも気持ち良くなつちやうんだよお……………？ 相性が最高
の彼氏のおちんちんだもん？ レミヤ君は私の誇りだよお？ 他の人達絶対羨ましが
るよお……………本当はいけないんだけど優越感で酔つちやいそう??」

考えてることは同じだった！

おっぱいでチンポ挟まれてるだけに『一心同体』つかか！

「ねっ……………！ ねっねっねっ！ お願ひ……………あるの？ パイズリツ、もつとしたいつ
……………／／／ 今日ハセックスよりもおっぱいでレミヤ君を気持ち良くさせてあげたい
の／／／……………感じるぞつ、創世からの波動を！ 赤と青、炎と氷、ウエウエテオト
ルとカリアツハ・ヴェーラ……………相容れぬ乖離と会遇のルシフェラーゼ！ ククククハハ
ハハ……………レガリアからの抽出は時に戯甘穴——オデュツセイア——よりも複雑怪奇か
つ、多大にまで登る……………我様の解析通りではないか！ 貴様との実験も成功したツ！

我様の為にさらなる痕幻異璋を提供するがいい！ 刻は満ちた……………これが我様の選択

……だ……………／／

「おおッ！ ノツてきたあ！ 凍依の（メギド様も）テンションアガつて来たなあ！ 『ねっ、ねっ！』は彼女の口癖なんだろうか？ 配信中は（中二モードだし）一回たりとも使つてなかつたから……そっか、彼氏専用かあ……これも！ そんな発情声で軽く扱かれちゃつたら……」

「俺もまだまだパイズリされたいッ!! 凍依のおっぱい居心地イイつてチンポも言つてるし！ そうだなっ……最低でも後10回は挟射しないと俺は家に帰らない！ 今日徹底的にパイズリでパイズリだからなッ!? おっぱいとセックスでパイズリがセックスだからなッ!!」

「（家に帰らない……それつてずうくとエッチ出来るつて事なんじゃ／／ そっちでも私はいいなあ……………?）つていてき……ぱいずり……? 私からおねだりしてごめんね……? そうだよねえ……? パイズリ、いっぱいして上手くなるからね／／……………はっ、早く立ち上がれ愚図ッ! 違う／／ 勃たせるのではなく身体を起こせと言う意味だッ／／……………はあはあ……コホンッ、供給の体勢を変えてみるぞ、これも実験だ……しよう、正面からの方がより効率的かもしれないからなあ／／」

中二モードに戻つた彼女は俺に命令してきたけど、正……面……!!?

『朗報・俺の彼女がエロ過ぎて困らない!』つてタイトルのエロ小説を閃かせながら、胸

部だけペロンツさせてスカートもニーソもマントも取らない彼女を見て『わかって
る』と100点満点中300点満点のスタンプを押したのであった。

（学校では声を失ったつてくらいに黙してるのに、性欲が有り余ってるスケベな子だか
らな！ そんなに『縦パイズリ』したいのかッ!! 受けて立つ！）

ブラジャーを失った『HだからHカップなおっぱい』は精液ゼリーが拭い取れないか
ら雪が積もったゲレンデになっている。

斜面はゆる／＼と輪郭を作つて、下り終われば乳首が待っていてくれている♪

「メギド様！ 貴女のおっぱい……………レガリアはコンプレックスなんかじゃありません
！ 俺とフュージョンするのに変な真にこれ以上無く適した形状ですッ！ 自
信を持つて下さい！ めちゃくちゃエッチな形ですから！」

ブラジャーあつたらシャキーン！ でも外したらダラ／＼……………

会社ではテキパキしてるOLが家での生活はだらしないって表現は的を射てると思
う。

「そそつ、そうか……………？ ああもうつ、顔を見るなど言つただろうが下僕う／＼／

汗と精液がブレンドされた両手で、俺のチンポを強い口調で———だけど優しく———シ
コシコ。

手コキだけでもじんわりした刺激が登つてきそうだけど、乳内射精すると約束したの

で……失敬!

「うひよ……ッ!! ほほほう。う。う。くく!! 巨乳でも難しい縦パイズリイ!!
俺はこの二つの巨山に『メギド山』と命名するうくく!!」

「バカアア／＼／／ そんな名称を付けるなああああ?／＼?」

大きいだけでは成立しない、チンポを包み込めるだけ正面への『縦パイズリ用の余白』
が必要だ。

砲弾型だと挟みにくい、それを『ブラジャー取ったら弱垂れ気味おっぱい』なメギド
様。

超越者は自由自在にパイズリが出来る身体を持つているのだ!!

クーパー韌帯が少しくらい緩かろうが伸びていようが、エロいしパイズリ向けなので
彼氏はちよく喜んじやうって女性誌にも書くべきだ!

「すんつ……くしゅんつ……? ありがとお……? 胸筋も鍛えてるんだけどなあ……
ここだけは成果出なくて落ち込んだ事もあったの……ちよつとだらしなない方が好き
……だなんて言われると思わなかったよお?／＼? えへへつ! 正面からギユツ
ギユツ／＼? しちやうね／＼」

恐れ多くも頭を撫でながら持論を熱く語ったら、素の彼女に戻りながら嬉し泣きして
しまっていた。

誰にも知られてなかったけどコンプレックスはコンプレックスだもんな……俺だつてチンポが勃起しても5cmくらいしか無かったら一生童貞のままでも、絶対に短小のレットルを自分で背負い続けていただろう。

「凍依のコンプレックスも俺は大好きだよ！ あ……う……お、おお……チンポ溶ける……！ 縦圧すっげ……がつつり挟んで……うあハッ……!? そ、そう……そんな感じがイイ……」

おっぱいが岩で、チンポが剣。

神話で『岩に突き刺さった剣をヌイた英雄』が居た気がする。メギド様は超越者でありながら英雄だったのか。

「にゆるんにゆるん………／／ あんっ………？ 私の初めて全部レミヤ君にあげるよお／／ よいつ、しよっ………？ くうん………!? はふう………はあはあ？ レミヤ君は……横からと縦から……どっちが好き………？ クチュクチュクチュ………れっ、ろおお………くちやぶっ………ん／／」

「オイル追加あ!? グツシヨリ唾液ロロロシヨンツツ!! どどどっちも!! 凍依のパイズリは全部好き好き大好き! 挿入する角度によって快感が違うんだくっ、ほっくいう、!? 弾力があるのは横………からだけどお………縦………のが………殺傷力あ………るっ………!」

ずりりい、むぎゆん、ぬぢゆる、ぬぢゆりゆ……ぬちゃんぬちゃんっ、むっちゆるっん♪
 「~~~~~ツッ? 大好きつてえ…………? いい言い過ぎだよお……………?? 私もレミヤ君だあ~~~~いすきい／＼／ パイズリも…………大好きい? キヤツ! んっ……………? おちんちん熱いい…………我様のムスペルヘイムを凌駕しているう／＼／ 下僕の癖に生意気なあ……………ああ? 封印された霸王剣…………もうすぐヌケそう……………」
 膝立ちつて不安定な姿勢ながら体幹に優れている彼女はチンポを谷間で啜え込み、腰から上を前後してくれている。

パイズリ知識も潤っている彼女は、素と中二モードをごっちゃにしながら左右からの乳圧を強める!

設定も流されるまま剣チンポをヌク事を試みている英雄になつてるし!

腰がおっぱいから逃げようとしてしまったが、見逃さず彼女が『我様から離れるな?』と睨み——全然迫力ないパイズリ屈服で恍惚するマゾト口顔——ながらカリ首をパイキヤツチ!

「ツッ、ツッ、ああ、ああ~~~~!」

カリ付近は弱い、敏感だからこそ快感が凄まじい!

ちゆりっ、にちやりっ、ズリユツ、ちゆっ……

先程挾射した固形物質がおっぱいの熱で溶け出して良い感じに潤滑油となっている

から、彼女のおっぱいがピストン速度をトップにしても、摩擦による痛みは1mmも感じない。感じるのはパイズリが齎すオールレンジエクスタシーだけ——

「きにはあああゝゝゝ？ あっ……あっ……？ おっぱいに中出しされてる？

はっ——はっ——？ ……………？ はんっ……あんっ？ ねとねとおゝゝ？ 糸が太

いよお……？ また私も……一緒に……？ イッチやった……？ はうう／／／

くぶああ……ベチヨオオ……

配信26

♡

ふっ…………う…………！ 出した出したあ…………！

乳内射精後は頼まれてないのに『おっぱいくぱあ』で精液湧泉を見せてくれる、パイズリ自覚のある彼女。

おーすげっ！ カーペットに爆発した精液だけじゃなく彼女の太ももを現在進行形で伝いながら、パイズリアクメ液が流れ落ちてる！ マントの内側には新しい模様を施してしまったZE☆

パイズリしてる側がイクってAVでは絶対に演技だけこの子は……………演技じゃないんだよなあ~~~~！

「……………？ おっぱい…………レミヤ君の精液でもっと重くなっちゃった…………？ はっ？ はあぁっ？……………れちゅ、レロレッ…………ンチュパツ…………ングツングツ…………ツハアア…………レミヤ君の味／／ おっぱいからも妊娠したらどーしよーえへへえ??」

……………意識がありすぎて早くも2nd…………いや3rd パイズリの構えに入ってる彼女。

多分俺がやって欲しいことを全部自動的にやってくれる気がする!

「制服にレミヤ君の匂い……? いっぱい染みこんじゃってる／＼ お洗濯してもこれだけは消せなくなっちゃった! 消えなくてもいいんだけどね?」

ブレザー衣装を着直し象徴である黒いブラジャーの予備を手早く取り付け——ブラ着けてる姿すらエロくて我慢汁止まらない——その胸部ボタンをパチパチ閉じ始めてしまったので一見すれば「パイズリ終わりかあ……」と途方に暮れてしまいそうなのが、彼女は予想を裏切らない!

「次はあ……? へっへえ……! 縦は縦でも配信中に偶然解放しちゃった……こおこ……／＼／ ファンの皆も『チンポ突っ込みたい』って……レミヤ君もだよね?」

「いーよお……? おちんちんズボズボ……乱暴にされたいかな……／＼／ レミヤ君しかやつちやダクメ?」

ぶるるるるんツ♪ ぎゅむりっ♪

ちや! 着衣と縦の複合乳交! 『着衣縦パイズリホール』!!ツ?

ブラジャーと改造制服に閉ざされ仕舞い込まれてしまった『私縦パイズリ余裕なんだよね』w『マウント出来るHカップ。』

ぎゅちん……♪ みゅちん……♪

ベストにブラウスにブラジャー、三重もののロックを施したって脚を一步踏み出しただ

けでたゆんっ♪ 恋人の無茶振りに応じたり視聴者のセクハラを寛容する包容力ある
柔らかさが伝わって来てしまう凄パイ。

の……中心部に小窓を設ければ、息苦しかったおっぱいが必死で酸素を取りこみなが
ら谷間と黒ブラの一部を曝け出す！

「挿入していっよ？ 私はジツとしてるから……レミヤ君のパイズリオナ……ホールに
してください………／／／」

先程は凍依が身体全体を使って縦パイズリ、俺はマグロ（気持ち良すぎて動けなかつ
ただけ）だったが着衣パイパイでは『俺が好きに様にガンズリしていい』らしい！

パイズリに理解がある……どころか積極的に挾誘してくる。

パイ穴から精液の残りが零れてる……女の子なのに精液生産工場になっちゃったの
か！

「んあああ？ ～～～ンンツ？ おちんちん早いよお？ うにひイ！ おまんこと同じ
でえ？ おっぱいまであう！ うううツ～ああッ？ はっー？ はっー？

レミヤ君のおちんちんでゴリゴリお肉削られちゃってるのおお～？ あはうあ
あああ～？

ムヂュツムヂュムヂュムヂュムヂュツ！

ダプツ！ ダプツダプツダプツダプツ！

ズパントツ！ ズパツズパツズパツパントツ！

凍依は『体温があるパイズリオナホ』

両肩を持つ俺が射精するまでノンストップ！ 腰のスナツプを効かせて……鈴口が見えるギリギリまで引きつけゝの字”を作り上げたら、今度は”逆くの字”を作るべくズリホールヘチンポ打ち付ける！

フツ、これがエロ漫画であれば『シユバババババババツ』なオトマトペが見開きまではみ出てる神速ピストンになつてゐるだろう。 人間業じゃあねえな！

「パイズリパイズリパイズリ！ 彼女のHカツプおっぱいでチンポ扱き!!」

「あつ？ あつ？ あつ？ あはああく〜？」

「ふう〜！ おあああつ！ 凍依え！ 気持ちいいかツ!? 俺はめちやくちや気持ちいいぞ！ 至至高のおっぱいだぞ凍依え!!」

「ああ！ ありがとおお〜?! きやああああ〜?! 谷間の精液が新しいのに更新されちゃうのお？ えへへええ〜?! レミヤ君の為におっぱい大きくなつたんだもん？ んう、ー？ ふつ、……………? ひやにやああーツ、？」

ぎゅむつ、むちゅんっ♪

意識高い系パイズリ彼女の凍依は、両肩持つて本能のままチンポ往復させている俺のヌキアシストとして前腕を左右から寄せておっぱいムギユツ♪

ちて来てる！ 俺の推測は的中した様で『凍依が全身から精液お漏らし』になっている！

「ああん……………？ 下着も制服もベトベトオ……………？ 色白になっちゃいそ……………／／／ パイズリ……………楽しい……………？ もつとおっぱいでおちんちん挟ませて欲しい……………！ ねっ、ねっ……………？ こここ、今度はあ……………／／／」

どんな環境で育ったらこんなにもエロくなるんでしょうか？

今日のチンポはおまんこことの接触を禁じて、おっぱいとこの性的な接触だけを許可している！

……………お口は『パイフェラ』を構成する上で欠かせないので除外する……………俺が今考えたパイズリルールは彼女にも適応されている。

本当におまんこ・お口・おっぱい、3つのOから孕んで3つ子が産まれてしまうかも？

サイコな事を思いながらも、俺達のパイズリは次のページへ——
パイズリはパートナーが居なければ実現は不可能である！

「チュパツ？ チュプンツ？ ペチエペチャペチャ……………？ チュチュチュツ……………？ ハプツ？ チュパップツ？ レロレロオ……………？」

友好的どころか『俺よりもパイズリしたがつている』ドスケベ彼女は、ハイスペック

PCに保存されている1枚の画像を見せてきた。

「ねっ！　ねっ！………これ………レミヤ君にしたい………おっぱいで挟みながらお
ちんちん………ぺろぺろ………する／＼　だっ、だめえ………？」

ダメな訳ねくくだろオオオー!!

配信27



俺が頼む前に先制攻撃！ 『パイズリフェラをしたいんです』

女性側も気持ち良くなつてないと自分からパイズリしたいなんて言葉は出てこない。例の雑誌に書かれていた「パイズリで気持ちいいのはく〜」はウソであり半分は正しい。

俺らが実証したんだからな！ 『相性が最高の彼氏・彼女ならばどっちも気持ちいい！ それがパイズリ！』だどつ!!

まっ、男だけ気持ちいいつてのはその程度の相性つて事ツスよ！

「おっぱい圧……これくらいでいい？ パイズリ練習………しておいて良かったあ？ 配信の為だけに素敵な彼氏にそのまま応用出来ちやえる？ ちゅぽ！ ンチュパハア？ ズルルツ？ ンクチュユチュユ〜？ ハプツ？ チュポパチュユツ？」

あはっアアアア〜パイズリフェラああすげえええ〜………

ノーマルパイズリだけでも亀頭以外はみっちり隙間が無かったのに、亀頭までお口でパクツされたら窒息するう!?

でも彼女の乳内で死ぬんなら………いやいやっ！ まだ凍依とエッチし足りない

から『死ぬ』なんて軽はずみに使っちゃダメだよな！

我慢汁をぴちやぴちや舌を鳴らして舐め取ってくれるけど、全然生産量に追いついてない！ 時折高く跳躍して彼女の額やら髪やらに付着しても、お構いなしにパイフェラご奉仕してくれている。

「おっぱい越しにい……………すりすりすり？ 掌を時計回りにくく逆回転くく？ どおどお！ 私が考えたパイズリ／／ お口でも…………ピチャツ？ チュツ？ グツ…………チュバツ？ チュグチュグチュツくく？ えへええくく？ おちんちん洗浄くく？ でも先走りが多すぎて綺麗にしきれない…………ごめんね？」

『私が考えたパイズリ』って強烈なパワーのある単語だなあオイツ！

パイズリ処女は卒業したばかり、なのにズリテクは上級クラスなものもメギド配信の恩恵である。ロリ巨乳を筆頭にギャップの集合体だな凍依はツ！

「……………！！ 射精るッ！！」

「ンッくくくッ!? んひゅふううー!? ふーっ……………んくくくく？
 ジュルルルッ…………グチュルズズズズズッ？ ゴクンゴクン…………チュウ…………ヂュ
 チュチュチュチュツくくく？ ンブンツ…………ンゲンツ？ んぷあ……………？
 きかんが…………あちよいよお……………？ しええ……………？ しえいえきへえ……………？
 のろおくおもひ…………？ チュツ…………ンツハアア…………せーえいき…………チュリツ…………チュ

パツ……ン？　こぼすのやあん……………クチュクチュツ……………？」

ミチツ……………少し胸を張る姿勢になっただけで横綱の貫禄漂うHカップ!!

だけど重力には負けちゃって反発するみたいに広がっちゃうHカップ!!

(セルフパイ舐めで飲みきれなくて落ちた精液を今一度ごつくんしようと同張っている

……!!　心もチンポもジ……ンとする……………良い子過ぎる……………あつ、もう勃起して

……)

ていうかセルフ舐めしてる時も俺のチンポ挟まれたまんまだからっ！　そのままパ

イズリになっちゃってるからッ！

バルンバルンおっぱいがグニングニン捻りながら持ち主のお口に先端をしゃぶられ

ている……………こうやってオナニーもしていたんだらうか？

俺の精巣はどうなっちゃっているのだらうか、当たり前の疑問が芽生えてしまったが

『彼女がエロい』の一言で論破される。

「凍依、凍依……！　パチツ」

「ハアハアハアハアハア？　ひゃ、ンツ？　……………あつ、自分のおっぱいとレミヤ君

の精液舐めながら……………トリップしちゃってた／／／」

声掛けに反応せず、おっぱいを軽く叩かれて正気を取り戻す。

精液は綺麗に舐め取り終わったのにパイ舐めは中断させず夢中になっていた。おっ

ぱい揉んだり舐めるだけでもイケるんじゃないのか……？

「次はそのう………よっ、いしょっ……おっぱい鏡餅／＼ 召し上がってね？」

凍依のスケベ発想力は『ノーベルパイズリ賞』物だなあ………いやっ、エロのあまり功績を称えようとしても表舞台に出てこれないかもしれない。配信者だけに。

「お前………良くこんなの考えつく……エッチ！ パイズリ超越者！」

「あう！ あはうう………？ 虐めないでっ……？ 虐めるならっ……おちんちんで、ねっ？」

11月で元旦には早いけど――

「っっっっっひよほおおおー！ こりやあー！ もっちもちパイズリイー！」

もむにゆるるる♪ ばにゆうん♪ むちっむちっ♪

縦。パイズリならぬ『横パイズリ』

精液の焦土と化したシートへ横向きへ寝転がった凍依。

鏡餅は小と大のお餅を組み合わせるのだが、これでは『巨と巨』なので今にも落下しそう………でもおっぱいなのではない！

「あああ………はあああ………？ 気に入ってくれたんだあ……？ 横からでもおっぱいの感触違うんだあ………やったあ？」

♪ ずぶうう、ぬちゆむうう、ズツポンツ！ ピクンツ！ パツチュンツ！ ずむちゆつ

いやあ盲点でしたねえ。パイズリ発明家になれるね俺の彼女は！

灯台下暗し、コロンブスの卵。基本は縦パイズリと同じで正面からチンポ挿入してるけど、彼女の体勢が横向きになっただけで………あく………くくハア！ 縦よりもチンポ潰しに掛かってる！ もちもちだけど上下からの乳肉がカリに埋まるう!!

「んう？ ふああツ／／／ 私のパイズリイ……レミヤ君に認定されちゃったあ？ わああんツ？ うああう？」

「お前は天才だな凍依！ 昨日までパイズリ処女だったとは思えないパイズリテクだぞ！ これからは配信だけじゃなくて俺のチンポ挟み抜く為にもさらなる鍛錬を積もうな！」

「積むう?? パイズリもつゝと上手くなって乳内射精びゅーびゅーされたい?? キヤツ！ キヤウウウツ?ゝゝ? わかるわかるよお? おちんちんぐううゝゝ? て盛り上がってるのお? またおっぱいがヌルヌルしちやってるのおおゝゝ?? あッ あ あ は!? あ あ あああ あ ゝゝン ン う う ゝゝゝ??」

にゆつちゆ、にゆつちゆつ♪
ぐちゆんつ、ぐつ………!!?、?

びゆるるっ、ぐるっ……ギユブツ……ブヂユツ……ドポンツ……♪

えっくくと……今何回乳内射精したっけか……まだまだ陰囊ズツシリマンだから挟
射出来るけど、すこし疲労がチンポと腰にキテるな……

「?~~~~? にゆばあ……って? とろろだよお……この粘質性? ハアハア……
この精液はあ……次のパイズリのローションとして残して……やつ? やっぱり
少しだけ食べちゃうね? はもんっ? にちやあ……? ムグムグムグムグッ
……? にがおいしっ……?」

俺の彼女がエロすぎて永久機関となった性欲。

配信28



パイズリでヌイテ、パイズリで勃起させての『パイループ』

「メビウスの輪」とメギド様であったなら申されていただろう。

「次のパイズリいい?」

「もちろんだよお……?」　パイズリだけで……ハアハアハア?　いつばいいツちやつてるよお私?　これからは毎日パイズリしてあげるからねえレミヤ君?　パイズリしながら配信は……流石に危ないよねえ……?」

カメラの位置を調節してもソレは無理でしょ……氷獄メギドの全てを捨てる&アカウントBANされる覚悟があるなら別だが……

今の彼女は制服とブラを整えても、乳首が勃起しすぎてガードスルーの能力を身に付けてしまっているからパイズリしなくても配信すれば垢BAN……いや、洋服越しに乳首がポツチする程度はイケそうではあるが……?

「レミヤくぅん……?」

「エロ可愛すぎる……(どうした凍依?)」

心の声と表の声が逆転してしまうくらいに、俺の彼女はドスケベ尊い!

高校二年の11月に『煉清凍依と付き合う』と定められていたから、俺は他の女子と付き合いたいと思いついた。でもアクシオンはしなかったのだから。全ては凍依と言う彼女をゲットする下ごしらえに過ぎなかった(何もしてないけど)

「つ、次い？ 次のパイズリは——」

パイズリ中毒になってしまった彼女はコンプレックスだった、弱だらしな形状のおっぱいを最強の武器として活かし俺をイカす。

自信に満ち溢れた——メギド様成分——青と赤の瞳には俺と、俺のチンポしか映っていない！

「でつつつ……けえなあマジツ！俺の好みのおつきい おっぱい！ 身体に乗ったけど重くないか？」

「えへええ……？ 重いのはおちんちんだけかなあ？ ど、どーしてもね……手を繋ぎながらのパイズリ………したかった／＼ んふへえ？ おちんちんも両手も……ギユツ？ だよお？」

「ちよ!? アアアア くく!? ハアアハアア………ラブラブパイズリだになっ！」

「うん！ 彼氏………レミヤ君とらぶらぶ………？ おっぱいとおちんちんもらぶらぶして……?」

オスの象徴とメスの象徴、愛し合っている者ならくつつけたくなるのは当たり前だ。ちよつとばかし難しい体勢、仰向けになつた彼女の上半身に乗つてから俺よりも握力強いとは思えないミニマムな両手指を一本一本絡め合うラブ握り。

……のまま前腕で側面からおっぱいを押しつけてくれる『馬乗りパイズリ ver ラブ握り』

やつぱり天才じゃないか……！……！……！ 難しくたつて彼女とならヤツてしまえる。他の女とだつたら絶対に無理……！……！……！というか俺がイヤだねっ！

もう凍依以外の女はどうだつていい！ 凍依さえ居てくれたら他はイラント！！

「スント……スント……グシツ……？」 レミヤ君だけ傍に居てくれたら……私は幸せだよお？ ふええ……ごめんねえ……おちんちん挟みながら泣いちや……ああ？ レミヤ君も泣いちやつてるう！ おちんちんがだけど……？」

無人島で二人きりになつても問題ない。好都合だろう。凍依と一緒になら！

「動くぞっ……あ……おう……！ 何度挟まれても飽きが来ない……ズラればズラれるだけ渴望しちまう！ つ……！ 凍依！ 凍依！ 好きだ！」

むにゅっ♪ ぬっ、ぷぷっ……ずずっ、にゅくくっ……

……パンツ！ ぱにゅんっ！ パチュツ！ ぎゅむんっ！ グチュンツ！

おっぱいが外へ広がらず、内側へ締まつていく！ 手の甲を合わせた『おっぱいム

俺も仰け反っていたと思うけど一瞬記憶がトンで凍依のアパートじゃない別の……大空みたいな場所に転移しちやつてたから憶えてない。

今日だけで数多のパイズリを体験してきたけど……最後が一番だったかも……

「おっぱいは締めただけどお……おまんこは開きっぱなし……？ あつ、明日はセツクスいっぱいしようね……？ パイズリも……フェラチオもお……？ ぜえんぶするからねえ?? チュピツ? フツ……チクチクツ? ンンフフウウ……ンブツ? コクンツ……ンブチュツ——チチユチユツユ——」

配信 29



「———ペチュツ? はああ……んーっ……? 彼氏おちんちん? チュチュチュツ
 っ……?」

パイズリ童貞&処女を喪失し鈴の音が聞こえる12月となりましたが、毎日エツチメ
 ニュー(膣内射精・口内射精・乳内射精は必ず一回は行う)はこなしております!

Hカツプでヌイてもヌイても枯れない充血猛りチンポを挟んだまま、先っぽをちゅく
 ちゅく……時々ツインテールを耳に引っかける仕草がツボで長く楽しもうと思っただ
 ど、そんな簡単に我慢はできっこありませんでした。

「むふふううう♪ お口とおっぱいにマーキング……ごちそうさまあ?」

本日も彼女のアパートに着いたら『放課後パイフェラタイム』が発動し、体躯と不釣
 り合いな力を持つてして押し倒された(抵抗する気もなかったが)

「パイズリ……上手くなったよお? まだ一年先だけど高校卒業したら……ど! どど
 ど同棲／＼／＼す、するから朝もおっぱいで起こしてあげるねえ?」

凍依と一緒にのベッドでおねねしたら下の方は勃きっぱだよなあ。

「でもでもお……お口でヌキヌキも……おまんこで扱きヌイちゃうのもいいかもお／

／ 一番濃くて新鮮な精液？ 何処で食べようか迷っちゃうなあ〜？」

微妙に舌つ足らずな甘高ボイスで、エロ漫画みてえなセリフを次々と……！ 凍依の声は鼓膜じゃなくて海綿体に向かって眩かれるからじゅわじゅわ角度が付いてくる！

「あのっ……『今はメギド様』じゃなかったんですかね……？ 素に戻ってますが……」

「おちんちん？ すりすり〜？ …… …… …… ツッ!? あっ……しよしよん！ われしやまはずっひよこのまんまらっひやろオ／／ げぼふのくへにくひごたえ …… ……ゴホゴホッ／／」

近頃『メギド成分が薄れて来ている』

生エツチをもう一ヶ月してる訳で、羞恥心も薄れて来ているのだろう。中二モードになる回数が激減……していても次の瞬間中の人である『煉清凍依』に変化している。

配信の時はメギド様になりきっているけど、俺とのイチャラブ中出しパイズリフェラではもう演技を保てないのかもしれない。彼女を徐々に変えてしまっている……征服感！

『みんなの氷獄メギドは俺だけの煉清凍依』

………なんかNTRチックな表現だなコレじゃ。

「………ミ斯拉の交わりを命じるっ、さすればホルンフェルスによる圧潰は免れるだらう………」

「分かりましたメギド様！ チュツ……んぐちゅちゅつ……はあはあ……！ ぢゅつぷぢゅ！ この後は下の唇にも……ですよ」

「ん、んんうー？ あみゆんツ？ チュクチュクツ……ぢゆるずつ……はあ……むうん……れちゅれちゅつ……ふあ……ふやはああ……とくべちゅにい……ゆるひてやろお……？」

俺の進路は殆ど決まっっていて某会社に就職してメギド様……凍依と結婚、同棲する。彼女も就職先は決めているとこの前言っていた……けど……

(……………？……………？ 就職……しなくてもお金が貰えて……？ 大好きな彼氏と暮らせる……方法……見つけたんだよねえ……？……？……？)

クリスマス当日、俺と凍依が決めた『本当の将来』は――

配信30



俺が超有名ロリ巨乳中二病系動画配信者、氷獄メギドとその中の人であるクラスメイ
トの煉清凍依の彼氏になって一ヶ月。

あと数日であつては妬み恨み呪いたくなる、バレンタインデーに匹敵する年間最低最
ゴミイベントの『クリスマス』

最早語るべき時間すら勿体なくらい容易に想像出来てしまえるだろうが、恋人も友
達も居なかつた自分はクリスマスのムードが大嫌いであつた。

クリスマスソングが流れている道路を歩くのも嫌い、当日は彼氏とくだの友達全員集
まるくだの意気込んでる奴らも嫌い。クリスマスとバレンタインだけカレンダーから
抹消して一年を363日にして欲しかつた……高校一年生の聖夜に布団の中で『ウゼえ
ウゼえウゼえ！』つて文句吐きながら、アイマスクと耳栓をして刻が過ぎるのを待ち耐
えるしかなかつた。

彼女や友達作るのなんて面倒。そう振る舞いそう思つていたが結局は誰よりも俺は
その2つ……どっちかでもいいから、自分以外の誰かと過ごすクリスマスを見たい
た。

“じゃあ作れる努力しろよ？”

努力も面倒だった。

誰かが「ねえねえ私の彼氏になって！」とか「俺と友達になろーぜ！」と頼み込んでこない限り、自分からは動こうとせずゲームに漫画に動画……何だつて出来る時間を無駄に浪費していただけ。

自分でもゴミクズだつて認めていた。そんな都合のいいイベントなんて訪れない、じゃあ彼女も友達も童貞だつてずっ……と………変わらないんだつて。

「ブヂユグツ？ ポびゅツ！ んぐ！ ごぶツ！ ぶヂユヂユるツ！ ぐぼツ！ ゴブツン？ ぐアゝ ぼぼアゝ ……ヂユブバツ？ おゝツ んググツ もごオゝ？ ンブツンブツんツツツー？ らゝ？ ぶぼツ！ ごボばア！ ごアあゝ あゝ？ げえゝ ……ごゴツグン ……あゝ あゝゝ ゴ ……アゝアゝ ……う？」

今年は！ 今年からは違うツツ！！

俺のチンポを『歯磨きフェラ』してくれている、銀髪ツインテールの子は彼女！ そして卒業したら結婚する子だ！

凍依もクリスマスやバレンタインデーなどの行事が大の苦手で、中学生の時は仮病を

使つてその日だけ部屋から出てこなかつたりとか、彼氏とエッチする妄想をしながら借りているアパート——俺達の現在地であり今後同棲する住居——で12月や2月は特に一人寂しく、切なくオナニーに浸っていたらしい。

防音なのを良い事に喘ぎを殺さず、片手で膣唇を押し広げながら親指ではコイントスするみたいにクリトリスをピーンツと弾かせたり、二本の指を激しく前後し愛液ピュツピユで痺れアクメしたり。

凍依も俺と同じだったと聞いたたら安心しちゃったんだよなあ……両手で顔を覆いながら『穴があつたら入りたいよお／＼………チラチラツ／＼』とM字開脚で雨漏り黒パン魅せつけて来たから、そのまま正常位で3発も致してしまったが。凍依が『おまんこ雨漏り修復願望』隠せないのが悪い。

「フンツ——？ ごちゅぢゅぢゅ？ ぶべツ！ グギユボツ！ オ、オ、オーツ、くくく？ お、おツ、ン、ツ？ お、お、お、お、お、お、ツ、ぐ！? ボゴ……ア、ア、ア………？」

休日だったから朝飯も凍依と一緒にアパートで食べると決めていた。

料理上手な彼女が俺の為に朝・昼・晩ぜんぶ作りたいなあって、彼女の方から上目遣い（身長差が22cmあるので必然的にそうなるが）で懇願して来た。

まあ……断れる理由など無いつてか献身的過ぎる姿勢に萌えまくったから、俺は鼻血

出したんだったわ……………

膝枕されたら『93のH』の乳屋根で凍依のアワアワ照れているであろう表情も全然見えなかった……………ミツチリ詰められた2つの巨乳！それが1つに融合して巨大な隕石となって俺の顔面にクレーターを……………は衝撃吸収材質であった為、事なきを得た。頭動かしてぼわんわあくくん♪ おっぱいを楽しんでたらまた鼻血出てしまったが。

「んゝゝゝーっ？ ふぐっ？ ふっゝー……………むゝッ……………んうゝうゝー？
ちゅグッ……………ゴボッ……………つ……………う……………ぐぢゅぢゅぢゅ
……………ハアー？ 歯磨き粉お……………？ おおしゆぎ……………？ うがいも……………ハアハア
……………しちやった……………んうゝー……………あ……………？ あ……………は……………？」

ヂュ……………ポんッ♪

ブクブクッ……………ボトリッ……………

俺の竿ブラシには歯磨き粉が仕込まれていたらしい。今初めて知りました。

配信31



クリスマスまでには彼女をゲットすると奮闘している男子や、先輩と初体験しちゃうかもと発情してる女子らとは無縁の机が俺と凍依。高校に入学してからのルーチンと化した暇つぶしも今となつては彼女と学校内でコミユニケーションを行える手段。

「……………（スツースツ）」

「……………（カタンツ、カタカタン）」

ダルク覇気の窺えない表情でメールを送っているが、内心は非常に興奮している。彼女が出来て初めてのクリスマス。聖夜じゃなくて『性夜』となるのは確定事項。

と言つても毎日キスしてセックスして膣内射精してるから、ヤル事は大体いつも通りかもしれないけど……凍依がクリスマス料理を作ってくれるらしい♪ ケーキ作りにも挑戦したいらしく12月に入ってから朝早く起きてケーキを作つては食べている（それが朝食）のだとか!?

——……………えへえ……………? レ〜ミ〜ヤ〜ク〜ウ〜ん〜? 帰つたらパイズリ……………したいなあ?——

凍依は間違いなく俺の大事な彼女だけど自ら『パイズリさせて』と頼んでくるのは未

だに信じられなくなってしまう。男にとつて都合良すぎだろお……! !

大きいおっぱい大好きだから、コンプレックスに愛情を注いで——精神的な意味で——くれる俺へ乳首ズリしたり、挟み扱いたりチュパチュパされるのが切実深厚に嬉しいんだってさ。可愛い……

場面は戻って帰宅してからは抱き合つてキス。勿論うがい手洗いを終えて凍依はメギドコスに着替えてからね。

ぶにゅんツッ! ミサイル二発が俺の胸板と接触して、平面になろうとしている。

彼女のおっぱいは低反発なので、強くギュッ! と男の力いっぱいにはググしても反発せずに沈み込んでくる。

「ぶぐん、ツッ? ぢゅぱツ? ちゅばツ? にぢゅツぢゅぢゅ? ん、っ——? んんう? ぢゆるれるるツ? ン——? はあふんツ? んぢちゅふっ——……?」

彼女が背伸びしても届かない、俺が少し背を屈めたらやつとマウス・トウ・マウス!

俺を引っ張り過ぎて転びそうだった、その旨を伝えたらマントで顔を隠すけど眉毛が逆ハになって早くも頭から湯気が出て来てしまっていた。

速攻パイズリするつもりだったけど、暖かくなつたお口で俺のチンポを、本気の本気にしたいとズゴズコツ……頬がポツコリ亀頭で膨らんだり、我慢汁と彼女の唾液を

ミックスした泡だらけの顔になったりと最初からトバしてる!

丁重よりも大雑把なブラッシング、もつとゆつくりやればいいのに自分の歯が傷ついてしまいそうな首振り。

それでいて俺のチンポを痛める事は許されないと、頬を俺以外には見せられるモンじゃない火を吹くようなひよつとこ口でチンポ洗浄をしてくれた。本当に火を吹く高温だったけどな……流石はムスベルヘイムの力を宿したオッドアイの持ち主だ!

「うがいもしちゃったねえ? おちんちん汁多すぎてガラガラツ……? あッ

!? ま、またおちんちんの毛……// 歯に付いてない……よね?」

「ないよつ、あれだけの勢いで歯磨きしてたのにそこを気にするのな……」
「にゆうううう……//」

おっぱいだけに「乳ううう」ってか。凍依のアウトな定義が未だに分からん。

「……………ねっ! ねっ! おちんちん……ピカピカ……// になつたからパイズリ……! おっぱいでおちんちん……! ぎゅつ……したい? おっぱいでも精子搾っちゃう?」

性欲とは別に『パイズリ欲』を設立した凍依は「四大欲求」を持つ人間になってしまった。

一日一回はチンポを今となつては誇らしく、高々と、重々と主張出来る様になつたデ

カパイオツで彼氏チンポを射精に導かなければ死んでしまう身体に再構築されちゃったかもしれない。

この前の休日はパイズリ搾取だけで終わったくらいだったからな………！ お陰様で俺のチンポも羽化したてのヒヨコちゃんから寂寥感漂う黒炭色のザトウクジラヘワープ進化したってモンだ！

似てない？ ガン勃起して反りの入ったチンポと？ このままパイズリやセックスを毎日すれば、チンポの大きさもクジラになっちゃうかもしれない！

……とは裏腹に、彼女のパイパンロリマンコは何時だつてフレッシュなピンク色を保っている！

マン肉も壁もガバ緩なザコマンコへ劣化せず、ミルフィーユな竿応えと封切り前な締め付けで俺のチンポを閉じ込めてくる！ 超越者のおまんこは常識が通用しないのだ！

「ぎゅっー？ どおどお？ 下乳でおちんちん挟むのお？ 二の腕で乳圧加えてえ………？ イはああんツくく？ 歯磨き粉の残りでにゆるんにゆるんだよくく？」
ぶニユるんツ♪ たぼんたぼんツ♪

配信32



チツッ!! イィイ イィイツッ~~~~~!!

凍依のパイズリボディたまらんチンッッ!! 白瓜みてえな形状の垂れ乳しやがって!! チンポが下敷きになってしまったア! だが全然助かりたくないぞイキ埋めにされたい!

「ムニムニイ~~~~?ズリユズリユツ~~~~? よいしょっ? わッッ! わッ~~~~?

おちんちんの角度すごッ~~~~? おっぱい持ち上げてるよお? んしょんしょ? 本気の本気だもんねえ? いっ~~~~ぱいエツチしてるから~~~~//// おっぱい殺戮されちやいそうな色になつちやつたねえ?~~~~ 闇墜ちおちんちん? 私が墜としちやつたんだあ////」

「え~~~~ずッ~~~~!? こア~~~~ア~~~~! あ~~~~! こごええ~~~~……お前エロすぎる~~~~く~~~~ッ~~~~!」

「私そんなにエツチ//…………えへへえ~~~~? レミヤ君とエツチするの大好きだもん? あ? ひやふつ~~~~? 私ねえ? パイズリでおちんちんの皮をムキムキするのも好きだよお? あ~~~~……はヒ? うふふう~~~~? 今日独りでにム

キムキしちやつてたけどねえ〜？ ムキ出しになったおちんちんお……？ 彼氏とキスしたら汗ばんじやつたおっぱいの下でえ？ ぎゅむぎゅむ？ ——
 …………… あ、んっ？ でたあ？ ゆっくり脈打ってるう……………／／／

息遣いだけでムラムラさせてくるっ！ 電話してたら凍依の胸焼けスイートボイスですぐ勃起して、テレホンセックスした事もあった。

——……………ツビユツ、グツ……………ブルツ……………ドグツ……………ドプツ……………

下乳圧迫で睾丸から精液搾られてる……………でも射精速度がゆっくりだ……………吐き出してから無音の時間が数秒作られ、片乳を持ち上げてしまう程の威力で撃ち出されまた無音が数秒……………この繰り返し。

ゴボツ……………ヌリユ……………ベトツ……………ヌトオオ

はあ……………はあ……………はあ……………俺の精巣も彼女専用を作り替えられている……………もう自分だけの身体じゃないんだ、色々な——結婚して夫婦になる——的な意味も含めて……………

「つつ……………ベツトリだあ……………？ 鳥もちかなあ……………お餅にお餅が貼り付いて……………なあんちやつて……………ほらっ、ヌトオ……………つて？」

片乳を捲つてザーメンブリッチ……………この場合は『ザーメンファイバー』を魅せてくれる挾射アフターも満点なパイズリ優等生。おっぱいから妊娠出来るならもう着床済み

だよ。

性癖を強制的に『煉清凍依』にしてしまう、後を引く甘さのロリ声でエツチな台詞回しするんだからもうっ……………！

「……………横から挿入……………いいか？」

軽めの方で両肩をトンツ、それだけでおっぱい以外は軽量級の彼女は無抵抗のままベッドに倒される。

「……………／／／ おまんこ壁がねキュッておちんちんの香りを……………感じ取って狭まってる？ その奥の二つ目の縦筋……………開いてる？ 私の身体はレミヤ君の精液飲みたがってる？ 横ハメしてください？ 赤ちゃん作らせて??」

女の子は一度イツてからが本番で言うけど、俺は『お口とおっぱいで射精してからが本番』

チンポの準備体操中に彼女も二回イツていた。しゃぶって、挟んで俺の射精と同調する様にしてた。膣はまだ弄られたりしてないのに……………チンポとマンコも互いを求めている。

「あつあああ？ んんうー？ 挿入ってきたはああ……………？ んひゅいいいいッー？ んゝがあゝッ！? はああああッ？ 幸せ子作り生セックスううゝッ？ はうゝ？ ふアゝやアゝん？ おオゝ!? んゝギヒゝ？ ギイししィィ

「??」

「ツツツ……!? マンコの中あつつつうツ!」

粘液で蜘蛛の巣作ってる入り口に亀頭を押し込んだだけで、何時もより膣が縮小していると感じ取り俺は戦慄が走ると同時に、にゆるツと子宮口ヘインターホン出来る確信もあつた。

「チンポ拒む狭さなのにチンポ簡単に根元までお迎えしてるツ！ 興奮しまくって膣壁の動きが盛んだぞ！ 強制スクロールで俺のチンポ残機むしろうとするツツ!」

チュプツ、ンツ……チュズズ……ズチュツ♪

「1ストロークごとに処女膜を壊しているのと同じだよ……このゆとりの無いマンコ!

「ブチリツ……ブツツ……膣粘液と竿粘液が絡まり合って飛沫を上げている！ この音が聞きたかつたんだお互いになツ！」

「ヒイツ？ アアアツ？ 私の発情メスホールう……？ 何時でも使って彼氏だけのチンポ扱きソケットだからああ……？ んぐうう？ はヒツ？ うニユウ……？ はあああ？ ふはふうう？」

「初パイズリ記念日にされた『おっぱい鏡餅』と同じ要領、横向きとなった身体に真上からの重力が加わってさらに俺が膝を使って彼女の両脚を閉じさせている。」

補助圧まで備わった粘膜穴、鈴口が子宮口へピンポンダツシユ！

ズチュンズチュンッ！ ずりゆずずッ！ グポブチュッ！ ブチュッ！ ブチュッ

！

ギユブルツ！ ギチツ……きゆうん……？

俺の脚腰も丈夫になつた、客観的視線で何処か冷静に見つめ直せている。一ヶ月半の間に300か400くらいは膣内射精してるんだもんな、様々な体位でセックスの見識も深まつてるし性欲も肉体も鍛えられながら『どうすれば彼女が気持ち良くなるか』考えながらセックス出来る様になつた。

勢いだけでガツツンガツツンさせる事もまああるけどさ、緩急を意識したりポルチオ探つたりして凍依の身体は知り尽くした！

配信33

♡

それでも飽きないんだから性と精のぶつかり合いつて凄いわッ！ 理屈じゃ無くてもそこは本能的な感受と欲望なんだなッ！

チンポ狂いにマンコ狂い……レミヤ中毒に凍依中毒。

「なんにもみえないのオオ？ でもレミヤくんだけはみえるう？ んっやつ？ ハッ？ ハッ？ にゅふうああ〜？ ハッーハッー？ こいびとひよのねんまくへっひよくう〜ッ？ んうキヤアア？ うらしゅじれいりぐひこひゆらへ……？ えゝゝ……？ クツ〜〜〜っー？〜〜？」

鈴口と子宮口の大きさが等しいのかもしれない。限界いっぱいまで『このメスに注ぎたい』『このオスの精液欲しい』と思わせるだけの、身体の相性がいいカップルでないところらない肉体反応であればロマンチックかも……我ながらちよつとセンチだが凍依はそう信じて止まないっ！

精子収束するっ……！ 裏筋が “むギユツ？” “され今までの力ではピストンが困難になる膣圧迫！

このまま動かなくとも十秒後にはお互い絶頂を味わっていたが……この最終局面で

こそ男が本当に女を気持ち良くしてあげられる！ 年頃の美少女が発してはならない
チンポで脳髓まで抜き取られた肉食獣の号哭。

「ホウ、ツ、ツ、!? オホオ、オ、? おああ、くくあ、あ、ツ、? ん、イ、イ、!!
おおお、あ、あ、お、? ——?」

緩めるな抑えるな止まるなー!! 精して中イキしてるけど腰振れおれえええ!!

ドボリツ……精液は確実に子宮口へ吸い込まれているけど、チンポ引いた瞬間に出来る
「膣道隙間」に精液が溜まるからコレを押し込むッ!

0 距離でのダイレクト射精もいいが、逃げ場の無い膣内で溜め込まれ凝縮された大玉
を狭い入り口へすり潰す風にねじ込むのも、凍依は大層気に入ってしまい『おまんこが
跳ねる』

敢えて12月だと言うのに暖房は切っておいた。どうせ心も身体もポカポカ……を
通り越して蒸し焼きになってしまおうから。

「……………あちゅつ……………ふい……………卵巣までレミヤ君のがあ……………はあ?
左右に広がってえ……………赤ちゃん作るところ……………満員だよお? フツ……………んう
……………はあー? ちゅつ……………してえ?……………はつぶ……………んつ?……………みゅつ……
ちゅぐつ……………んりゅつ……………?」

またシーツをオシヤカにしちまった。予備はデートの時にうんと購入してきたから

(二人で変装して隣のデパートに行ったただだけが……) いくらでも汚れていいんだけどさ……

コプツ……ニユル……ボチュボトツ……又ロオオ……

……ふ……あぁー尿道が痛くなるくらい出たーっ……三連射くらい慣れたモンだけど……腰と男性器が無気力症候群に……それでもキスしたら〃ピクンツ〃するから流石彼女だわ!

「ハッ……休むかぁ?」

「はひ……かひゆっ……? しよお……そうだねえ? だっ、抱きしめ合いながら休憩しよっ? 暖房は入れておこーね? えへへえ……? ちゅっちゅっ?」

体液だらけでベットベト、自分だけだったら気持ち悪くて一刻も早く風呂に入ってしまいたいけど……彼女と抱きついたら粘り気が強まるのに、心地いいって感じちやうプラトニックでエロティックなラブ。

配信34



「ねっ、ねっ……レミヤ君？ んっ、んふふう……？ おっぱいきもちー……？……
じゃなくってえ／＼／ ねっ！ 進路の事なんだけどねえ……」

体育座りしてる俺の両脚の間にチョコッ……入り込んできた凍依のHカツプを柔らかい圧を加えながら、根元から乳首まで捻る様な手つきでマツサージ。しながら首を後ろに倒し込んでくれたので口紅も無しにピンク色の光沢が艶美な薄皮へキス。

凍依はキスが大好きだから……『俺とスル事なんだって大好き』

ロリ顔でロリ声に低身長。おっぱいだけは発育完了済みで特注の制服じゃ無ければ上手く着れず、クラスでセクハラ三昧であったらうラグビーボール型でハンペン材質なおっぱい……！

(このおっぱいから母乳出てくるんだよな……)

全裸のまま暫くじやれ合っていたら凍依は高校卒業後の話題を振ってきた。今日話すつもりであったらしい。

「チュッ……んっ……？ レミヤくうん……？ んっくくく？ はにゅッ、はあ……？
あのね？ レミヤ君も私も少しずつ就職活動中で多分……二人とも受かると思うん

「……」

甘トロロロイスイスキながらおっぱい揉んでたら、後でおっぱいとセックスして欲しくなっちゃった……昨日は『おっぱいしよつか?』とパイズリお誘いしてきて搾られたけどもうパイズリが恋しい。

「このアパートでえ……えへっえ? 同棲するのは決定してるよねえ……?……レミヤ君の彼女になってからもうすぐ二ヶ月になるけど……考えたんだあ……?」

12月に入ってから凍依……メギド様の動画配信は激減してしまっている。

二日に一回は実施していたのに三週間以上経過しても配信回数はたったの三回。

「パイズリされなくなっちゃった?……えへっ? いやお? フェラチオもしていい? そっか……? パイズリフェラで気持ち良くなってるね? むりゆう……むにゅむにゅっ? レミヤ君の我慢汁……ピチャピチャ? チュッチュツ……?」

伝えるまでもなく俺が執拗なまでに胸ばかり集中愛撫していたから、彼女の方から察してくれた。流石俺の彼女! さすかの!

『なりたかった理想の私』の断固たる信念の下、学年トップの成績を手中に収めそれを維持し続ける努力を怠らなかつた凍依。

一級品のネットアイドル。活動している動画サイトを視聴している者で氷獄メギドの存在を知らぬ者は居ない。

だってテレビ局から『貴女の特集を組みたいです、取材をしたいです』ってメッセー
ジが送られて来たくらいなんだぜっ!? もっと有名になれるチャンスだけど彼女はリ
アルで立ち会うコンタクトはしたくないって断ったらしいけど。

「おっぱいの中でグングン硬く育ってるねえ／＼ アンツ……れるチュチュツ……
んうふ? チュツ……プア? グヂュツ……かぶチュツ? るちゅちゅつ? グツプ
……はあ……? あっ、あっ／＼ パイズリフェラで盛り上がり過ぎちゃった／＼

えつとね……批難は覚悟の上で話すね——」

パイズリフェラされながら進路の話をするカツプルは俺と凍依だけだろ絶対!

パイズリに誂え向きなおっぱいで側面と根元を挟まれながら、上唇で先端に引っかけ
ながら舌を裏筋中心に舐め刺激する。俺のチンポの味だけ知っている口内淫技も磨き
が掛かっている……!

少々熱が入りすぎてイキそうだったが、本来の目的を思い出し刺激を弱体化させ挟ん
だまま思いの丈を語り始めた。

——なるほどな。

配信35

♡

「……………いいぞっ！ 俺は凍依と一緒に生きるって言っただろ？ 確かに世間からすりや馬鹿な考えかも知れない、俺らの両親にバレたら折檻されるのは間違いないだろう。でもいいぜっ……今更そんなの怖がってられつかよ！ 俺は凍依に同意する！ 異議無し意義無しッ！」

勃起した互いの気持ちいい場所、凍依のクリトリスを俺の鈴口にピトツ、くにゅっ…………ぐりぐり。

「あ、あ、あ、っ？ おちんちんの中に私のクリがあ／＼／＼ くりゆうう…………？ はあああつ／＼？ おちんちんで啜えられちゃってるよお／＼／＼」

擦れさせ尿道へ挿入させ溢れ出る粘着液をよおく馴染ませて、正常位セックスの準備は出来上がった。

誰かに認められたい、でもリアルだとそれが出来っこないからネット界では自己提示の塊とも言えるだけ、特に男性の性癖にブチ当たる要素をこれでもかかって詰め込みまくった動画を配信して承認欲求は満たされていた。

「ハアハアハアハア？ 挿入て？ 彼氏のおちんちんで私を満たして欲しいなあ？ レ

ミヤ君は私が満たすからあ……?」

中二モードと平常モードを切り替えながらのエッチ。羞恥心を和らげる為であったが、少しずつ中二モードが顔を出す場面が減ってきていた。

自分は煉清凍依であり氷獄メギドでもある。その意識を忘れていないからセックス中であつても、無理して『氷獄メギドを出現させていた』のは理性では無く本能だったらしい……

「ああっ——! あひやああ〜? おっぱいだけじゃなくてえー? おまんこもせーえきかけてえ? ぐぶぐぶされるのきもちいいのお? ウあ? ひイン? ンッ? んああ……ンン〜ッ? レミヤくんがいてくれたらそれでいいの? わたしはもうっ——」

ぐわしっ、両手をいっぱい広げても収まるかは微妙なラインのロリ巨乳。

支えないとぶるつぶるに揺れ動いちやうから、こうして押しつけてあげないと!

………そうなんだ、今の凍依には氷獄メギドとして世界に動画を発信させるよりも俺という彼氏を手に入れて結ばれる事が出来たから必要無くなつてしまったのだ……『氷獄メギドの存在その物が』

「おっぱいいいーっ? ギゅーぎゅーされてくるしいのにすきなのおおーっ?

ンッ……ッ ああ!?! ふッ? んんんうう〜? おくまでレミヤくんできっぱ

ひい〜？ しあわせなのお〜〜？？」

ゆつくり腰を動かすつもりだったけど……催すような口調と膺の練り具合にトバされる！

ズチユンツッ！ ズチユンツッ！ ズチユツヂユ！

玉袋がおっぱいみたいに揺れて凍依のクリトリスまで当たってる！ チンポ引いた

らカリ首で中を、玉袋で外からも享樂を与えキュツ……キュツ……！ 膺壁にチンポ押し出されそうな締め……！

「力任せツクスも大好きなんだよな凍依は！」

「すきだよおお？ レミヤくんにならなにされてもイイのお〜〜？」

「〜〜〜〜つ〜〜!! チンポに悪いセリフを!! オお!! ああツ〜根元からちよん切られそうツッ!? もうちよいマンコの締めりを緩めてくれええ!!」

「むりだよお？ おちんちんほしいのおせーえきほしいのレミヤくんほしいんだもん〜あつ？ あつ？ んにやあああ〜？ は〜？ はっああああ？ ぐり〜りし

へっ……!?!? ……はらまさしえ……え？ あああんっ？ んあツ？ ああ？ つ？ イイ〜く〜アア？ しゆきいいああ？ はあああ〜〜アアア？

〜〜〜ツツ？？」

ボヂユボヂユボヂユツッ！

ヌッ！　ぐぼぐぼぐぼッ！　ご……ブヂュツ……！　ビュグ……ルツ……ド
ピュツ……

上下から圧迫されると膣壁に蔓延つてるヒダ群が、隆起して俺のチンポを削り倒そう
としてくる。全力のラブピストン、

チンポドリルで削り返した後に、射精の名を持つセメントを外壁に埋めて修復させる
……膣内射精工事了。

「ハッ……？　ハッ……ひッ……？　ああっ……？　はっ……？　はっ……？

ふああ……？　／／……？　んっ……チュツ？　ちやくつ……ふつ？　あ

ん……れちゅ……？　えへへえ……？　レミヤくうくん……？」

ビュクツ、ビュクツ……ずるう……ドポツ……ピクツ……

彼女はだいたいゆきホールド、俺は身体を逆ノの字とし最奥まで突き刺さったまま痙攣
を起こし、声帯が上手く機能出来ない代わりに射精によって気持ちを表現する。

俺の子共なんて……彼女が出来るまでは想像もしていなかった。独身で素人童貞の
まま死ぬと覚悟はしていたから。

「……名前……どうしようかね？」

「えっ……？　ちよっ、ちよつと……気が早いよお？　おおお男の子でも女の子で

もお？　カッコイイ名前がいいかなあ……なあって？　ふへへっ……レミヤ君と私の

遺伝子を受け継いだ子かあ……？ あんっ……またおまんこ……キュンツしてる？
もっ……！ もう一回？ 中出しして欲しい？」

自分の根底である『理想の自分』

俺と恋仲となったから要らなくなった、それだけ俺を大事に想ってくれている嬉しい反面彼女の人生を——いいか悪いかは別として——俺が転換させてしまったみたいで申し訳なさを抱かない訳では無い。

メギドとして人気動画配信者として歓声を浴びるよりも別の生きる術を見つけてしまった凍依。

以前に『他の奴は見なくてイイから俺だけを見て！』ってイキったセリフを吐いたけど、本当にそうなってしまった！

彼女も『動画配信とは別の生き甲斐になっている』と呟いたけど、その生き甲斐は俺な訳で……

実行する日はクリスマス当日だ。中二モードの彼女が予め『この日は絶対に配信するから午後20時に集まれ』と宣伝していた。

メギドを、メギドの中の人も、独り身で視聴者達とぼつちな悲しみを共感しあう配信……そうはならないんだ。

その日で動画配信は最後にすると彼女は決めている——

配信36

クリスマス当日の19時56分。

動画配信、メギドチャンネルの準備は整った。

リア充共は今頃セックスして中出ししてピロートークでも交わしているだろうか。

オカズを提供する名目で午前中にチャンネルメツセージを更新。即座に期待で股間を膨らませている者達からのメツセージが500件以上来る……この人気を全て……捨てる事になるんだがな。

そして20時ぴつたり……

「み、みなさ〜ん……初めまして〜じゃないですけど初めまして〜だよ……♪ 氷獄メギドです♪」

マント、オッドアイ、改造ブレザー制服、縞々ニーソックス、銀髪ツインテール。

衣装こそ誰もが認知し目を惹かれない要素の無い美少女、しかし目玉の1つであった“とある物”だけ欠落している。

「最近配信出来なくてごめんなさい……理由があつたんです。お詫びを込めましてえ……? えへえ……本日はクリスマスです♪ これ以上無いくらいにエッチな日じゃ

ないですかあ……？ 私もですねえ、去年までだったら一人で寂しさを紛らわしながら配信後はオナニー……？ カップル達のセックス妄想をオカズにしてヤツちやつてたんですけどお……？」

コメント欄は阿鼻叫喚。そりやそうだろう、メギドの姿をした誰か状態なんだから。『ちよつと……貴女本当にメギド様ですか?』

『メギド様のコスした友達なんじゃないの?』

『いやつ、あんな天下一品ロリ巨乳な子が何人も居るわけ無いだろオ?』

『何時もの中二なメギド様は何処に行ってしまったのですかー?!?』

性欲を捨て去った超越者が『オナニーしてました』とカミングアウト。

混乱冷めぬままに『やっぱメギド様も女だよなwwww』とか『俺とセックスする妄想でオナニー配信してくださいwww』だが、爆発的な勢いでコメ欄を埋め尽くしていく。

残念だったね視聴者の皆。

もう貴方達の『氷獄メギド』は死んでいるんですよ……

「最初で最後のスペシャルゲストおろろ♪ ジャジャ〜ン！ 私の彼氏です?? あ、感づいている方も居ますけどお、メギドの彼氏じゃないですからね? 『リアルな私』の彼氏ですよ〜?」

素のまままで配信している彼女に第1回目からのファン達は只管に困惑している様だ。

『キャラ壊すなしね』

『ハッ!? 彼氏居たの?? じゃあ死ねや!』

『俺らを囲いにして本命をリアルで探してたって事っすか。これだから女は……』

辛辣なコメも増えてきたけど彼女は気にせずに配信を続けている。裏切られた気分になるよなあ……俺は少し心が痛む。

「……………」

コスプレ専門店で購入してきた仮面を装着、全裸になった俺はチンポと一緒に緊張して筋を強ばらせたまま一応頭を下げる。生配信中のカメラに向かってな……

配信37

♡

『コイツがリアル彼氏??キモッ!』

『うっわ、見る目ねえなあ俺のがよっほどイケメンだわ』

『チンポ俺よりでけえwwww俺9cmwwww』

『同世代のクラスメイトとかだったら萌える!』

あつ、祝福の言葉を掛けてくれる人も居るんだ。何気にクラスメイトが的中しててドキッとするが、相変わらず彼女はコメント欄を気にもとめてない。

「……………にへえ……………? 本日の配信内容は———彼氏との本気作りセックスになりまあ〜す? ずつ〜と配信するからねえ? 私達のらぶらぶエッチをオカズにしておちんちんシコシコさせてくださあい……………? はあはあ? 彼氏のおちんちんで

私の処女は開封済みですよ?」

このサイトの利用規約に反し性的な内容を多大に含ませた物だと判断されたら、管理会社にアカウントを凍結させられる。

メギド配信はそのギリギリを狙っていたお色気サービス、だからこそ凍結を免れながら絶大な支持を得ていた。

「すんすんすんすんっ……？ つはーっ？ このおちんちんで毎日セックス？ しちやつてましたあ？」

カメラ視線を忘れずに跪く凍依。半開きになった口元からはリアルタイムで第三者の回覧を許しているからなのか、過去最大の粘度を誇る唾液を溜め込んでから直瀑。チンポに染みこませベチャベチャにしてくれる。

くりゆくりゆ……すりゆすり……ちゆくるつちゆぐつ……

『テカテカチンポエロいなあ！』

『そんなヤローはどうだっていいから俺のチンポ弄ってくださいよおおおメギドさまあああああ!!!』

『えっ、えっ……マジでセックスまでヤルの……?? もうチンポ無修正の時点でアウトだけど……』

鼻息荒くしながらグチュらせた切っ先ヘキス。ぶるぶる振るえてしまう……声を出せないのはツライ……身バレ怖いし。

「こーやって彼氏のおちんちん？ おしやぶりしてたのお………れるちゆっ？ ちゆぶはあ………れりゆれりゆ？ ぴちやつ………れぢゆぢゆ………れぢゆうう？ ぢゆばッ？ ちゆばッ？ んぐぢゆぶッ？ はくくっ？ はくくっ？ おちんちんの血管凄いでくす？ お口の中でブクブク膨らんできてまーす？ んもお？ じゆるじゆう

……じゅずじゅずッ？」

フェラ奉仕に夢中になってしまっている……凍依の肩を叩いてハツとした彼女は、わざとらしくチンポ片手に「テヘペロ」

オカズとしてご活用下さい、そんな目線でじつとりカメラを見つめながら根元まで深々啜え込んでから、尿道線を舌でビチャビチャ品性を問われる水音をカーテンで覆った配信部屋に散乱させている。

『メギド様が……疑似フェラでは上品に演じてたのにこれが本当の……』

『はぁー……?? 粗チン舐めしゃぶってメス顔かよー所詮クソビツチか!』

『クリスマスに彼氏自慢とか死ねや! てめえに投資した金返せよポケッ!』

『いやっ! 俺はイイぞ! BANされるまでやっちゃまえろ! 仮面彼氏くんや、リクとかしてOKな感じ? オナニー捗るぞー!』

配信38



突然『彼氏居ます』とカミングアウトして、突然出現した男のチンポを蹲踞姿勢で啜えてんだから死ぬってコメされても仕方ない。ただまあ、彼女はもうコメ欄を見てないので動じる事は無いんだがな。

「ぐ。ぷ。つ。ぐ。ぷ。つ。……ひゃんっ？ ひゅう……じゅぢゅぢゅぢゅくくッ？ ふー？ くばはア……？ 彼氏のおちんちん……私の涎でベチャベチャにしたらあ——はぁい？ みなさんがオナネタにしていた黒のブラジャーです？ んっ……と？ ホックが4つもありましたあ？ んへへえくく……私の生乳で興奮してくれてますかあ？ おちんちんビキビキですかあ？」

第一関節を曲げてカリ首の溝をクリクリ……俺もカメラに向けて『魅せ竿』する。

今度は親指の腹を裏筋の窪みへ押し当て、回すように刺激されたら我慢汗が小刻みに流出してカメラレンズを汚してしまった。

『んなモンどうでもいいからおっぱい映せ！』

『メギド様の本物おっぱいだあああ！ 何かツプなんですかつ!?』

『良く見えなかったです！ どうせその内にBANされるんでそれまでおっぱい見せて

！』

ファンから一気にアンチになった書き込みは多いが、凍依がHカップおっぱいをブルンツ！

ブラジャー投げ捨て地上波初公開のおっぱいを公開すれば、投げ銭が1万3万5万……もう30万！

「私のおっぱいサイズはあゝ……………内緒だよお？ 彼氏しか教えないんだごめんねえ？ この鬼反りしたおちんちん？ おっぱいで挟んでもにゅもにゅしまゝす？ ぐニユツ？ 着床汁と唾液が混ざっておっぱいの中はもうヌトヌトオ……………？ みんなもされたがってたパイズリだよお？」

ズリユズリユズリユツ……………

むぎゅつ！ ムギユルうう！

にゅつ……………ぷんツ！ にゅぷんもにゅんツ♪

縦方向に挟んだままボリューム満点おっぱいを、前腕で締め付けながら上下させる。声を出したい……………喘いで彼女の聴覚を悦ばせたい。ミサイルの中に埋もれたチンポは乳内で弾みまくっているが。

「ああっ？ 彼氏の粗挽きおちんちんすごっつ？ 乳腺から何か出て来ちゃいそうだよお

……………？ ぬりゅぬりゅつ……………たぶたぶつ？ 私のおっぱいはもう膣内射精妊娠し

ちやつてまゝす？」

『パイズリ配信と聞いてやつて来たけどマジでパイズリじゃん!?』

『でつつつかwwwwww俺もこんな巨乳にチンポ挟み扱かれたいハアハア……』

『うおおおっ！ ブラ外したら結構だらしく左右へ広がって……それを集めてチンポに乳圧集中させてるっ！ 彼氏が羨ましすぎるぞオメー!!』

『パイズリ音ヤバすぎ！ ぐちゃぐちゃして俺のチンポまで痛くなつてくるッ!』

『わっ！ 私女だけどうわっ……パイズリってこんな凄いな……やだっ……濡れてくる……彼氏さん凄い気持ち良さそう……仮面付けてるけど分かるよ腰跳ねてるし……』

チャリンチャリンッ

投資されたアナウンスが鳴り止まない。もう50万超えそう！ 学生が稼いでいい

金額じゃ無いよ！

凍依は『氷獄メギド』を消散させる決意をした。

領帝レミヤ……俺と言う彼氏を手に入れた今、もうネットアイドルとして生きる必要性が無くなってしまった。

無言のまま消滅も考えたらしいけど、今まで支えてくれたファン達への最後のプレゼント。丁度クリスマスなので『性夜』をライブ配信してアカウントがBANされるまで

エッチしまくる！ 炎上させ取り返しが付かなくなる！絶対！氷獄メギドへ戻らない決別である。

……灼熱を操る設定を持つ超越者が最後に「炎上」なんて皮肉だが彼女自ら踏み込んだ選択肢である。俺はついていくまでさ。

「つゝつゝ？ はあい……これが彼氏のドロドロ精液です？ おっぱいくばあ……？」

精液貯水ですす？」

ドロツ………

膣内射精の瞬間は思いっきり声上げしたかったが根性で耐える！ 彼女の両肩に手を付いて体重を預けながら、呼吸にも細心の注意を払って上唇を噛む。

こつてり精液を谷間で糸引かしている光景をカメラに撮らせ、セルフで乳首吸いさせる銀髪ツインテ少女は幼げな顔つきが嘘みたいにあダルト魔性で、視聴者の興奮に準じて自らも昂ぶっている。ここは昔と変わらない。

「見てくださあ〜い？ これが彼のおちんちんで貫通済みのおまんこだよお〜？ ほらあ、弄らなくなつてフェラチオとパイズリで子宮が発情しちゃってるよお……？ くぱくぱつ……下の口でもおちんちん欲しいよつておねだりおまんこ？ パンツはブラジャーとお揃いで黒でしたあ？ エッチな紐パンだよお〜……？」

くちやああ………紐パン横にズラし秘部を指で開けば糸を引きながら、膣内をド

アップで視聴者の脳裏に刻みつける。

『ヤリマンコの癖にメツチャ綺麗じゃん……シコシコ……』

『おまんこ初めて見た！ 肉トンネルん中結構グロいんだ……臓器だもんな喉チンコみてえ……』

『うひよおおおおおメギドまんこおお www www www 彼氏持ちでも俺はずつと応援する！ クリが乳首みてえに勃起しとる www www つーかパイパン www』

配信39

♡

シコってるシコってる！ 片手でキー打ちながら片手でチンポ握ってるビジョンが見えるぞ！

彼女が口とおっぱいで『確定妊娠チンポ』に仕上げてくれた、我慢汁を噴出させながらピク付くチンポに我ながら陰囊に寒気が走ってしまった快美感！ 亀頭に纏わり付いてる透明な液体と彼女の豪雨に迫られたおまんこ汁に絡める、慣れた動作でも彼女は半イキしてしまい顎を上へ向けながら膣から水鉄砲を吹きまたカメラレンズを汚してしまった。

ぬぐぢゅ、ぢゅぢゅ……ぬ、ぷんツ！

「きひいひい……？ んんんんうう……？ おチンポお……おふツ……おお？ 彼氏おちんちんで卵管も卵巣も全部埋め尽くされちゃってるによおお……ツ……?? 毎日膣内射精で私はお母さんになるの？ ぬぢゅぬぢゅされて大事な部分粘膜接触してるんらあはあ？ あああ……？」

アングルを丁度俺が一切映らない立ちバックでの生挿入。凍依とのセックスでゴム使った事は一度も無いけどな！

ジー………カメラレンズには口開きっぱで涙目になりつつも、彼氏との種付け共同行為に性衝動を限界突破まで呼び起こされダブルピースが良く似合う恍惚感極まった顔になっているのが、パソコンに映し出されている映像で丸見えだ。

『視聴者様、これが私の本当の姿なんです、彼氏とのセックスでアクメしまくってます？』

凍依は両手を掴まれてるし俺は両手を掴んでいるから物理的に手が離せない。けど、コメント打てるんなら彼女はそう打ち込んでいただろう！

眼球が飛び出そうなくらい白目向いてやがるっ！ やっぱり大事にしてきた視聴者にネット視姦されてんのと、裏切った罪悪感が一周回って批判コメすら快感として吸収変換されちまってるんだ！

『おっぱい揺れまくっておはじきみたいになってるwwww最後まで俺はメギドさんをオカズにさせて貰いますねww』

『俺らがぼつちなのに彼氏連れ込んでセックス配信とか裏切りやがって！ シコシコシコシコ』

『次は結合部見せて！ うわア!? ジョバジョバに愛液出てる………エロいけと少し引くわ………』

チャリンチャリンチャリン♪

マジカッ！ セックス配信の効果は絶大だったらしく百万超えちゃってるよッ!?

このアカウントは絶対にもう使えないけど、彼女とのセックスを世界に発信しただけでお金が手に入るんだったら普通に就職して会社行つて働くのが確かに………バカみてえに思えてくるぜッ!!

「ほお、お、？ お、ッ、？ んん、おお、お、お、ー？ ふッ？ おぼア、ア、？ んおボッ!? フ、ッ、ウ、くくく？ ひう、お、お、くくく？ あ、お、お、ッ、？ う、ぐほおおお……ッ、ッ、？」

『なんて声出してるのメギド様……そんなにセックスつていいんだ………』

『生配信だから臨場感パねえよ……ハアハア……』

『緩マンクソビッチメスしねしねしねしねしね！ 彼氏もしねしねしねくだばれしね!!』

150……180……に、200万も投げ銭が……！ たった一回の配信で……にひやくまん……!!?

この二ヶ月近くで開発されたポルチオ目掛けて、チンポの付け根までガチハマしたまま子宮を軸に回転運動。

ん、おお？ だの お、ほお、？ だの、一瞬コメ欄が静まりかえった演技無しのイキ声は賛否両論だったらしいが、支持する人にはトコトン受けた様でその人達だけで

100万以上も投げ銭してくれた!

「ふっ……? あう……お……お……? ほー? ほ……お……お……? おほお……お……お……?」
 ドブツツ!! ドブツツ!! ドビュツドビュツ……ビュグ……ヌロロ
 ロッ……

子宮口に龟头をゴリ押し侵入させ、凍依がポルチオ絶頂しているが俺は腰を止められず連続して射精を果たした。

されるがまま背筋を三日月の様にカーブさせ、未体験の幸福感に堕ちている姿もカメラは逃さずに捉えている……

アンチや掌を返した視聴者も多いが、それ以上に応援やさらなるエツチを煽るコメントが増えてもう読み返すことが出来ない。投げ銭も……さらに上昇! ネット金貨を投入したアナウンスが引つ切りなしで五月蠅いくらいだ!

「あああ……? あはア……ああア……? かひゅー……かひゅー……
 ……これ……かれしになかだし……キメラれちゃいました……? こども
 まちどおしい……ハッハッ? つう……つぎのえっち……わああ?」

あぶあぶあぶ!!?

俺の名前を言いそうになったな凍依。危ない危ない……顔と本名だけは簡便だ

ぜ。

子宮内までチンポが到達した快感と衝撃は収まらずに、膣を痺れさせてしまった彼女が回復するまで俺がコメント欄を覗いたりアンケートを作り対応する。

『次にするエッチは何がいいですか？』

『わわわっ！ 彼氏のチンポ挟むの嬉しそう……私にも彼氏出来たらやってあげたいなあ……』

『男のチンポなんでどうだっていい！ お前のおっぱいをもっと映せ！』

『中々いいチンポしてると思うぜ。反りすぎてへそに亀頭が付きそうじゃんw』

……ツ!? ぷるぷるパイズリでイカさ。……あッ。あッ。くく!! スゲツ……! ほああくく……やっぱ何回も出せちゃうわパイズリ……!

「はうう?!? アアアン? ふあひや……? まだまだあ……? 顔射されてもパイズリ続けちゃうの? はあ? はあ? ノーハンドのパイズリで連続ヌキしちゃうねえ?」

この流れつ……!?! 男の潮吹きをさせるつもりか凍依え、!?!

アレは気持ち良すぎて頭トブから封印していたが……今こそ解こう! 生配信の視聴者達に魅せつけてこそ決別だもんな!

「ハツ……ハツ? みんなに教える……ねっ? パイズリはあ……んきやつ? ひっ?

はんっ? 本当に愛し合ってたらねえ? 女だつて気持ち良くなっちゃうんだよお?? くくく? ほらほら見てくださあい? おちんちんの先っぽつくりして来ましたよお? 彼氏も最高に興奮してます? よッ? んッ? 慣性で私のおっぱいがおちんちん扱ってますよお? ひゃなッ!! はうッ! んッ? んッ?

………？ まだまだあ………？ 潮吹きさせちやいまひゅううくく？」

ムギユツ！ ムギユツ！

タプンタプンツ♪

ぽにゅっ♪ ぼるんっ♪ ぽにゅぽにゅっ♪

むズリユズリユツ！ ニユムムツ！ リユグググツ！

パイズリに次ぐパイズリ！

パイズリ！ 射精！ パイズリ！ 射精！

パイズリでヌイテパイズリで勃起させられてる！

俺も一度しか経験してない……男の潮吹き……！ 休みなく性感を刺激され続けている陰茎が、精巢に命令を下してしまっている！ おびただしく生産された発芽汁をおっぱいに！

彼女の顔へブチ撒け……お……おああ ツツ乳ヌ、キ出、あ、あ、ツッ！

「ぶひゃツ？ ああむっ？ ぶぢゅぢゆるぢゅぢゅっ？ ぢゅーぢゅ？ ぢゅっー

？ ん、ん、ー？ んつぶぶぶっ？ んふくくっ……ふうう………？ かひゅっ

………はあ？ あはああ？ まだまだ……おっぱいでしこしこ？ だして？ だして？

おちんちんがんばれ？ わたしのからだせいえきいろにして？ パンパンのふくろ

からいっしょうぶんのせーしだして？ ギユツ！ ギユツ！ ムギユツくく？ はっ

……あツ？ あああでたでたあくく？ ぐっぼん？ ぐぼつ……ちうううううくくくく？ うううううくくく？ おごぼお……？ あ？ フフーっ？ フー……フリー……ちゅー？ ゴブゴブツ……？ つぶ……ぶっん？ ふ……？ おっぱいとおくちで？ おちんちんとせーえきモグモグう……？ もつと……もつと……だして……っ？」

おっぱいで固定されたチンポが、頭上へとパイズリで過剰促進された精液を噴射させられている……

3回目、4回目、5回目……まだまだ射精出来てしまえる！

精子出し過ぎて汗だくの身体から、急速に水分が空気中に放散していき体温が冷えている……ソレをパイズリ摩擦熱で暖められていく。

『彼氏ヤバくね？ 腰震えながら口元アへってるじゃん!? 死にそう!』

『あんなにメギド様のパイズリを……！ おいお前！ そこ変われよ！ 俺が挟まれる筈だったんだぞオイツ!!』

『男の子の潮吹き初めてみたあ……エロツ……んっ!! わた、私今オナニーしながら……コメしてまっ……っ?』

『おっぱいズツシリw重そうwチンポ搾られ過ぎて皮膚が炎症しそうだなww』
「つつくくくっ? はあ……私のパイズリで彼氏はいっくぱい気持ち良くなっく

れましたあ？ 彼氏が認めてくれたおっぱい……？ 誇りになっちゃいましたあ？
 ねっ？ ねっ？ しよっ……？ セックスしよっ？ んああ……はあああ？……？ お
 ちんちんをおまんこで扱かせてください？ 私の子宮へしし……潮吹きしたのとお
 お同じ……？ くらいに精液欲しい……ですっ？！」

……凍依……ええ!! そんな瞳ん中チンポにしてマンコ押っ広げながらヒ
 クらせてたらさあ！

いくらでも精液出ちまうけど飲み干させてやるよっ！ 無限精液タンクを空にする
 つもりで膣 内 射 精 乳 内 射 精 口 内 射 精 して やる か
 ら な

「アゝアゝンゝンゝうゝゝゝ？ あゝああああつゝゝ？ ンゝッー？ ンゝ
 ンツゝゝゝはあゝゝ？ はあゝゝ？ 精液全部私に移してえ？ アゝアゝアゝ
 ？ イイイツ？ フゝうゝツ!？ ファゝアゝアゝツゝゝゝ？」

バヂユバヂユバヂユツ！

ズチャ！ ズチャツ！ ずぶぶツ！ ずぶツ！ ずぢゅぢゅンツ！

配信 終 ♡

子作り欲をソソらせる顔しやがって！

シンクロナイズドを思わせるまでに脚をピン立ちさせ、結合部が明瞭に曝け出せる松葉崩しでハメる！

『ぐちゃぐちゃピストンでヨガツてるメギド様エロ……！　こんなメギド様が見たかったんだ！　感謝するっ！』

『よりによつてクリスマスに彼氏とセックス配信するとか死ねや！　家ごと燃えちまえバーカ！』

『俺は祝福してやりてえけどなあ？　メギド様だつて中の人は普通の人間よ？』

『かれびつびゲットして自慢したくなつちやつたんでしょ。クリぼっちの俺らを想つてオカズ提供してくれてんだから女神には変わらんねえよw』

『あゝまた中出しされちやつた……もう精液なのか愛液なのか見分けつかんね……生クリームみたい……』

ブビュルツッ！　ブヂユブヂユツッ！　ドブツ……グチユツ……

はあゝはあゝ中出し回数とか射精回数とか……そんなの分からん……BANさ

れるまで凍依とエツチまくる！

「これ？ 私が作ったクリスマスケーキです？ 切ってえ……彼氏のチンポに載せちゃいましたあ？ んっ……？ 我ながら自信作だよおいただきまあす？ あむっ……ぐぢゅっ？ はぷんっ……ぱくっ……チュルッ……チュッ？ もむんもむっ……？」

『もつたいねー事すんなよwww先端にイチゴ載つけるな笑うwww』

『うほおおお！ シャンパンでワカメ酒かぁいいセンスだぁ……！ シャンパンよりもおまんこ汁が多いケド（笑）』

『チンポ糖尿になりそうwでも俺もケーキフェラされたい！』

チャリンチャリンチャリン！

「お、ごオ、?? ホッ？オオオ……ンンン……オ、オ、ツ、オ、ー？ かれしちんほお……ン、ツオオ？オ、ア、ア、ア、ッ、……？」

ぼにゅん♪ たぶんっ♪ ぷりゅりゅ♪

ズンッ！ズンッ！ズンッ！ヌヂュ！

ズボッ！プッ！ぱちゅんっ！ぱちゅ！ぱちゅっ！

『ぶるんぶるん乳揺れ騎乗位！ 大迫力だなぁメギド様ロリ巨乳だしLカップ位在りそう！』

『そこまではねーよwwwwおっぱい驚づかみ裏山あ〜!! コネコネして母乳搾ってやれや彼氏くんwwww』

『胸だけデツカイとか反則(怒怒怒)私みたいに腹の肉も付いちやえ(妬)ほわああ……おっぱい乱暴に握られてるのにすっごく感じちやってるう………』

チャリンチャリンチャリーーン!

「ひゆきなんらああ?〜? かれひとによえつひしゆきしゆぎりゆのおおツ〜ツ? にやからしい〜じゆせええ? ふうふににやりゆうう〜? みんなにやにみらへてるによにイイ? にやからししやれへ? にんしんしゆりゆんらああ〜〜?」

『口に指入れただけでイツてるよ……』

『あああー！ 全てのオナネタを過去にする配信! 炎上確定なのによくやってくれました敬礼!』

『しねしねしねしねしねしねしねしねしねしね』

『あつあつ……! お母さんになる顔してる! ああつー!! 中出しされたつ……今の絶対キちやつたでしよ……うわっ……?』

『メギド嫌いだったから丁度いいわ、運営にさっさと潰されるヤリマン』

『メギド様もチンポには勝てませんでしたと………薄い本のネタにさせて貰います』

！』

『クリスマスに種付けとはイキな計らいですなあセックスだけにw』

チャリンチャリンチャリンッ……

………クリスマスが終わるまで俺達はセックスし続けた。

投げ銭は……今でも嘘みたいだらって思うけど1000万円には軽く届いてた………氷獄メギドのネームバリューと膨大なファンを切り捨てた結果に得た物が1000万円以上。

0時を回った瞬間にアカウントが凍結され、大人気動画配信者の『氷獄メギド』は正式に消えてネット界に現れる事は無くなった。

セックス配信で四時間もBANされなかったのは、運営も魅入っていたんじゃないかって仮説してる。

腰をフルスイングさせたので俺は立ち上がれず、凍依も精液をガブ飲みしたから腹部がぼっこり膨らんでしまっていた………

おまんこ………求愛の門は『氷獄メギド』が消滅しても超越者の魔法が掛かったままなのか、ちっとも緩まらずにチンポを愉しませ続けてくれる。

妊娠中であっても出産後であっても……実質処女マンコとセックスし放題。互いの性器は互いの性器に支配されてしまっている。

——ア……………ア？ オッ……………ホ……………アア？ ハア……………
 ？ フツ……フツ……フツ……ン……………ンツ？ レミ……………ヤ……………
 ……ん……………？——

——高校を卒業した俺らは、彼女のアパートで同棲をし始めた。
 共働きつてまあそうなんだけど内定貰った会社は速効で辞めた。

じゃあニートしてるのかって？

働いては無いけどお金は稼げているよ。

凍依と一緒に……………

「こんばんはあ〜？ 今夜も私達の配信に集まってくれてありがとうございます？ リクエスト通り背面騎乗位でえ……………？ 彼氏とズコバゴしちゃいます？ 楽しんでいてねえ〜？ 宜しければチャンネル登録もお願いしま〜す？」

二日に一回、アダルト動画配信サイトで生セックスライブを行い、投げ銭を収入として生計を立てているからだ。

アカウントを作り直し『煉』と名乗っている凍依は、黒髪ショートヘアからウィッグを被らなくても月明かりを受けながら幻想的な輝きを放つ洗練された白銀の髪色に染め上げた。当然髪型は黒いリボンで結ったツインテール。

オツドアイを生み出すカラーコンタクトは無い、氷獄メギドではなくあくまでも『煉』だからだ。

メギド時代にファンだった者達も噂を聞きつけて裏であるコチラに流れて来ている。引退したアイドルがAVデビューしちまった様な感覚らしい。分かる気がする……

「くちゆくちゆつ？ はぐむつ……ちゆぢゆう……？ んッ……ぬちや……っ？

ハアハア……このガチビン彼氏おちんちん？ 妊娠済みおまんこに差し込みます？

わっ……？ ひやつ……くうううくくく？ あひひいいくく？ 彼氏おちんちん

大好きイ？ セックスはゴム使っちゃダメなおお？ 膣内射精以外は禁止くくく？

あああ？ ハッ？ ン？ あ、う、うううん、ッくくく？」

おおー！ 開始から五分経過でもう十万かっ！ 真面目に仕事なんてもう出来っこない！ セックスしてお金稼いでるって幸せだろっ！

凍依の腹部は小型のフィットネスボール代に膨張している。俺との赤ちゃんが眠っているからな、あの時のクリスマス炎上配信で身ごもったんだそうな。

俺も顔出しありで『remi』と言うハンドルネームを手にして、特徴の無い空気系

男子から一変。

このアダルトサイト限定だけど激イカセ男優として認知されて、男性配信者の人気ランキング三位に入る名声を頂いている！

女性一位は言うまでも無いが凍依だけだな！ チャンネルの人気もぶつちぎり第一位の独走！

……………凍依と同じゲームを取ろうとして手が触れ合った。

もつと思えば返せば偶然黒ブラジャーを目撃しちゃったからが本当のキツカケか……………このアパートに邪魔して、かつての配信を隣で見て、逆レイプ紛いされながらも彼女になって、そっからは——俺と凍依の人生ッ！

始まり過ぎだろオオオツ！！

ああ……………最初のエッチも背面騎乗位だったっけ！ 視聴者にはおっぱいが見えなくなっちゃうから不人気ではあるんだけど、誰がリクエストしたのやら。それを拾った凍依もきつと俺と同じ気持ちなんだろう。

「もうちよつとで出産なんですけどお？ 私のおっぱい実はJになっちゃってるんですよ？ あはっ？ 妊娠してから一回り大きくなったからとつくに知ってる？ ですかー？ 母乳がいつぱい詰まって赤ちゃんも心待ちにしているんですけどお…………ぎゅっ？ お乳搾り〜？ 乳首周辺をちよつと捻れば噴乳でぴちゃぴちゃ？ rem

i君のおちんちは母乳塗れになっちゃいましたあ？ 暫く配信はお休みになっちゃいますが明後日はしますよお？ Jカップ母乳縦パイズリでremi君をイカせちゃいますね？ 彼もおっぱいがだあくくいい好きですからねえ？ しつかりとお………おちんちん抱きしめますギューー！ むにゅんむにゅん？ 硬い部分ぜんぶ柔らかお肉に包まれてますう？」

ストレスの無い環境で過ごしているナチュラル嫁ミルク、優しい舌触りで栄養素満点の母乳を飲んでいるから俺の身体は健康その物で、性欲もさらに促進されている。

男は何歳になっても赤ちゃんの食べ物美味しく召し上がっちゃうんだなあ。パイズリで乳腺を刺激されるからむちゅむちゅ出てくる……

氷獄メギドの時よりも活き活きしている！ あれは演技だったけどこれは演技じゃ無いもんな。

必要の無い時には極力表に出ない俺らだけど、裏ではもう一つの人格——メアリー・スー——を覚醒されたかの如く………いかんいかんつ、俺はまだ『中二モード』が抜けきつてない様だ。

「!?ッ、~~~~? ハッ? ハッ………ん、ッ………外ノ世界ノ王……? 白痴ノ神の伴侶に相応しい白濁の女神が私? ……なあんちやってえ? えへへえ………? ねっ! ねっ! どおどおremi君今のくカッコイイかなあ?」

お、おう！ チンポをおっぱいに挟みながら突然の中二発言。

演技無しでも凍依はたまくにこうなるんだよなあ！

俺の彼女は『ロリ巨乳でクラスメイトで銀髪ツインテ紐パンで中二病』だからな――